

年月日	明治十七年	摘要	借方		貸方		残
			圓	錢	圓	錢	
五月十八日	何官何某何處出張旅費	一〇〇〇〇				一〇〇〇〇	
同上	同上決算			八五〇〇			
同上	同上決算返納			一五〇〇〇			
七月十八日	何々ニ付何所へ電信料	四五〇〇				四五〇〇	
八月							

假 費 旅 給 雜 假

勘定科目	俸給	雜給	旅費	備給	電信料	應費	現豫算		假出	残
							圓	錢		
書記官俸給	五六〇〇〇						四	錢		五六〇〇〇
旅費	一三〇〇〇									一三〇〇〇
備給	二七〇〇〇									二七〇〇〇
電信料	二〇〇〇									二〇〇〇
應費										二一五〇〇
總高										七〇八二五〇〇
總高										七〇九〇〇〇〇

明(十七年七月十日)治明
表高殘算豫費經度年(七十) 料信電 費 應

第四號 豫算流用及増減票書式

明治(十七)年何月何日

判士長

主任

會計局長

計理課長

何年度 雜收入 豫算 増減票

増ノ部

(經費小細科目)	〇、〇〇〇	何々ニ由リ不足ヲ生ゼシテ以テ(經費小細科目)ヨリ流用
(雜收入大小科目)	〇、〇〇〇	何々品拂下ケニ由リ増加ス

減ノ部

(經費小細科目)	〇、〇〇〇	何々ニ由リ剩額ヲ生ゼシテ以テ(經費小細科目)ヨリ流用
(雜收入大小科目)	〇、〇〇〇	何々ニ由リ減少ス

右何年度經費豫算中流用取計度或ハ雜收入豫算中増減有之候也

(第五號) 收支傳票書式

明治(十七)年何月何日

判士長

主任

會計局長

檢查課長

出納課長

計理課長

一金何程

何年度 雜收入 本拂或ハ假拂票

(經費ハ小細科目 雜收入ハ大小科目)

但何々買入代或ハ何々拂下代證書何葉添

右者何誰へ御交付或ハ何誰ヨリ御納入有之度候也

會計局ヨリ海軍省へ同十七年五月十日 東京軍法會議出動會計官心得別冊之通相定候條此段御届仕候也

東京監獄署出動會計官心得 十七年五月十日

東京監獄署出動會計官心得
十七年七月二十三日改正
追加
十九年二月海軍省丙第十
九號達ヲ以テ東京監獄署
ヲ經テ海軍ニ贈ス

一金錢出納ハ總テ豫算額ヲ基礎トシ第六號書式ニ據リ傳票ヲ製シ之ニ當該納入受取人ノ證書ヲ添ヘ會計局計理課へ送付シ而シテ其納入受取人ヲシテ同局出納課ニ就キ納受セシムルモノトス

一至急ヲ要スル費途ニ充ル爲メ豫備金若干圓ヲ兼テ會計局ヨリ請取置キ以テ一時繰替支辨シ然ル後チ速ニ前項ノ手續キヲ以テ會計局ヨリ該金額ヲ請入レ豫備金へ補填スルモノトス

一囚徒賄料ハ每一月其金額ヲ豫算シ兼テ會計局ヨリ請取置キ以テ一時繰替支辨シ而シテ毎月末精算報告シ殘金アラハ會計局へ還納シ然シテ翌月ノ豫算額ヲ請取ルヘシ

一月俸日給及宿直賄料ハ假リニ會計局ヨリ請入レ當該受取人ニ分付シ其領受證ヲ以テ精算報告シ若殘金アレハ其時々會計局へ還納スルモノトス

一豫算決定額及金錢ノ收支ハ第一號書式現金受拂簿第二號書式雜收入豫算簿第三號書式經費豫算簿第四號書式工業費簿ヲ作り會計局長若クハ監獄署長ノ檢印アル證書ニ據リ總テ之ヲ記入シ以テ毎月二

回以上豫算殘高表ヲ調製シ豫算ノ基礎ト爲スヘシ

一收入豫算ノ増減ハ第五號書式ニ據リ増減票正副ヲ製シ會計局長ノ承認ヲ受ルモノトス

一經費豫算ノ流用及増減ハ其時々第五號書式ニ據リ流用増減票正副ヲ製シ會計局長ニ送致シ同局長ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ支出スルヲ許サス

一現金ノ出納ハ毎月收支現計書及報告書ヲ調製シ翌月五日迄ニ會計局へ申報スヘシ

一收支豫算簿現金受拂簿工業費簿ノ式樣ヲ變更シ若クハ補助簿ヲ設クルトキハ會計局長ノ承認ヲ請ケルモノトス

(第一號書式)
現金受排簿

局名

年月日	明治十七年	摘要	借方		貸方
			圓	錢	
七月一日		至急ヲ要スル支出ノ繰替トシテ會計局ヨリ請入	一〇〇〇〇		四〇〇〇
七月一日		何處マテ電信料			七五〇〇
		同何號			九三五〇〇
		残高			九三五〇〇
		縮高圓	一〇〇〇〇		一〇〇〇〇
		残高			一〇〇〇〇
八月一日		一日仕拂ノ電信料會計局ヨリ請入			九三五〇〇
		票何號	七五〇〇		
		残高			一〇〇〇〇
		縮高圓	一〇〇〇〇		一〇〇〇〇

(第二號書式)
(十七)年度雜收入豫算簿

局名

年月日	明治十七年	摘要	借方		貸方
			圓	錢	
七月一日		豫算申擧高	一三五〇〇〇		一三五〇〇〇
十一月一日		何品拂下代			一五〇〇〇
		同			二〇〇〇〇
		借			一三五〇〇〇
		借			二〇〇〇〇
		残			一三五〇〇〇
		圓			二〇〇〇〇

會計局長 檢算課長 出納課長 計理課長

何年度 經費本拂或ハ假拂雜票 收入本納或ハ假納票

一金何程

(經費ハ小細科目 雜收入ハ大小科目)

但何々買入代或ハ何々排下代證書何葉添

右者何誰へ御交付或ハ何誰ヨリ御納入有之度候也

會計局ヨリ海軍省へ届十七年五月十日

東京監獄署出勤會計官心得別冊之通相定候付此段御届仕候也

會計局ヨリ海軍省へ届十七年七月二十三日

東京監獄署出勤會計官心得別冊之通改正追加候條此段御届仕候也

第五項工業費簿ノ下へ第五號書式囚徒賄簿ノ九字ヲ加フ

第六項第五號書式ニ據リ「第六號書式ニ據リ」ニ改ム

第七項同上

第九項工業費簿ノ下へ「囚徒賄簿」ノ四字ヲ加フ

第九項ノ次へ左ノ一項ヲ追加ス

一囚徒工業ヨリ生スル損益ハ毎三箇月第七號書式ニ據リ損益表ヲ作り翌月二十日迄

海軍省ヨリ會計局へ達十七年十二月十五日

主船局舊計算課事務引渡ノ儀別紙ノ通同局長へ相達候條該事務ハ自今於其局可取扱此旨相達候也

海軍省ヨリ主船局へ達十七年十二月十五日

東京監獄署出勤會計官心得別冊之通改正追加
十九年二月八日各監獄出張會計局事務取扱順序ヲ定ム

會計局主船局計算課ノ事務ヲ管ス

舊計算課主管ノ事務ハ會計局へ可引渡此旨相達候也

會計局ヨリ海軍省へ上申 十八年一月十六日
今般御新設相成候機關主計兩本部ノ經費ノ義ハ本省費ヲ以御支辨相成而シテ之レカ出納整理向ハ會計局ニ於テ擔當致シ可然哉此段仰高裁候也 同年一月二十四日決裁

會計局ヨリ海軍省へ上申 十八年一月二十二日

客年二月丙第二十四號ヲ以會計局事務章程第二項へ下士以下家族扶助金ノ九字追加相成候ニ付舊軍務局ヨリ家族扶助金ノ事務引繼相成候處右帳簿類甚不完全ニシテ實施上懸念不尠候間今般別紙雜形ノ如キ戸籍表調製致シ度候尤モ爾來下士以下徵募ノ際原籍ヨリ差出シ候戸籍明細書ニ因リ謄記シ常ニ戸籍ニ關スル事件該府縣ヨリ届出ニ據リ其家族ノ増減ヲ訂正シ戸籍ノ異動ニ際シ扶助金過渡等ノ憂無之様致度候條別表ノ通半葉七千枚印刷仕度此段仰高裁候也 同年二月四日決裁

(別紙)

本籍	番號	年	期	家	族	人	名
寄留籍 <td>等級 <td>姓名 <td></td> <td>祖父</td> <td>祖母</td> <td>父母</td> <td>母</td> </td></td>	等級 <td>姓名 <td></td> <td>祖父</td> <td>祖母</td> <td>父母</td> <td>母</td> </td>	姓名 <td></td> <td>祖父</td> <td>祖母</td> <td>父母</td> <td>母</td>		祖父	祖母	父母	母
寄留籍 <td></td> <td></td> <td></td> <td>妻</td> <td>兄弟</td> <td>弟</td> <td></td>				妻	兄弟	弟	
寄留籍 <td></td> <td></td> <td></td> <td>子</td> <td>姉</td> <td>妹</td> <td></td>				子	姉	妹	
住	入籍年月日	誕辰		朝	姪	嫂	伯父
				叔母			

會計局主計兩本部ノ事務ヲ管ス
十九年一月二十九日會計局ヲ改組ス上ニ據リ
十八年二月四日新設軍務局ノ事務ヲ支出方國庫局事務ノ件發給スヘ下ニ據リ
會計局下士以下家族扶助金ニ際スル戸籍表雜形ヲ定ム
客年二月丙第二十四號ハ内局ノ部ニ據リ
十九年三月海軍省令第十號ヲ以テ下士家族扶助金ニ關スル事務ヲ國庫局領守府ノ主管トナス海軍二領守府ノ部ニ據リ

會計局ヨリ海軍省へ同十九年二月八日
各廳出張當局出納課員事務取扱順序別冊ノ通相定施行候條此段御届仕候也

會計局出納課金繰出納
順序ヲ定ム

會計局出納課金繰出納順序 十九年二月十三日

第一條 會計局出納課ハ海軍全般ノ收入經費ヲ國庫ニ對シテ出入スルノ事務ヲ取扱就中本省ニ屬スル
收入諸費其他各廳會計主務官ノ負擔ニ屬セサル諸般ノ收支ヲ執行スル所トス

第二條 本省ニ屬スル收支トハ左ノ各廳ニ係ル諸費ヲ云フ

- 一 大臣官房
- 二 軍事部
- 三 軍務局
- 四 艦政局
- 五 會計局並主計學舎
- 六 將官會議
- 七 造船會議
- 八 兵器會議
- 九 購買委員
- 十 水路部並觀象臺
- 十一 衛生部並軍醫學舎
- 十二 東京病院
- 十三 東京軍法會議
- 十四 東京監獄署

第三條 各廳會計主務官ノ負擔ニ屬セサル收支トハ左ノ諸廳ノ外臨時ノ收入支出ヲ云フ

各廳派用會計局出納課員
事務取扱順序ハ十九年二
月八日定ムル所ニ據ス

- 一 橫須賀鎮守府並橫須賀軍法會議同監獄署武庫倉庫軍樂隊長浦水雷武庫橫須賀病院兵庫用所
- 二 各艦船
- 三 橫須賀屯營
- 四 浦賀屯營
- 五 長浦水雷營
- 六 兵學校
- 七 機關學校
- 八 橫須賀造船所
- 九 小野濱造船所
- 十 兵器製造所
- 十一 火藥製造所
- 十二 長崎出張所
- 十三 唐津石炭用所

第四條 左ノ各廳ニハ會計局出納課員ヲ派出シ各廳派出會計局出納課員事務取扱順序ニ據リ執行セシ
ムヘシ

- 一 水路部並觀象臺
 - 二 衛生部並軍醫學舎
 - 三 東京病院
 - 四 同軍法會議
 - 五 同監獄署
 - 六 橫須賀建築掛
- 第五條 左ノ各廳ハ會計局出納課ニ於テ直接ニ出納ヲ執行ス

- 一 大臣官房
 - 二 軍事部
 - 三 軍務局
 - 四 艦政局
 - 五 會計局並主計學舍
 - 六 將官會議
 - 七 造船會議
 - 八 兵器會議
 - 九 購買委員
 - 十 各廳會計主務官ノ負擔ニ屬セサル臨時ノ收支
- 第六條 第四條第五條ニ屬スル收入並ニ支拂ハ左ノ諸條ニ據リ執行ス
- 第七條 土地家屋貸下料不用品賣却代等稅外收入トナルヘキモノハ其事故金額ヲ詳記シタル調書ニ其所轄長捺印セル證明書ニ據リ其金額ヲ領收ス
- 第八條 官舎稅ハ官舎貸渡規則ニヨリ定メタル稅額ヲ詳記シタル調書ニ據リ金額ヲ領收スルハ第七條ニ準ス
- 第九條 俸給日給ハ奉任官以上ニ在テハ官報掲載ノ任命ニ據リ判任以下ニ在テハ官房長日給雇員ニ在テハ各所轄長ノ捺印セル通牒ニ據リ俸給名簿ニ登錄シ給與規則ニ照ラシ計算書ヲ作り其定日ニ於テ各本人ニ支給ス
- 第十條 旅費日當ハ內國旅行ハ本人ノ請求書ニ所轄長與印アル證書ニ據リ支給シ外國旅行ハ官報掲載又ハ官房長ノ捺印アル通牒ニ據リ本人ノ請求書ヲ徵シ計算書ヲ作り大臣ノ認可ヲ得然ル後之ヲ支給ス
- 第十一條 内外國旅行中ニアリテ旅費日當ノ不足ヲ生シ渡繼ヲ請者モ亦前條ノ手順ニ據リ之ヲ送付ス

官舎貸渡規則ハ九年五月
第五十三號送付以テ定ム
ル所土庫門部第二節ニ
ス

- 第十二條 宿直賄料諸手當郵便電信稅並ニ人夫舟車雇賃等ハ其度數金額ヲ詳記シタル計算書ニ所轄長與印アル書面ニ據リ支給ス
- 第十三條 大祭祀日賜饌料ハ官內省ヨリ受人其當日登廳ノ官吏ニ直接ニ支給ス
- 第十四條 需用物品及諸器具等購買代價支拂ハ該品賣上人ヨリ其品種類數並代價ヲ詳記シタル賣上書ニ其購買品及品質検査領收ノ權アル官吏ノ連署セル證明書ニ據リ其代價ヲ正當賣上人若クハ其代理人ヘ支拂フ
- 第十五條 購買物品ヲ領收セサル前ニ於テ抵當ヲ收メシメ其代價ノ全額若クハ幾分ヲ支拂ヘキ約定アルモノハ其賣上人ノ請求書ニ該約定ヲ爲スノ權アル官吏ノ與印アル證明書ニヨリ正當賣上人ヨリ其抵當品ヲ預リ然ル後之ヲ支拂フ
- 第十六條 前條ノ場合ニ於テ其約定書ヲ要用ト認ムルトキハ其原書又ハ寫シヲ出サシム
- 第十七條 建築又ハ營繕費ハ其工事請負人等ノ金額請求書ニ對シ其金額ニ相當セル工事ヲ爲シタル旨該工事委託者若シクハ監督者ノ證明書並其所轄長ノ與印アル證書ニ據リ本人ヘ支拂フ
- 第十八條 前條工事未著手若シクハ半工事中前金ヲ請求スル者ハ第十五條ノ例ニ準ス
- 第十九條 軍艦製造費同修復費ノ支拂ヲナスモ第十七條第十八條ノ例ニ準ス但シ官設ノ造船所製造所等ニ支拂フモノハ第十八條ノ例ニヨリ限リニアラス
- 第二十條 會計局供給課用度課ニ屬スル諸費給與ニ係ルノ諸費ヲ除クノ支拂モ亦第十二條十四條十五條十六條ノ例ニ據リ該課長與印アル證明書ニ局長ノ認可ヲ得テ之ヲ支拂フ
- 第二十一條 本課ノ出納ハ前各條ノ手續キニ據リ之ヲ取扱フト雖モ各廳ノ豫算額ニ超過セル金錢ハ一切仕拂ヲナサス故ニ各廳ノ事業ハ總テ細豫算額ニ基キ之ヲ計畫シ苟モ豫算ニ超過スル支拂ノ要求ナキヲ要ス
- 第二十二條 各廳ニ於テ前條豫算實費ノ對照ヲ明ニスル爲メ豫算簿ヲ備ヘ仔細ニ登記シ若シ豫算ニ超

豫算條規ハ十八年三月第
十一號ヲ以テ定ムル所
財政部豫算ノ部ニ屬ス

過スルノ費用アリテ止ムヲ得サルト認ムルモノハ其實行前ニ於テ豫算條規ニヨリ流用増減ヲ爲スヲ
得ヘキモノハ會計局長ヲ經由シテ大臣ニ要求スルノ手順ヲナスヘシ
第二十三條 本課出納上ニ要用ナル諸給與請求書物品代請求書及前金請求書等ノ式様ハ左ノ如シ(式様
會計局ヨリ海軍省ヘ届十九年二月十三日)
會計局出納課金銭出納順序別冊ノ通相定施行候條此段御届仕候也
追テ第二十三條式様ハ進テ調整ノ上進達可仕候也

會計局出納課内規 十九年二月二十三日

出納課主管ノ事務ハ明治十九年一月二十九日制定ノ海軍條例第二十六條第一項ヨリ十項ニ示サレタル
要領ニ基キ更ニ細則ヲ設ルコト左ノ如シ

- 第一條 出納課ヲ分テ調理正算納拂往復及派出調理ノ五掛トス
- 第二條 調理掛中給與用度費造船費扶助金ノ四擔當員ヲ設ケ該費ニ係ル收支ノ明細證書ヲ徴シ規則ニ
照ラシ計算シ式ニ據リ傳票ヲ作り正算掛リニ送附スルヲ任トス
- 第三條 調理掛ノ給與擔當員ハ俸給雜給旅費手當ニ係ル諸規則ヲ熟知シ左ノ事項ヲ掌理スヘシ
 - 第一 本省各廳(大臣官房軍部軍務局艦政局會計局)勤務ノ諸官員諸雇等ノ俸給旅費諸手當等ノ
事
 - 第二 各省各廳ニ所轄スル雇外國人ノ俸給宿料旅費諸手當等ノ事
 - 第三 本省各廳ヨリ外國ニ派遣セル諸員ノ俸給旅費諸手當等ノ事
 - 第四 本省各廳ヨリ派遣セル外國留學生ノ學資金旅費等ノ事
 - 第五 待命非職諸員俸給ノ事
 - 第六 大祭祝日賜餼料ヲ宮内省ヨリ領收シテ各員ヘ配付ノ事
 - 第七 官報購讀義務者ヨリ官報代價ヲ徵集シテ驛遞局ヘ送付ノ事
 - 第八 乘馬飼養料ヲ徵集シテ陸軍省ヘ送付ノ事

第九 右諸項ノ外本省費ノ支辨ニ係ル諸手當報勞金訴訟費等ノ事

第十 右諸項ニ係ル金額細豫算ノ調理及ヒ其流用増減調査ノ事

第十一 主管ノ事務ニ付局外ニ關係スル照會協議報告等ノ文案起草ノ事

第四條 調理掛ノ用度費擔當員ハ用度課ト氣脈ヲ通シ本省各局營繕費需用品運搬通信馬等ニ係ル諸
規則ニ通曉シ左ノ如ク掌理スヘシ

第一 本省並所屬各廳營繕諸費ノ事

第二 同備品消耗品代ノ事

第三 同書籍印刷物諸費ノ事

第四 郵便電信稅及運搬費ノ事

第五 饗應接待費等ノ事

第六 廐馬費及馬車修繕費ノ事

第七 諸雇人被服費ノ事

第八 右諸項ノ費用細豫算ノ採集及其増減流用調査ノ事

第九 諸項ニ係ル照會往復文案起草ノ事

第五條 調理掛ノ造船費擔當員ハ艦政局ト脈絡ヲ通シ軍艦製造費機裝費同修復費ノ豫算ヲ熟知シ左ノ
如ク掌理スヘシ

第一 内外國注文新艦代及備付大砲水雷器並本邦回漕費等ノ事

第二 新艦船機裝ニ係ル諸費ノ事

第三 艦船修費費ノ事

第四 以上諸費豫算増減調理ノ事

第五 以上諸項ニ係ル照會往復文案起草ノ事

第六條 調理掛中扶助金擔當員ハ下士卒家族扶助金及恩給賜金下士卒慰勞金券等ニ係ル事ヲ掌ル故ニ

十九年三月海軍省令第十
號ヲ以テ下士卒家族扶助

其規則ヲ熟知シ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

- 第一 下士卒家族扶助金ニ係ル原簿整理ノ事
- 第二 下士卒進退並家族異動届書等ヲ徵集シ原簿記入ノ事
- 第三 死亡轉免者一時賜金授受ノ事
- 第四 下士卒慰勞金券取扱及其帳簿整理ノ事
- 第五 前項諸費ノ細豫算調理ノ事
- 第六 主管ノ事務ニ付照會協議等ノ文案起草ノ事
- 第七條 正算掛ハ本課出納ニ係ル各艦艦船ノ收支傳票ヲ通算シ就中本省費及造船費扶助金其他各官廳會計主務官ノ負擔ニ屬セサル臨時ノ收入經費ノ傳票ヲ得テ校正正算スルヲ任トス故ニ其材料ニ供スヘキ出納諸式樣並給與規則ヲ熟知シ調理掛及派出調理掛ヨリ送付スル傳票證票ヲ詳細ニ正算スヘシ則チ本掛主管ノ事項ハ左ノ如シ
- 第一 各艦艦船等會計主務官ヨリ送付スル收入經費ノ傳票ニ式ニ照ラシ通算ノ事
- 第二 本省費及造船費扶助金ニ屬スル收入經費決算ノ傳票證票ハ規則ニ照ラシ詳密ニ調査正算ノ事
- 第三 第二項ニ係ル收入經費ノ決算上ニ於テハ検査官ノ質問ニ應答ノ事
- 第四 本課員ノ派出スル各艦一時ニ臨監シ該員所管ノ現金及ヒ簿記證書等ヲ點檢調査スル事
- 第五 收支豫算簿ノ設アル各艦ヘハ局長ノ命ニヨリ臨時出張シ該簿ヲ閱覽スルコト
- 第六 本掛主管ノ事務ニ付局外ニ發スル照會推問協議等ノ文案起草ノ事
- 第八條 納掛掛ニ豫算決算、現金切手、主簿、三擔當員ヲ置キ正算掛ヨリ送付スル傳票證票ヲ受ケテ收支ノ切符ヲ調製シ簿記註並本課主管ノ收支豫算決算並準備金ノ出納ヲ專務トス故ニ出納諸規則傳票式樣ヲ熟知スヘシ
- 第九條 納掛掛ノ豫算決算擔當員ハ本課主務諸費ノ豫算ヲ統理シ同費ノ決算整理ノ事ヲ任トス其事項

左ノ如シ

- 第一 本省費及造船費扶助金其他各艦主務官ノ負擔セサル諸費ノ豫算ヲ採集統理スル事
- 第二 目以上ノ豫算簿ヲ備ヘ實費收支ノ比較ヲ明ニスル事
- 第三 豫算流用増減アルトキ調理掛ノ通知ヲ得テ豫算簿ニ記入スル事
- 第四 前諸費正算收支濟ノ證票ヲ集メ決算帳調製スル事
- 第五 同決算報告書ヲ作ル事
- 第六 前項ニ係ル照會往復文案起草ノ事
- 第十條 納掛掛ノ現金切手ノ擔當員ハ國庫ニ對スル收入經費ノ傳票證票又ハ支拂切手ヲ調製シ現金受拂ノ事ヲ整理スルヲ任トス其事項左ノ如シ
- 第一 國庫ニ對シ納受ノ傳票證票ヲ作ル事
- 第二 諸應爲替送付金取扱ノ事
- 第三 諸應收入金受込ノ事
- 第四 本課主務タル收入金ヲ大藏省ヘ納入ノ事
- 第五 本課主務タル諸費ノ傳票證票ヲ正算掛ヨリ受ケ支拂切符ヲ製シ正當受取人ヘ交付ノ事
- 第六 現金受拂簿及ヒ其補助簿ヲ記注シ之ヲ管守スル事
- 第七 準備金ノ出納簿ヲ記注シ之ヲ管守スル事
- 第八 宿直預リ豫備金出納簿ヲ監督スル事
- 第九 諸人ノ封金一時預リ取扱ノ事
- 第十 金庫ノ開閉ニ關スル事
- 第十一 出納上ニ必要ナル諸員ノ印鑑ヲ領置スル事
- 第十二 主管ノ事務ニ付照會協議等文案起草ノ事
- 第十一條 受掛掛ノ主簿擔當員ハ日記簿原簿其他ノ補助簿ヲ主管シ其記注ヲ爲ス者ナレハ能ク簿記法

ヲ熟知シ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

- 第一 日記簿原簿其他ノ補助簿ヲ登記シ該帳簿管守スル事
- 第二 本課長ノ主務タル收入經費ノ現計書報告書調製ノ事
- 第三 前諸項ニ係ル傳票證票ヲ集メ決算擔當員ヘ送ル事
- 第四 主管ノ事務ニ付照會協議報告等文案起草ノ事

第十二條 往復掛ハ本課恒例外ノ諸文書ヲ主務者ヘ送付シ又局外ニ發スル諸掛ノ文案ヲ校合淨書シテ之ヲ配送シ兼テ官報諸達類ヲ課員ニ速達セシムルヲ專務トス掌理ノ事項左ノ如シ

- 第一 本課恒例外ニ屬スル諸向ノ公文ヲ受付シ件名簿ニ記注シ主務ノ諸掛ヘ配送スル事
- 第二 課内主務掛ヨリ局外ニ發スル公文ヲ校合淨寫シ之ヲ配送スル事
- 第三 課内諸掛ヘ配送スル事件ニシテ回答上答ノ期日アルモノハ其期ニ後レサル様注意督促スル事
- 第四 上申書同書又ハ局外ヘ發シタル文書ニ對シ指令回答延滞ノモノハ之ヲ督促スル事
- 第五 本課ノ諸記録ヲ編纂シテ之ヲ保存スル事

第六 本課諸掛ノ報告等ヲ採集シ又ハ編纂シテ局長ニ呈スル事

第十三條 派出調理掛ハ其派出應ノ異ナルニ依リ其事務モ亦同シカラスト雖モ概略第三條四條ノ手續ニ據ルヘシ

會計局ヨリ海軍省ヘ屆十九年二月二十三日
 海軍省ヨリ會計局ヘ達十九年三月五日
 海軍省ヨリ會計局ヘ達十九年三月五日

- 會計局用度所事務ノ細目ヲ定ム
- 第一 省中需用品ノ購買供給ニ關スル事項
 - 第二 本省所屬ノ土地家屋ヲ管理スル事及之ニ關スル事項

會計局ヨリ海軍省ヘ上申 十九年四月八日

- 第三 本省及所屬各處ノ營繕ニ關スル事項
- 第四 本省及所屬各處建物ノ保護及燬燼燈器ニ關スル事項
- 第五 省中用電信郵便切手受拂及公文書籍印刷物ノ遞送ニ關スル事項
- 第六 省中用官報新聞紙書籍ノ購求ニ關スル事項
- 第七 省中ノ印刷物ニ關スル事項
- 第八 監護用使給仕管轄及省中ノ取締ニ關スル事項
- 第九 諸門艦舟車乘用券ニ關スル事項
- 第十 馱車馬丁人夫ノ取締ニ關スル事項
- 第十一 鑿應ニ關スル事項
- 第十二 本課主管ノ經費豫算ニ關スル事項
- 第十三 本課主管ノ事務及其費用ノ統計報告ヲ整理スル事

會計局ヨリ海軍省ヘ上申 十九年四月八日

本省所屬各處定備定用物品ノ定數先般御改革以來實際上未タ相定候場合ニ至兼候ニ付其品柄ノ不都合無之分ハ渡方取計來候處追々臨時品ニ涉ル者不少然處舊調度局取扱ノ節ハ金高ノ多少品柄ノ輕重ニ拘ハラス一々各應ヨリ上申裁可ヲ得御達ヲ以渡來候得共譬ヘハ番號又ハ何局廻シ木印ノ如キ或ハ定木窓掛等種々少細ノ物品別テ此際要求不少候處一々上請致候テハ實際日數ヲ要シ差支可申ト存候條就テハ事實必用ト認候者ニ限リ臨時品ト雖モ一廉金高五十圓以内ノモノハ當局限渡方取計可然哉 即日決裁

追テ諸印刷又ハ書籍等ノ類モ本文ニ準シ取計申度

海軍省ヨリ會計局橫須賀鎮守府ヘ達 十九年九月七日

建築請負締約ノ儀ハ督買部ノ主務ニ候處一廉金千圓未滿ノ新築ニ係ル締約ニ限り自今其局(府)ニ於テ

建築請負締約一廉金千圓未滿ノ分ハ會計局並横須賀鎮守府ヲシテ取計ニ取扱ハシム

會計局各處上申ノ臨時品金高五十圓未滿ノ分ハ局限リ渡方取計ハシム

直ニ取計フヘシ
右訓令ス

金錢及需用品取扱手續 十九年九月二十四日

- 第一條 兵學校移轉ニ係ル經費ノ出納ハ會計局ノ整理ニ屬スト雖モ之レカ豫算ノ計畫及其使用方等ニ至テハ總テ本委員ノ先任官之レヲ處理スルモノトス
- 第二條 前條移轉費豫算ノ月額仕譯書及訂正仕譯書追仕譯書等ハ收入經費出納細則第二十五條第二十六條第二十七條ニ準據調成シテ會計局ヘ送附スルモノトス
- 第三條 本委員ニ於テ前條移轉費ノ支出ヲ要スルトキハ其旨會計局ヘ報知シ之レカ送金ヲ請求スルモノトス但本條送金ハ收入經費出納細則第三十二條ノ手順了ノ後ナラテハ請求スルヲ得ス尤同則第三十三條ニ該當スルモノハ此限リニ非ス
- 第四條 俸給諸給應費旅費ニ係ル諸費ノ送金請求モ亦前條ノ手續キニ同シ但恒例ニ屬スル委員ノ俸給ハ請求ヲ要セス毎月或ハ期節毎ニ會計局ヨリ直ニ送附スルモノトス
- 第五條 第三條第四條ニ據リ送金即チ之レカ仕排切符若クハ送金手形等ヲ受取タルトキハ直ニ其領收證書ヲ會計局ヘ送附スルモノトス
- 第六條 本委員ニ於テ送金ヲ受クルトキハ其取扱主任者ハ該金庫ニ就キ現金ヲ領收シ而テ之レカ金額配付ノ手續ヲナシ且其金員ニシテ正當受取人ノ證書ヲ徴スルモノ、如キハ其證書ヲ大成シ之レニ通算表ヲ添附シ直ニ會計局ヘ送附スルモノトス
- 但本條證書ハ本排ニ罹ルモノハ正副二通假排ニ屬スルモノハ正一通副二通宛ヲ要ス
- 第七條 送金ヲ受ケタル金員ノ受排ヲナス爲メ本委員ニ於テハ左ノ帳簿ヲ設ケ之レカ收支ヲ明瞭ナラシムルモノトス但左項ノ外尙ホ補助簿ヲ設クルノ必用アルトキハ適宜設用スルコトヲ得
- 一 現金受排簿

兵學校移轉地派出員金
及需用品取扱手續ヲ
定ム
二十一年七月並出員ヲ解
收入經費出納細則八十九
年三月海軍官制第三〇二
號通リ以テ定ムル所財政
部出納規則ノ部ニ載ス

一 經費内譯簿

- 一 假出金内譯簿
- 第八條 送金ヲ受ケタル金員ノ内假排ニ係ルモノノ決算ニ至リシトキハ之レカ決算報告書ヲ調成シ精算證書ヲ添附シ會計局ヘ送附スルモノトス
- 第九條 毎月訓排金勘定報告書ヲ調製シ翌月十日迄ニ會計局ヘ送附スルモノトス
- 第十條 會計年度内ニ於テ其仕排フヘキ費項ノ支出ヲ完了セサルモノ又ハ會計整理期限内ニ於テ其仕排ヲ完結セサルモノ等アルトキハ收入經費出納細則第四十五條及四十六條ニ準據シ各其報告書ヲ調製シ會計局ヘ送附スルモノトス
- 第十一條 臨時急需ノ費用ニシテ送金請求ノ違ナキトキ應用スル爲メ豫備金若干備ヘ置クモノトス但豫備金受排報告等ノ義ハ該管守順序ニ據ルヘシ
- 第十二條 前條ニ據リ豫備金ヲ以テ辨用シタル金額ハ直ニ一定ノ手續キ即チ送金ヲ請求シ而テ該金員ヲ領入シ之レカ補填ヲナスモノトス
- 第十三條 第十一條ノ豫備金ハ本委員ニ於テ保管シ而シテ左ノ帳簿ヲ設ケ其收支ヲ明瞭ナラシムルモノトス
- 一 豫備金受排簿
- 第十四條 本委員ノ使用ニ係ル廳中需用品ニシテ派出地ニ於テ購買スルヲ便ナリトスルモノハ直ニ之レカ買入ヲナシ其他ハ會計局ヘ請求シテ該局ヨリ受取ルモノトス但派出先キニ於テ直ニ買辦スルモノハ豫テ定ムル豫算金額内ニ限ルヘシ
- 第十五條 前條需用物品受排ノ爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ明瞭ナラシムルモノトス
- 一 物品受排簿
- 一 電信切手仕排簿
- 一 郵便切手仕排簿

守備隊八十九年五月海
軍官制第三七號通リ以
テ定ムル所財政部出納
規則ニ載ス

右ハ本假仕拂トモ別紙證書ノ通相違無之候也

年月日

兵委勘第何號(毎款別册トス)

何年度軍事費何月分受拂勘定報告

一金

此譯

金

内

一金

此譯

金

内

金

内

金

内

内

内

何々

何々

元受ノ部

前月ヨリ假拂越高

本月會計局ヨリ現金領收高

内金(正貨アルトキハ内譯ニ掲載ス以下倣之)

何貨

何貨

何貨

何貨

何貨

何貨

何貨

何貨

何貨

精算高

仕拂ノ部

何々

何々

何々

何々

何々

内

金

金(毎月末日ノ假拂残高則翌月へ繰越シ分ノヨリ掲クヘシ)

内

金

内

金

内

金

内

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

何々

現金受拂簿

金銀及需用品取扱手續ハ
別冊ノ部ニ載ス

右之通相違無之候也
年月日

凡例

- 一本簿ハ金銀及需用品取扱手續第三條四條ニ據リ會計局ヨリ送金ヲ受ケ而シテ本委員ニ於テ受授ノ取扱ヲナス金銀ノ出納ヲ明晰ニ掲擧シ其受拂ヲ詳ニシ以テ考憑ニ供フルモノトス
- 一借方各欄ニハ其受入等アルトキ經費ニ在ツテハ目毎ニ金員ヲ掲擧スルモノトス
- 一貸方各欄ノ残高ハ借方各欄ノ元受額ヨリ其拂高ヲ扣除シ以テ直ニ現殘金ヲ容易ニ一目瞭瞭ナラシムルノ主意ニシテ敢テ複式ノ如キ彼我對照等ノ法ニ依ラサルモノナレハ金員ノ掲載ニハ常ニ注意ヲ加ヘ專ラ誤謬ナキ様務ムヘシ
- 一雜ノ欄ハ一時ノ備金若クハ臨時ニ係ル取扱金ノ如キハ皆ナ本欄ヘ記入スルモノトス

經費内譯簿

- 一本簿ハ俸給及諸給廳費旅費及營繕費等會計局ヨリ送金ニ係ル金額ニシテ其金員受授ヲ掲擧シ豫算支出ノ景況ヲ示スモノナリ
- 一本簿ハ豫算ノ裁定ニ依リ其金額ヲ掲ケ而シテ本拂假拂ノ別ナク之レカ支出ヲ明晰ニ登載スルモノトス
- 一戻入ノ欄ニハ還納若クハ金員支出ニ際シ之レカ支出ヲ要セサルコトノ發覺ニ係ルモノ、如キモ亦本欄ヘ記入スルモノトス
- 一假出金内譯簿
- 一本簿ハ金員支出中假拂ニ係ルモノ、目ヲ詳密ニ掲ケ其整未整理ノ金額及ヒ之レカ順末ヲ示スモノナリ

豫備金受拂簿

- 一本簿ハ臨時急需若クハ派出地ニ於テ物品買入又ハ近方派出旅費及ヒ雇船賃等ノ如キ臨時支出ニ對シ之レカ填入戻還ニ係ルモノ、受授ヲ詳細ニ掲擧スルモノトス
- 右ハ專ラ帳簿組織ノ目的ト旁ヲ記入上ノ大要ヲ概載シタルモノナレハ其詳細ニ涉ルモノ、如キハ別ニ掲クル所ニ據ルモノトス

兵學校ヨリ海軍省ヘ届十九年九月二十四日
兵學校移轉地即廣島縣下江田島派出員ニ於テ金錢及帶用品取扱方ノ議會計局協濟別冊ノ通り取極メ候條此旨御届仕候也

海軍大臣秘書官ヨリ會計局ヘ通牒 十九年十月十九日

任官聘免並職課等ニ關スル受書ノ義ハ内閣ヘ差出スヘキモノヲ除クノ外官房内記掛ニ於テ認知ノ印ヲ捺シ候上貴局ヘ送付候條貴局ニ於テ保管方可然御取扱相成度此段申進候也

會計局任官聘免並職課等ニ關スル受書ノ義

會計局内ニ別途費整理委員ヲ置キ左ノ事務ヲ掌理セシム
委員ヲ區々掌理事項ヲ定ム
二十年四月海軍省訓令第三十六號ヲ以テ廢止ス

海軍省達 十九年五月十八日 要第三三五號海軍一般

會計局内ニ別途費整理委員ヲ置キ左ノ事務ヲ掌理セシム

- 右訓令ス
- 一 別途金ノ豫算整理ニ關スル事項
- 二 別途金要求ニ關スル事項
- 三 支出額仕譯書調整ニ關スル事項
- 四 出納報告調理ニ關スル事項
- 五 別途金決算報告ノ整理ニ關スル事項

海軍省ヨリ別途費整理委員ヘ達 十九年六月十日

其委員處務規程別冊ノ通定ム

別途費整理委員處務規程

- 第一條 別途費整理委員ハ別途金支辨ニ屬スル一切ノ會計ヲ統理スルモノトス
- 第二條 委員ノ事務ヲ分テ左ノ三掛トス
 - 調理掛
 - 出納掛
 - 記事掛
- 第三條 調理掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 收支ノ豫算統理ノ事
 - 二 支出金要求書及其配付金ノ調査ニ關スル事
 - 三 豫算ノ流用及其報告書ノ調整ニ關スル事

別途費整理委員處務規程ヲ定ム
二十年四月海軍省訓令第三十六號ヲ以テ別途費整理委員ヲ廢止ス

- 四 歲出入報告書調査ノ事
 - 五 歲出入決算報告書統理ノ事
- 第四條 出納掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國庫ニ對スル出納及各部局月額金配付ノ事
 - 二 各部局ノ諸費出納主任主管外ニ關スル諸費出納ノ事
 - 三 簿記ヲ注及管守ノ事
 - 四 爲換金取扱ニ關スル事
 - 五 第二項ノ出納ニ係ル歲出入報告書及歲出入決算報告書調製ノ事
- 第五條 記事掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 文書ノ接受往復其他委員ニ係ル臨時ノ庶務取扱ノ事
 - 二 書類往復ノ始終ヲ明瞭ナラシメ其他書牒ノ謄寫配送及保管ノ事
 - 三 件名簿記注保管ノ事
- 第六條 凡ソ他ノ諸向ヨリ委員ニ到來スル書類ハ一切記事掛ニ受領シ其需要票及諸報告書其他證書類ヲ除クノ外事務照會往復等ニ係ルモノハ左ノ番號ヲ附記シ件名簿ニ摘録シテ直チニ各掛ニ配付ス
- 別一號
- 右ハ一切ノ往復書類一事件毎ニ號ヲ逐ヒ之ヲ附記シ數岐ニ涉ルモノハ連續番號ヲ用ユ
- 別二號
- 右ハ委員ノ名ヲ以テ往復スル書類ニ附ス
- 第七條 各掛ハ前項ノ書類ヲ受領シタルトキハ査閱ノ上委員長ニ出スヘシ
- 第八條 委員長前條ノ書類ヲ領シタルトキハ直ニ考查捺印シ主務掛ニ移シ之ヲ處理セシム
- 第九條 委員長ハ左ノ事項ハ之ヲ專行シ其他ハ會計局長ニ提出シテ其指揮ヲ受クヘシ

- 一 既定ノ規則ニ據リ支出スヘキ諸費ノ事
 - 二 恒例ノ事件ニ付各委員長並ニ會計主任者へ委員長ノ名ヲ以テ直ニ往復スル事
- 第十條 調理掛記録ノ番號ハ左ノ如シ
- 收號
- 右ハ別途金納入ニ關スル書牒ニ附ス
- 支號
- 右ハ別途金支出ニ關スル書牒ニ附ス
- 報號
- 右ハ記簿ヲ要スル更訂及決算ニ關スル書牒ニ附ス
- 海軍省訓令 第三十六號 海軍一 號
- 明治十九年五月第三三五號訓令別途費整理委員ノ件ヲ廢ス
- 但別途費整理委員ノ殘務ハ會計局整理課ニ於テ處理セシムル義ト心得ヘシ
- 海軍省ヨリ各局府所校へ達 十六年六月十六日
- 明治十四年第三十六號公達ニ據リ來ル十六年度ヨリ其局府所校計算課長(主計科長)ヲシテ會計主務官吏ノ任ヲ負擔セシメ候條此旨相達候
- 但兵庫橫須賀海軍用所(東京及橫須賀海軍病院)ノ義ハ其局會計主務官吏ニ於テ管理候義ト可相心得
- 此旨副達候
- 會計局ヨリ海軍省へ上申 十五年十一月二十七日
- 會計法御發令及十四年四月第三十六號公達ノ趣モ有之仍ホ本年九月金錢出納記簿ノ組織改正ニ則リ進行ニ付テハ本省及ヒ支廳ノ會計上ニ於テ主計課長等即チ會計事務ノ者ハ依然該法ニ徵スル主務官吏ノ任務ヲ負擔セシメサレハ著實ノ整理ヲ得サル組織ニ有之就テハ本省ヲ始メ各廳へ主計官等各一名ヲレテ別紙記列ノ通り來ル十六年度以降法規ニ遵ヒ負擔爲致度奉存候人撰ノ義ハ追テ取調且太政官へ御上

會計主務官吏ノ負擔ヲ定ム

十八年二月二十日收ム

十四年第三十六號公達ハ會計事務上各廳長官ト會計主務官吏ノ分掌區分ノ件ナリ官制門ニ載ス

別途費整理委員ヲ廢シ殘務ヲ會計局整理課ニ處理セシム

稟案又ハ會計検査院へ御報稟案共更ニ上呈可仕候條現時豫算調整期限ニ際シ計理ノ都合有之候ニ付至
急御允裁相成度此段上申仕候也
指令十五年十二月五日
申出之趣開届候事

主務官吏
主計監ノ内一名

右 同

主計監及大中主計ノ内一名
右 同 斷

右 同 斷

右 同 斷

右 同 斷

主計監及大中主計ノ内一名
右 同 斷

右 同 斷

本 省
軍 務 課
統 計 課
記 録 課
備 用 品 取 調 掛
軍 律 改 正 取 調 掛
規 程 局
會 計 局
各 艦 船 營

軍 務 局

主 船 局

兵 隊 用 所

水 路 局

醫 務 局

裁 判 所

兵 學 校

機 關 學 校

東 海 鎮 守 府

各 艦 船 營

火 藥 製 造 所

唐 津 石 炭 用 所

長 崎 出 張 所

水 雷 練 習 所

- 會計局長
- 分任收支命令官
- 兵學校長
- 機關學校長
- 水路部長
- 兵器製造所長
- 火藥製造所長
- 參謀本部海軍部副官
- 橫須賀鎮守府主計部長

右 同 斷
右 同 斷
右 同 斷
右 同 斷
通計十五名

火藥製造所
唐津石炭用所
長崎出張所
水雷練習所

海軍省ヨリ軍醫本部主船調度兵器水雷水路五局海軍中佐池田貞賢横須賀鎮守府兵學校機關學校長崎
出張所へ達 十八年二月二十日

會計主務官吏負擔ノ儀ニ付テハ一昨十六年六月普第一四六一號ノ二ヲ以相達置候次第モ有之候處昨十
七年十二月丙第百六十一號達以降ハ本省並主船局各艦船營會計主務ノ儀ハ會計局長ニ於テ負擔シ其他
各廳へ其主計長ヲシテ負擔セシメ候儀ト可心得此旨更ニ相達候也

海軍省達 十九年四月一日

收支命令官分任收支命令官及會計主務官左ノ通相定ム

收支命令官

會計局長

分任收支命令官

兵學校長

機關學校長

水路部長

兵器製造所長

火藥製造所長

參謀本部海軍部副官

橫須賀鎮守府主計部長

本海軍省船務各艦船營
其他各廳會計主務官擔
カテ收ム
十九年四月一日會計主務
官ヲ定ム
十六年六月普第一四六一
號ノ二ハ會計主務官更
擔方ノ件ナリニシテ
十七年十二月丙第百六十
一號ハ附置置候ノ件ナ
リニシテ
收支命令官分任收支命令
官及會計主務官ヲ定
ム
十九年五月海軍省達第三
五三號達ヲ以テ改正ス

東京病院長
各艦船長
横須賀屯營長
浦賀屯營長
長浦水雷營長

會計主務官

會計局出納課長
會計局艦費課長
兵學校主計長
機關學校主計長
水路部計算課長
兵器製造所計算課長
火藥製造所計算課長
參謀本部海軍部計官
横須賀鎮守府主計長
會計主務代理官
東京病院會計主任

海軍省達 十九年五月二十五日

別途費目區分同分任收支命令官同會計主務官左ノ通相定ム

鎮守府司令長官
鎮守府建築委員長

別途費目區分同分任
收支命令官同會計主務
官ヲ定ム

收支命令官分任收支命
令官及會計主務官ノ改
正ス

十九年七月海軍省第五
一五號達ヲ以テ分任收支
命令官及會計主務官ノ項
ニ追加ス
二十一年九月海軍省第九
十一號達ヲ以テ兵學校長
ノ次ニ大學校次長ヲ加ヘ
會計主務官ノ部兵學校主
計長ノ次ニ大學校勤務主
計長ヲ加フ又第九十六號達
ヲ以テ分任收支命令官ノ
部ヨリ兵器部長ヲ削除シ
會計主務代理官ノ部ヨリ
兵器部派員主計官ヲ削除
ス

艦政局長
海防水雷取調委員長
兵器製造所長
火藥製造所長

海軍省達 十九年五月二十六日

收支命令官分任收支命令官及會計主務官左ノ通改正ス

右訓令ス

收支命令官

會計局長

分任收支命令官
兵學校長
醫學校長
艦船長
豫備艦總理
火藥製造所長
會計主務官
會計局出納課長
鎮守府計算課長
水路部計算課長
火藥製造所計算課長
會計主務代理官
機關學校長
參謀本部海軍部副官
屯營長
鎮守府主計部長
病院長
水路部長
兵器部長
水雷營長
兵器製造所長
監獄署長
參謀本部海軍部計官
機關學校主計長
兵器製造所計算課長

横須賀屯營主計長
東京病院派出主計官
横須賀病院派出主計官
監獄署派出主計官
兵器部派出主計官

海軍省達 十九年七月六日
別途費ノ統理ニ係ル收支命令官ハ會計局長トシ會計主務官ハ別途費整理委員長トス此旨心得可シ
右訓令ス

海軍省達 十九年七月三十一日
本年五月第三五三號訓令中分任收支命令官及會計主務官ノ項ヘ左ノ通追加ス
右訓令ス

分任收支命令官
主計學校長 横須賀造船所長 小野濱造船所長
唐津石炭用所長

會計主務官
主計學校計算課長 横須賀造船所計算課長
小野濱造船所計算課長 唐津石炭用所會計主任

海軍省ヨリ兵學校移轉方取調委員ヘ達 二十年三月十四日
海軍別途費中兵學校設立費分任收支命令官及會計主務官ヲ左之通定ム
兵學校設立費 分任收支命令官 派出先任將校若クハ準將校
會計主務官 派出會計主務
同

別途費整理委員長
會計主務官トス

分任收支命令官及會計
主務官ノ項ニ追加ス

海軍別途費中兵學校設立
費分任收支命令官及
會計主務官ヲ定ム
二十年十月二十一日委
員ヲ唐津兵學校ノ部ニ置
ス

兵學校設立費分任收支
命令官及會計主務官ヲ
定ム

海軍省ヨリ兵學校ヘ達 二十年十一月十八日

兵學校設立費分任收支命令官及會計主務官別紙ノ通定ム

兵學校設立費
分任收支命令官 會計主務官
兵學校長 同校主計長
江田島派出先任將校 右會計主務官代理
若クハ準將校 江田島派出會計主務

海軍省達 二十一年二月八日
金穀及物品出納爲検査會計局員ヲシテ毎年春秋二回各艦艦船ヘ派出爲致候係此旨相達候事
但時機ニ依リ臨時派出爲致候儀可有之候事

海軍省達 十三年九月二十四日
金穀及物品出納検査之儀ニ付十一年丙第二十七號ヲ以相達置候處自今鎮守府兵學校所轄ノ諸艦船營ハ
兩應出勘ノ主計監ヲ以春秋兩回検査セシメ當省ヘ報告可致其他渾テ十一年丙第二十七號之通可相心得
此旨相達候事

海軍省達 十三年十一月一日
本年丙第七十六號ヲ以會計検査ノ義相達候ニ付今般右検査員派出概則別紙ノ通相定候係此旨相達候事
海軍會計検査員派出概則
第一條

會計局金穀物品出納検査
局ノ派出ス
十七年十二月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス
十四年五月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス
十七年十二月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス
會計検査員派出概則ヲ
定ム
十四年五月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス
十七年十二月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス
本訓第一條中ノ刪除ス
十七年十二月海軍省丙第
百六十五號達ヲ以テ廢ス

海軍各艦及艦船營等ニ整備スル會計諸帳簿ヲ始メ金銀物品總テ取扱ノ實況ヲ検査スル爲メ毎歲二回會計官吏ヲシテ派出セシムヘシ

但臨時検査トシテ派出セシムルトモアルヘシ

第二條

鎮守府兵學校并會計局ヨリ検査員ヲ派出セシムル時ハ必ス十日前ニ其旨各長ヘ通知スヘシ

第三條

検査員派出ニ際シ諸帳簿類記載方等ノ成規ニ悖リ又ハ會計上不明瞭ノ件アルハ各主任ヘ協議ヲ遂ケ尙之レヲ該廳長ヘ申報シテ訂正ヲ要スヘシ若シ事理不明了ニシテ成規ノ照準スヘキナキ歟或ハ該長ノ專斷ニ出ル如キハ之レヲ詳悉會計局長ニ報シ同局長ヨリ其決ヲ海軍卿ニ請フヘシ

第四條

但鎮守府兵學校ヨリ派出シタル検査員ハ各其長ヲ經テ會計局長ニ報スヘシ

第五條

例規ナキ收支ニ係ル事項本省ヘ稟議中カ又ハ他廳等ニ交渉スル件ニテ一時操替支出セシ金員其償戻方遷延スル等ノ類アリテ夫レカ爲メ結算ニ支障アルモノハ該廳長ニ申報シテ速カニ整頓セシムルノ期約ヲ爲スヘシ

第六條

經費ノ殘餘或ハ諸收入金ノ納付滯滞スルモノアルハ速カニ納入ヲ促スヘシ

第七條

經費豫算決算及簿記ノ制則又ハ諸支給ニ關スル規則並計算方法等ニ曉解シ難キノ條件主任ヨリ諮問ヲ受ルハ各制規ニ照シ回答ヲナスヘシ

但本條ノ如キ應答ハ派出員ノ各ヲ以テス

交互錯雜ナキヲ要スヘシ

第八條

派出員ハ検査ノ周尾ニ至リ東テ其實況ヲ具サニ會計局長ニ報シ同局長之レヲ海軍卿ヘ進達スヘシ

但鎮守府兵學校ヨリ派出シタル検査員ハ各其長ヲ經テ會計局長ニ報スヘシ

海軍省達 十四年五月四日 海軍一 般

金穀及物品出納爲検査會計局長毎年春秋二回派出ノ儀ニ付十一年二月丙第二十七號ヲ以相達置候處自今主計監在勤ノ諸廳ハ其ノ主計監ヲ以テ春秋二回検査セシメ會計局長ヘ報告可致此旨相達候事

海軍省達 十四年五月四日 海軍一 般

東海鎮守府及兵學校所轄諸艦船營出納検査ノ儀ニ付十三年九月丙第七十六號ヲ以相達置候處 該達中(當省)ノ二字(會計局長)ノ四字ニ改正候條此旨相達候事

海軍省達 十四年五月四日 海軍一 般

海軍會計検査員派出概則十三年十一月丙第七十九號ヲ以相達置候處右附錄艦船營會計検査心得今般別紙ノ通相定メ概則第一條(及艦船營等)ノ五字删除候條此旨相達候事

但シ尋問書式ハ會計局ヘ協議ノ上可取計事

海軍會計検査員派出概則附錄艦船營會計検査心得

第一條

一艦船營所轄廳長及艦隊司令長官ハ其ノ所屬主計監ヲ以テ艦船營ノ金穀物品出納上ニ關スル一切ノ事ヲ検査セシムヘシ

第二條

主計監在勤ノ諸廳金穀物品出納ハ其主計監ヲシテ検査セシム

十七年十二月海軍省丙第百六十五號達ヲ以テ廢ス

主計監在勤ノ諸廳金穀物品出納検査ノ達中ヲ改正ス

會計検査員派出概則附錄艦船營會計検査心得ヲ定メ概則第一條中ヲ删除ス

十七年十二月海軍省丙第百六十五號達ヲ以テ廢ス

- 一會計検査ハ大検査臨時検査ノ二途ニ区分シ大検査ハ毎歲一回トシ臨時検査ハ臨時ニ派遣セシムヘシ
- 第三條
- 一大検査ニ限リ検査院派遣ノ義ハ日割ヲ以テ所轄艦船營ニ布達スルモノトス
- 第四條
- 一大検査ハ必ス其艦船營長立會ノ上検査スルモノトス
- 但シ其艦船營長不得止事故アリテ不在ナルハ副長立會スルモノトス
- 第五條
- 一大検査ハ會計検査尋問書ヲ作り金穀物品竝ニ出納上ニ關スル一切ノ事ヲ検査セシムヘシ
- 第六條
- 一大検査中航海ノ艦船ハ歸港ノ上検査セシムヘシ
- 第七條
- 一大検査周尾ノ上會計検査答辯書ヘ検査一覽表竝ニ検査員復命書等相添ヘ其ノ長ヲ經テ會計局長ニ報告スヘシ
- 第八條
- 一臨時検査ハ検査員派遣日限ノ告達ヲ要セス臨時ニ派遣セシメ金穀物品及ヒ出納上ノ實況ヲ検査セシムヘシ
- 第九條
- 一臨時検査ハ其艦船營長或ハ副長立會ノ上検査スルモノトス
- 但シ艦船營長及ヒ副長トモ事故アリテ不在ナルハ先任士官立會スルコトモアルヘシ
- 第十條
- 一臨時検査ハ艦船出帆或歸港ノ都度検査セシムヘシ
- 東海鎮守府ヨリ海軍省ヘ上申十三年十二月七日
- 今般會計検査ノ義御達相成候毎歲春秋二回検査ノ義ハ池モ實際難放行歟ト被存候艦船ノ如キハ屢々航

會計検査員派遣等ノ通

海軍省達 丙第七百六十五號 海軍一 般
明治十一年 丙第二十七號 同十三年 丙第七十六號 同年 十一月 丙第七十九號 同十四年 五月 丙第二十號 同年 五月 丙第二十二號 達ハ廢止ス此旨相達候事

主計部條例ノ定ム

十九年二月海軍省丙第三十一號達ヲ以テ廢ス海軍一 二號ス

- 海軍主計部條例
- 第一條 海軍主計部ハ海軍會計事務ヲ監督スル所トス之ヲ區分スル左ノ如シ
- 第一 主計本部 第二 鎮守府主計部
- 第三 艦隊主計部 第四 官廳主計部
- 第二條 主計本部ハ海軍一般ノ會計事務ヲ監督シ又各主計部ヲ統轄ス
- 第三條 本部長一人主計總監若クハ主計大監ヲ以テ之ニ補シ主計官及ヒ筆記主廚其他ノ各部員ヲ統轄シ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 本部長ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辯明スルヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
- 第五條 本部長ハ成規ニ據リ主計官筆記主廚ノ拔擢名簿及ヒ增俸名簿ヲ調製ス
- 第六條 本部長ハ各部員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルコトヲ得
- 第七條 本部長ハ各主計部長以下ノ補闕交代ヲ要スル時ハ準士官及ヒ同等文官以上ハ卿ニ具申シ下士及ヒ同等文官以下ハ之ヲ專行スルコトヲ得

十八年六月海軍省丙第三十六號達ヲ以テ第七條ノ次ニ一項ヲ追加ス

第八條 本部長ハ成規ニ照シ海軍一般ノ會計帳簿及ヒ其實況ヲ検査ス

第九條 本部長ハ本部判任以下ノ除服出勤ヲ命スルコトヲ得

第十條 本部長ハ本部諸員ヲ二十里以内ノ地ニ派出セシムルコトヲ得

第十一條 本部長ハ各部主計官以下ヲ二十里以内ノ地ヨリ召喚スルコトヲ得

第十二條 本部内ニ主計官十二人筆記若干人ヲ置キ本部長ノ處分ニ係ル事務ヲ整理セシム

第十三條 鎮守府艦隊及ヒ官廳ノ主計部ニ部長一人ヲ置キ主計監ヲ以テ之ニ補シ各部ノ會計ニ係ル事務ヲ監督セシメ而シテ鎮守府或ハ艦隊ノ主計部長ハ鎮守府長官或ハ艦隊司令官ニ屬シ官廳主計部長ハ主計本部長ニ屬ス

第十四條 部長ハ部内ニ屬スル主計官以下ノ能否勤怠ヲ監視シ又其會計事務ノ整否ヲ巡視検査ス

第十五條 鎮守府所屬ノ艦船營諸官廳ニ服務ノ主計官及ヒ筆記主計官ヲ鎮守府主計部員トシ艦隊艦下ノ艦船ニ服務ノ主計官以下ヲ艦隊主計部員トシ各局諸官廳ニ服務ノ主計官以下ヲ官廳主計部員トス但各局諸官廳ノ部員ハ文官ヲ以テ之ニ充ツルコトアリ

第十六條 部員ハ成規ニ從ヒ會計給與等ニ係ル事務ヲ掌理ス(官書ハ機關部條例ニ付ス)

海軍省達 十七年十二月十五日 海軍一 般

各局諸官廳ノ計算課ヲ主計部ト改稱シ計算課長ヲ主計長ト改稱ス此旨相達候事

主計本部ヨリ海軍省ヘ伺 十八年一月七日

主計補臨時採用ノ義昨年九月會計局伺定ノ末同局ニ於テ志願者徵集中去臘丙第百五十八號ヲ以テ主計部條例御發令相成主計官ハ當本部統轄ニ屬シ候間前書主計補採用ノ件者無論當本部ニ於テ主管致シ可然義ト存候得共爲念此段伺出候也

各局諸官廳ノ計算課ヲ主計部ト改稱シ計算課長ヲ主計長ト改稱ス此旨相達候事
主計本部ヨリ海軍省ヘ伺 十八年一月七日
主計補臨時採用ノ義昨年九月會計局伺定ノ末同局ニ於テ志願者徵集中去臘丙第百五十八號ヲ以テ主計部條例御發令相成主計官ハ當本部統轄ニ屬シ候間前書主計補採用ノ件者無論當本部ニ於テ主管致シ可然義ト存候得共爲念此段伺出候也

海軍省ヨリ鎮守府ヘ達 十八年一月十七日

筆記及主計官ノ節ハ其採用方此際主計本部ニ於テ爲取扱候條此旨相達候也

主計本部ヨリ海軍省ヘ上申 十八年一月七日
筆記及主計官ノ節ハ其採用方此際主計本部ニ於テ爲取扱候條此旨相達候也

筆記及主計官ノ節ハ其採用方此際主計本部ニ於テ爲取扱候條此旨相達候也

海軍主計本部處務内規 十八年一月二十一日

第一條 本部主管ノ事務整理ノ爲メ之ヲ分テ左ノ二掛トス

第一 庶務掛

第二 検査掛

第二條 庶務掛ノ分任事項概テ左ノ如シ

一 本部長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存

二 主計官筆記主計官其他各主計部員及主計學舍員主計生徒等ノ名簿調製

三 前項諸員ノ進退黜陟及叙勳恩給等ノ諸名簿調製

四 主計生徒筆記主計官ノ補闕徵集本部主管ノ公文書類ヲ整理管守ス

五 報告例ノ整理及官報ノ掌理

六 廳中備付消耗品ノ受拂

七 物品受拂帳簿ノ整理

八 郵便電信ノ送達及其他ノ庶務

第三條 検査掛ノ分任事項概テ左ノ如シ

一 海軍會計給與ニ必要ナル法令規則指合等ノ蒐集及其研究

二 各艦艦船營ノ經費軍艦製造費及作業費其外臨時別途費等收支ノ豫算帳現計書決算報告等ノ當否

主計本部筆記及主計官ノ節ハ其採用方此際主計本部ニ於テ爲取扱候條此旨相達候也
十九年一月二十九日主計本部ヲ廢ス上ニ罷ス

主計本部處務内規ヲ定ム
十九年一月二十九日主計本部ヲ廢ス上ニ罷ス

十八年四月日閣檢査掛ヲ監査掛ト改稱シ處務内規第三條ヲ改正ス

検査及詳悉

- 三 前項諸費收支ノ決算證明書ノ調査
- 四 決算證明書類ニ對シ検査院ヨリ推問質疑及各艦船營ヨリ疑問照會ノ調理
- 五 各部長ヨリ進達スル會計實況検査復命書
- 六 検査事項ニ付海軍卿ニ進達スヘキ諸報告書調製
- 七 前諸項ノ外検査監督上ニ關スル臨時ノ事務
- 八 會計給與ニ關スル内外國人諸條約及命令書等ノ蒐集

主計本部ヨリ海軍省へ上申十八年一月十日
 主計部條例中處務内規創設改良及掛ヲ設ル等ノ項目無之ニ付本部員聯合職務爲致候處各自擔當ノ責任
 甲乙雜雜シテ規律相立兼候間本部中ヲ更ニ二科ニ區分シテ主管ノ事務爲取扱度別紙内規進達仕候間至
 急御允可相成候様仕度此段上申仕候也十八年一月二日決

海軍省ヨリ兵學校へ達 十八年二月九日

其校所轄攝津艦主計部ハ官廳主計部ニ屬シ候義ト可相心得此旨相達候事

- 主計本部ヨリ海軍省へ伺 十八年四月日關
- 主計本部ハ該部條例第二條ニ海軍一般ノ會計事務ヲ監査スト有之候ヲ以テ法規ノ創設改良其他重要ノ事項ハ當本部ニ於テ一應主務應ノ意見ヲ調査シ以テ會計ノ法令ヲ維持スルハ最モ緊要ノ義ニ有之候依テ當本部検査掛ヲ監査掛ト改稱シ別紙ノ通事務内規ヲ改正致度此段仰高裁候也 月日不詳 決裁済
- 追テ御裁可ノ上ハ本部ヨリ關係ノ向々へ通知可致候條此段副申仕候也
- 事務内規改正案
- 第三條 監査掛ノ分任事項概子左ノ如シ
- 一 會計ニ關スル條例規則ノ蒐集及ヒ其創設改良ノ調査

兵學校所轄攝津艦主計部ハ官廳主計部ニ屬ス
 十九年二月十五日兵學校主計部ヲ改稱シ
 海軍二課檢部ニ置ス
 主計本部検査掛ヲ監査掛ト改稱シ
 十九年一月二十九日主計本部ヲ廢ス上ニ置ス

- 二 金錢物品給與ニ關スル條例規則創設改良ノ調査又ハ其質議
- 三 各廳章程及條例上款ニ掲クル第二十四條内外人ノ傭入竝ニ内外諸條約ノ金錢物品ニ關スル調査
- 四 主計長事務引繼票ノ調査
- 五 會計検査ニ關シ海軍卿ニ進達スヘキ諸報告ノ調製
- 六 主計部長ヨリ進達スル會計實況検査復命書ノ調理
- 七 金錢出納簿記ノ取捨及其式様ノ變更
- 八 經費ノ豫算及ヒ其流用増減ノ調査
- 九 作業ノ興廢及其資本増減等ノ調査
- 十 豫算外ノ經費ヲ要スル事項ノ調査
- 十一 前諸項ノ外検査監督上ニ關スル臨時ノ事務

海軍省ヨリ各廳へ達 十九年三月五日

省中ニ會計検査部ヲ置ク

勅令 第三十號 四月二十二日 内閣總理大臣 伊藤博文 海軍大臣 伯西 輝 從道 副署

朕海軍會計検査部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍會計検査部官制

- 第一條 海軍會計検査部ハ海軍一般ノ金錢物品ノ會計ヲ検査スル所トス
- 第二條 會計検査部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一人 主計大監
 - 検査官 四人 主計官
 - 検査官補 屬

省中ニ會計検査部ヲ置ク
 二十一年二月勅令第三號
 以テ検査部ヲ廢シ會計
 局中検査部ヲ置ク
 會計検査部官制ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 以テ検査部ヲ廢シ會計
 局中検査部ヲ置ク

- 第三條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 部長ハ會計検査及決算證明ノ事ニ付テハ會計検査院長ニ對シ辯明ノ責ニ任ス
- 第五條 部長ハ大臣ノ命ヲ承ケ又ハ其允許ヲ得テ各官廳艦船營ヲ巡視シ其會計ヲ検査ス
- 第六條 部長ハ出納法規金錢物品給與ノ規則ニ付意見アルトキハ之ヲ大臣ニ開申スヘシ
- 第七條 部長ハ検査上ニ於テ主任者ノ説明ヲ要スルトキハ之ヲ喚問シ又直ニ之ト通信スルコトヲ得
- 第八條 検査官ハ部長ノ命ヲ承ケ成規ニ從ヒ各官廳艦船營ノ會計ヲ検査ス
- 第九條 検査官補ハ検査ノ事務ヲ補助ス

會計検査規程ヲ定ム
二十一年三月海軍省第二
號海軍會計検査規程ヲ以テ改正ス

海軍省令 十九年四月三十日
第二十七號 海軍一號
海軍會計検査規程左ノ通定ム

海軍會計検査規程

- 第一條 海軍ノ會計検査ハ海軍會計検査部ノ掌トル所トス
- 第二條 會計検査ノ要目ハ左ノ如シ
- 第一 金錢ノ出納及其決算
- 第二 物品ノ出納決算及其貯蓄法
- 第三 建築修繕ノ請負方法
- 第四 土地家屋物品ノ購買及拂下方法
- 第五條 會計検査部ニ於テハ豫算決定額ニ基キ目以上ノ金額ヲ記簿シ出納決算検査ノ照準ト爲スヘシ
- 第六條 歳入歳出出納規則第三十七條第三十八條第三十九條第六十五條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條ノ諸報告ハ大藏省或會計検査院ニ送付ノ以前會計検査部ニ於テ之ヲ検査スヘシ
- 第七條 收支決算検査ノ方法ハ左ノ手續ニ從フヘシ

歳入歳出出納規則ハ財政
門出納規則ノ部ニ載ス

- 一 會計主務官ハ毎月十日マテニ前月分ノ決算帳ヲ會計検査部ニ發送スヘシ
- 二 會計主務官ハ毎月十日マテニ歳入歳出出納規則ニ依リ四月以後支出シタル金額ノ決算書ヲ會計検査部ニ發送スヘシ
- 三 會計検査部長ハ諸決算ヲ検査シ正當ト認定スルトキハ之ヲ會計検査院ニ送付シ其都度會計主務官ニ通告ス其正當ナラサルモノハ會計主務官ヲシテ再調セシムヘシ
- 四 會計検査部長ハ收支決算帳ノ検査ヲ完了セハ其成績ヲ大臣ニ具申スヘシ
- 五 會計検査部長ハ會計検査院長ノ決算認可狀ヲ受ケテ之ヲ會計主務官ニ送付スヘシ
- 第六條 物品主管ノ廳ハ會計検査部ニ於テ定ムル所ノ様式ニ從ヒ毎月十日マテニ前月分ノ物品受排報告ヲ會計検査部ニ出シ検査部ニ於テハ之ヲ検査スヘシ
- 第七條 會計ノ實況ヲ検査セシムル爲メニ毎年一次又ハ臨時會計検査部長又ハ検査官ヲ派出ス
- 第八條 實況検査ヲ行フトキハ派出ノ検査部長又ハ検査官ヨリ五日以前ニ其旨ヲ検査ヲ受クヘキ廳ニ通知スルモノトス
- 第九條 會計検査上會計官吏ノ會計法規ニ違フ者ヲ發見シタルトキハ會計検査部長之ヲ所管長ヘ告知シ又時宜ニ依リ大臣ニ具申スヘシ

臨時會計検査規程ヲ定ム

海軍省訓令 二十年三月十日
第二十六號 海軍一號
臨時會計検査規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

臨時會計検査細則

- 第一條 臨時會計検査ノ順序ハ検査官此細則ニ照ラシ適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 検査官ノ隨行員ハ主計官ヲ以テ之ニ充ルヲ例トス而シテ其須要ニ依リ判任官ヲモ隨行セシムルコトアリ
- 第三條 検査官檢閱ヲ行フトキハ鎮守府ニ於テハ各部長其他各廳艦船營ニ於テハ該長立會ヲナスヘシ

但不得止事故アルトキハ次長副長若クハ該長ノ適當ト認定スル者ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得
第四條 會計檢閲ハ各會計主務官會計主務代理官出納主任官所在ノ艦船營廳及各倉庫ニ就キ左ノ事項
ヲ檢査スヘシ

第一項 會計事務取扱ノ順序

第二項 金錢ノ出納及現貨

第三項 被服糧食其他物品ノ出納及現品

第四項 被服糧食其他物品ノ保管方法

第五項 諸工事ノ實況及條約書類

第六項 諸帳簿及證書類

第七項 主計部士官以下ノ教育方法

第八項 主計官及會計職員執務ノ景況

第五條 檢査官檢閲上須要ト認ムルトキハ前條項目ノ順序ヲ變更シ又ハ項目外ノ事ヲ檢閲スルコトヲ
得

會計檢査部職員ノ定員
ヲ定ム

海軍省ヨリ會計檢査部へ達 十九年五月十七日

會計檢査部ノ定員
ヲ定ム

其部職員ノ定員ヲ十五人ト定ム

右訓令ス

會計檢査部ノ定員
ヲ定ム

海軍省ヨリ會計檢査部へ達 二十年十二月三日

會計檢査部ノ定員
ヲ定ム

其部職員ノ定員ヲ筆生十八人ト定ム

省中ニ購買委員ヲ置キ
檢例ヲ定ム

海軍省達 十九年一月二十九日

十九年五月海軍省令第三
十二號ヲ以テ廢ス

省中ニ購買委員ヲ置ク

海軍省達 十九年一月二十九日

購買委員條例別冊ノ通相定ム

(別冊)

購買委員條例

第一條 委員ハ海軍一般ノ材料及物品購買賣却ノ事ヲ幹理スルモノトス

第二條 委員ハ廉直ノ價ヲ以テ良好ノ材料ヲ購買スルノ責任アルモノトス

第三條 委員ノ職制ハ左ノ如シ

委員長 勅任官 一人

委員 奏任官 十人内 六人
兼務

書記 大中主計 一人

屬員 判任官 三人

第四條 委員ハ大臣ノ命ヲ受ケタル時ハ諸購買條約ヲ商議シ裁可ヲ得締約ス可シ

第五條 委員ハ本省諸局長或海軍各官廳長ヨリ其定例ノ材料器具需品ヲ購買スヘキ請求アル時ハ其締

約ヲ爲ス可シ

第六條 委員ハ本省諸局長或海軍各官廳長ノ請求ニ由リ不用或ハ損廢ノ物品ヲ賣却スル時ハ購買ノ手

續ニ準シ取計フ可シ

第七條 委員ハ外國ニテ行ヒタル購買ニ關スル書類ヲ審査ス可シ

第八條 委員ハ常ニ諸材料物品ノ時價ヲ調査シ置クヘシ

第九條 委員長ハ委員ニ係ル事務ヲ總理ス

第十條 委員ハ委員長ノ命ヲ受ケ購買賣却ノ事務ヲ分擔ス

第十一條 書記ハ委員長ノ命ヲ受ケ委員ニ係ル庶務ヲ掌理ス

第十二條 屬員ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

購買事務規程ヲ定ム

十九年六月海軍省令第四十號ヲ以テ改定ス

海軍省ヨリ各廳ヘ達 一九一九年二月二十二日

購買事務規程別冊ノ通相定候條購買賣却ノ事務ハ該規程ニ據リ施行スヘシ此旨相違候也

海軍省ヨリ購買委員ヘ通牒 一九一九年二月二十二日
今般要第五〇號ヲ以テ購買事務規程施行ノ義相違候處作業廳ノ義ハ外國ヘ注文スヘキモノヲ除クノ外本年九月三十日マテハ從來ノ如ク其廳ニ於テ購買致候義不苦候條此旨相違候也

(別冊)

購買事務規程

第一條 凡ソ海軍ニ於テ諸般ノ需用ニ供スル物件ハ定例費ヲ以テスルモノト作業費ヲ以テスルモノトノ別ナク購買委員ヲシテ購買セシメ不用物件ノ拂下モ亦購買委員ヲシテ處分セシム

第二條 凡ソ物件ハ定用物件臨時物件ノ二種ニ區別ス

第三條 定用物件トハ豫定スルコトヲ得ヘキモノヲ云フ臨時物件トハ豫定スルコト能ハサルモノヲシテ臨時ニ要スルモノヲ云フ

第四條 定用物件ハ各廳ニ於テ來年度中ニ要スルモノ、品目量數價格ヲ前年度ニ豫定シ其十二月中ニ購買委員ニ購買ノコトヲ要求スヘシ十二月中ニ豫定スルコト能ハサルモノハ豫定シタル時ニ要求スヘシ又豫定ヲ變更スル時ハ之ヲ委員ニ通知ス可シ

第五條 臨時物件各廳ノ定例費内ヲ以テ支辨スルモノニシテ一箇月合計金五百圓以下ニ屬スルモノハ各廳ニ於テ購買スルコトヲ得作業費ニ屬スルモノモ亦同シ但購買シタルモノハ毎月末購買委員ニ通知スヘシ

第六條 艦船外國遠航海ヲ爲ス時石炭食糧其他需用ノ物件航海先キニ於テ闕乏スルトキハ臨時之ヲ購買スルコトヲ得此場合ニ於テハ最初ノ郵便ヲ以テ其所管長官ニ報告シ其長官ハ之ヲ購買委員ニ通知スヘシ

スルモノトス

第七條 購買委員ハ大臣ヨリ物件購買ノ命アル時ハ之ヲ要スル各廳ト協議シ購買ノコトヲ行フヘシ

第八條 購買委員ハ各廳長ヨリ物件購買ノ要求ヲ受クル時ハ其定例費ノ會計局管守ニ係ル所ノモノハ先ツ會計局ニ其要求書ヲ移シ其定例費内ヲ以テ支辨スルコトヲ得ヘキヤ否ノ調査ニ付シ其支辨スルコトヲ得ヘキ認定アルモノハ之ヲ購買スヘク其認定ナキモノハ會計局ノ意見ヲ附シ其廳長ニ返却スヘシ定例費ヲ自ラ管守スル廳長ヨリ要求シ購買セシ物件ノ代價若シ其定例費内ヲ以テ支辨スルコトヲ得サルコト有ルモ購買委員ハ其責ニ任スルコトナシ

第九條 購買スヘキ物件ノ價格變更ニヨリ其要求セル各廳ノ豫定ヨリ超過スルトキハ購買委員ハ其事由ヲ各廳ニ照會シ其承諾ヲ得ルニ非ラサレハ購買ノコトヲ行フ可カラズ

第十條 凡ソ購買委員ニ於テ購買セル物件ノ代價仕拂期限定約アルモノ仕拂期限ヲ過マラサルノ責ハ購買ヲ要求セル各廳長ニアルモノトス

第十一條 購買委員ニ於テ物件ヲ購買スル際ニ當テ賣上ヲ命スル商賣ヨリ見本價格等ヲ出ストキハ成ルヘク先ツ其廳長ニ移シ適否ノ監査ニ附シ然ル後チ購買ノコトヲ行フ可シ

第十二條 購買委員ニ於テ購買セル物件ハ委員其要求セル廳ノ監査主任者ト立合ノ上之ヲ檢査シ其價格ヲ認定シタル上之ヲ其廳ニ引渡スヘシ

第十三條 購買委員ニ於テ購買シタルモノ、代金ハ其約定ニ照シ之ヲ要求シタル各廳又ハ會計局ニ於テ支拂フ可シ而シテ之ヲ仕拂タルトキハ購買委員ニ報告スヘシ

第十四條 凡ソ購買委員ニ於テ購買セル物件ハ其要求シタル廳ニ引渡シタル後チ其物件ノ不良不合格ヲ見出スト雖モ購買委員ハ其責ニ任セス然トモ其廳長ハ委細ニ其狀況ヲ該委員ニ通報スヘシ該委員ハ其物件ヲ檢査シ事實相違ナキモノハ其賣主ヲ督責シ約定ニ從ヒ成ル可ク好良合格ノモノト交換セシムルコトアルヘシ

第十五條 購買委員ニ於テ購買セシ物件ヲ各廳ニ於テ蓄藏シ其保存ノ方法宜キヲ得ヌ又ハ不注意ニ由

- テ破壊腐敗ニ屬スト雖モ購買委員ハ其責ニ任スルコトナシ
- 第十六條 購買委員ニ於テ購買ノ定約ヲ爲シタルトキハ速ニ其定約書ノ寫之ニ附帶セル書類ノ寫竝ニ見本品等ヲ要求セル廳長ニ送附シ其本書竝見本ハ該委員ニ之ヲ管守シ置クヘシ
- 第十七條 大臣ノ命或ハ各廳ヨリノ要求ニヨリ購買委員艦船兵器機械等ノ製造ヲ海軍部外ノ製造所ニ命セシトキハ其主管ノ廳ヨリ時々検査員ヲ其製造所ニ派遣シ其製造ヲ監督スヘシ然トモ検査員ハ其製造所ニ附與セル命令書竝ニ之ニ附帶セル圖案或ハ明細書ニ記載セル條款外ノ事ヲ命スルコトヲ得ス
- 第十八條 大臣ノ命或ハ各廳ヨリ海軍部内ノ製造所ニ命シ製造セシムル艦船兵器機械ノ中其某ノ部分其製造所ニ於テ製造スルヲ要セス又ハ製造シ能ハスシテ其製造所ヨリ海軍部外ノ製造所ニ命シテ製造セシムルヲ要スルモノ、如キハ購買委員ノ關スル所ニ非ス但シ外國製造所ニ命スルモノハ此限ニ在ラス
- 第十九條 各廳ヨリ購買ノ要求アル物件ニシテ同一ノ用ニ供スルモノハ購買委員ニ於テ物質品格ヲ一定スルヲ要ス
- 第二十條 甲廳ヨリ購買ノ要求アル物件乙廳ヨリ要求セル物件ト同一ノ物ニシテ同一ノ用ニ供スルモノ若シ甲廳ト乙廳ト其材質物格ニ高下アリ價格ニ差等アルトキハ購買委員甲乙ノ廳長ト協議シ利害得失ヲ較計シテ之ヲ一定スヘシ
- 第二十一條 主管ノ廳ヨリ派遣セル検査員ノ監督ヲ受ケ製造セシモノ購買委員ヨリ其廳ニ引渡ス際ニ臨ミ其廳ニ於テ其製造方ノ良惡適否ニ關シ異議ヲ生スルコトアルモ該委員ハ其責ニ任スルコトナシ
- 第二十二條 購買ノ方法ハ其材料物品ノ種類ニヨリ時機ヲ量リ便宜之ヲ施行スヘシト雖モ概項ヲ掲クルコト左ノ如シ
 - 第一 一般ノ入札
 - 第二 特別ノ入札

第三 直接購買

- 第二十三條 入札ハ購買委員長竝ニ二名以上ノ委員列席ノ上開封スヘシ委員長事故有ルトキハ二名以上ノ委員列席シ開封スルコトヲ得
- 第二十四條 內國商賈製造所等ト取結ヘキ定約ハ命令ノ書式ヲ用フヘシ
- 第二十五條 凡ソ購買委員ニ於テ取結タル定約ノ不注意ヨリ生セル結果ハ該委員其責ニ任セサル可ラス
- 第二十六條 凡ソ購買委員ニ於テ取結タル定約ヲ遵守セシムルコトハ該委員ノ責任トス
- 第二十七條 石炭購買ノ法ハ海軍部内ニ炭礦有ルヲ以テ別ニ之ヲ定ムルモノトス
 - 但シ已ヲ得サルノ場合ニ臨テ海軍部外ニ於テ之ヲ購買スルトキハ此規程ニ依ル可シ
- 第二十八條 郵便電信切手ノ購買ハ此規程ニ據ルノ限ニ有ラス
- 第二十九條 常用既定ノ物件中新發明若クハ改良セルモノ有リ購買委員ニ於テ之ヲ有益ノモノト認メ改定ヲ必要トスル時ハ購買委員ヨリ之ヲ要スル各廳ニ通知スヘシ
- 第三十條 各廳ニ於テ不用物品有ルトキハ其品目量數ヲ記載シ其賣却方ヲ購買委員ニ要求スヘシ購買委員ハ其品目ヲ調査シ其賣却ヲ要求セル廳ニ於テ不用ニ屬スルモ他廳ニ於テ要用ナルモノ有リト思料スルトキハ他廳ニ品目書ヲ回送シ其用否ヲ問フヘシ他廳ニ於テハ其品目ノ中要用ナルモノ有ルトキハ其品目書ニ要用ナル理由ヲ記シ購買委員ニ要スヘシ購買委員ハ其品目要求書ヲ賣却要求ノ廳ニ送致スヘシ而テ其廳ハ之ヲ要求セル廳ニ交附スヘシ若シ其物品賣却ヲ要求セル廳ノ作業費ニ屬セルモノニ於テハ購買委員ニ於テ定タル代價ヲ其廳ニ償還スヘシ
- 第三十一條 賣却スヘキ物件海軍部内何ノ廳ニ於テモ要セサルモノハ賣却法ニ準シ之ヲ賣却シ其代價ハ賣却要求ノ廳ニ償還スヘシ
- 第三十二條 凡ソ賣却ハ時宜ニヨリ之ヲ施行スヘシト雖モ一般入札拂ヲ以テスルヲ法トス而テ其開封ノ法ハ購買入札開封ノ法ニ同シ

第三十三條 火藥取締規則ニ據リ人民ニ火藥拂下クルコトハ火藥製造所ノ主管ニシテ購買委員ノ管スル所ニ在ラス

購買委員内規 十九年二月二十三日

第一條 委員ニ於テ購買スヘキ物件ハ之ヲ類別分科スルコト左ノ如シ

- 一科 艦船類
- 二科 索並麻類 滑車類 塗料類 帆布類
- 金屬材類 木材類 船具木金屬類 雜具
- 三科 機關 機械 機籠類 油類 火燈類 石炭類
- 四科 兵器類
- 五科 水雷類
- 六科 火藥類
- 七科 測器類
- 八科 藥品並醫療具類

九科

- 薪炭類 被服地 旗地 織物類 家具
- 文具 食器 木具類 地所 建築物類
- 糧食類 圖書類

第二條 委員ハ物件類別分科ヲ分配シテ主任スヘシ

第三條 委員主任ソコトニ就キ浦賀以內ノ地ニ出張セントスルトキハ委員長ノ認可ヲ得ヘシ

第四條 主任ノコトハ委員長之ヲ分囑ス主任ノ委員不在ノトキハ委員長他ノ委員ニ其主任ノ事ヲ兼囑ス

第五條 主任委員ハ自己負擔ノ事ヲ主理スト雖モ他ノ專務委員ハ必ス之ニ參事ス又他ノ兼務委員モ成ルヘク參事スルヲ要ス

第六條 主任委員ノ主理セルコトニ就キ參事委員意見アルトキハ委細ニ之ヲ主任ニ開陳スヘシ若シ議協ハサルトキハ委員長之ヲ決定ス

第七條 購買ノ事ニ就キ商賈トノ引合ハ委員自ラ之レヲ爲スヘシ已ムヲ得サルノ理由アルニ非サレハ書記屬員ヲ用ユヘカラス

第八條 各廳トノ協議ハ務メテ雙方ノ便宜ヲ計リ繁文ノ煩ヲ省クヲ要ス

第九條 臨時物件金五百圓以下ノモノヲ各廳ニ於テ購買シタル報告ヲ得ルトキハ委員之ヲ調査シ若シ其物件定用物件ニシテ臨時物件ニ非スト認定スルトキハ其理由ヲ委員長ニ開陳スヘシ委員長ハ之ヲ大臣ニ具狀ス

第十條 委員ハ各自主任ノ物件ニ就キ常ニ内外國ノ市價ヲ調査シ毎月其前月ノ市價ト比較シ高低ヲ記載シ置クヘシ

第十一條 委員ハ海軍需用ノ物件ニ就キ内外國トモ各地産出ノ多寡品質適否價格ヲ常ニ調査シ置クヘシ

第十二條 各廳ヨリ物件購買ヲ請求スルトキハ各委員之ヲ回覽シ屬員ヲシテ各主任ノ物件量數價格廳名ヲ披記シ各廳ノ同類物件ヲ總括シ量數價格ヲ總計セシメ委員長竝ニ他ノ委員ノ回覽ニ附シ然後購買ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 各廳ヨリ購買請求セル物件ノ中委員調査シ他ヨリ購買シ又ハ他ニ命シテ製造セシムルヨリモ寧ロ海軍部内ノ製造セシムルコト有益又ハ便利ナリト思料スルトキハ請求スル廳ニ協議スヘシ

第十四條 商賈等ヨリ新發明又ハ改良セル物件ヲ出シ需用ノ適否利害得失ノ試験ヲ請フトキ委員之ヲ調査シ試験スヘキ程ノ効ナキ物ト思料スルトキハ委員長ニ其旨ヲ開陳シ願主ヲ諭シテ之ヲ返却スヘシ但シ後來ノ參考ニ供スヘキモノハ願主ノ承諾ヲ得テ之ヲ備ヘ置クヘシ若其物件有益適用ノモノト思料スルトキハ委員長ニ開陳シ主管廳ニ試験ヲ請ヒ其結果ヲ願主ニ示諭スヘシ

第十五條 委員ハ海軍需用物件ノ見本ヲ備置クヘシ

第十六條 凡ソ購買ハ之レヲ請求セル廳若ハ其廳ノ指示セル場所ニ回送シ其場所ニ授受スルノ定約ヲ以テスヘシ

第十七條 凡ソ商賈ヨリ購買セル物件ハ保證券竝ニ商賈ヲ附スルヲ要ス但シ之ヲ要セサルモノ、如キハ此限ニアラス

第十八條 各廳ヨリ不要物件賣却ノコトヲ請求スルトキハ委員其物件ノ品目量數價格等ヲ調査シ其物件ノ現狀ヲ檢視シ其中海軍部内他廳ノ用ニ適用スヘキモノアリト思料スルトキハ其廳ニ商議シ其廳ニ有用ナル物ハ委員不用ノ廳ト有用ノ廳トノ間ニ立チ授受ノ手續ヲ爲スヘシ其物件不要ノ廳ノ定例費ニ屬スルモノハ有用ノ廳ヨリ代價ヲ償還スルヲ要セス

第十九條 不要ノ物件海軍部内何レノ廳ニ於テモ要セサルトキハ大臣ニ之ヲ具狀シ大臣ニ於テ他省等ニ要スヘキヤヲ問合スヘキヤノ命アルトキハ委員之ヲ他省ニ問合セ其省ニ有用ナルモノハ會計局ト協議シ讓渡又ハ賣却ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 海軍部内他省等ニ於テ要セサル物件ハ人民ヘ排下ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 凡ソ不要物件讓渡又ハ賣却ノ事ハ豫メ會計局ヘ協議スヘキコト、ス

第二十二條 書記並屬員ハ委員長又ハ委員ノ命有ルニ非サレハ購買物件ヲ豫メ商賈ニ通知スヘカラス

第二十三條 屬員ハ專務委員ニ分屬スヘシ事ノ繁閑ニヨリ彼是兼用スルハ便宜ニ任ス

購買委員長ヨリ海軍省ヘ届十九年二月二十三日
常委員事務取扱内規別冊ノ通相定候條此段御届仕候也

海軍省ヨリ各廳ヘ達 十九年三月十七日
諸生徒食料獸飼料其他日用ニ供スル物件ニシテ貯蓄シ難キモノハ定用物件ニ屬スルモノト雖モ購買委員ニ要求スルヲ要セス各廳ニ於テ買辦方取計候儀ト心得ヘシ此旨相達候也

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
其委員屬員當分ノ内判任官六人ヲ以テ定員ト定ム

勅令 十九年四月二十二日内閣總理大臣伯耆伊藤博文海軍大臣伯耆西郷從道副署
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日
海軍省ヨリ購買委員ヘ達 十九年二月二十七日

購買委員ヲ選シ事務ヲ
督買部ニ繼承セシム

督買部處務細則ヲ定ム
二十一年二月勅令第三號
ヲ以テ督買部ヲ廢ス

海軍省令 第三十九號 五月十二日
購買委員ヲ廢シ從來該委員ヲシテ掌理セシメタル事項ハ總テ海軍督買部ヲシテ繼承セシム

海軍省ヨリ督買部ヘ達 十九年五月三十一日
其部處務細則別冊ノ通定ム

(別冊) 督買部處務細則

第一條 本部ニ於テ購買スヘキ物件ハ之ヲ類別分科スルコト左ノ如シ

第一科

艦船類

第二科

索竝ニ麻類

滑車類

塗料類

帆布類

艦船營用火燈

第三科

木材類

船具木金屬類

艦内雜具

第四科

機關機械機櫃類

油類

金屬類

バツキング類

石炭類

兵器

水雷

火藥

測器

藥品

醫療具

諸工具

埧堀

火藥用木材

革類

黑鉛

第五科

硅酸石竝粘土ゴム類

薪炭類

被服地旗地織物類

石礮

硝子

家具文具食器木具類 地所建築物類 煉瓦

土砂 石 糧食類 圖書類

第二條 理事官ハ各科ヲ分擔幹理スヘシ

但シ通常ノ事務ハ事務理事官之ヲ處理スヘシ

第三條 各理事官ノ分擔ハ部長之ヲ定ム

第四條 外國物件賣上命令書ヲ附與スルコトハ主理理事官他ノ理事官ニ回議シ部長ノ認印ヲ受クヘシ

但シ部長事故アルトキハ此限ニ非ラス

第五條 理事官ハ各自主任ノ物件ニ就キ常ニ内外國ノ市價ヲ調査シ毎月其前月ノ市價ト比較シ高低ヲ

記載シ置クヘシ

第六條 理事官ハ海軍需用ノ物件ニ就キ内外國トモ各地產出ノ多寡品質適否價格ヲ常ニ調査シ置ク

ヘシ

第七條 各廳ヨリ購求請求セル物件ノ中理事官調査シ他ヨリ購買シ又ハ他ニ命シテ製造セシムルヨリ

モ寧ロ海軍部内ニ於テ製造セシムルコト有益又ハ便利ナリト思料スル時ハ請求セル廳ニ協議スヘシ

第八條 商賈等ヨリ新發明又ハ改良セル物件ヲ出シ需用ノ適否利害得失ノ試験ヲ請フ時理事官之ヲ調

査シ試験スヘキ程ノ功ナキ物ト思料スル時ハ部長ニ其旨ヲ開陳シ願主ヲ諭シテ之ヲ返却スヘシ但シ

後來ノ參考ニ供スヘキモノハ願主ノ承諾ヲ得テ之ヲ本部ニ備ヘ置クヘシ若シ其物件有益適用ノモノ

ト思料スル時ハ部長ニ開陳シ主管廳ニ試験ヲ請ヒ其結果ヲ願主ニ示諭スヘシ

第九條 理事官ハ各負擔ノ科ノ物件見本ヲ備置クヘシ

第十條 購買スヘキ物件ハ之ヲ要求セル廳若クハ其廳ノ指示セル場所ニ於テ授受スヘシ

第十一條 屬員ハ部長及理事官ニ分屬ス

第十二條 部長專屬員ハ公文ノ授受官印ノ管守秘密ノ事項及ヒ其他ノ庶務ニ從事ス

第十三條 理事官屬員ハ其理事官負擔ノ科務ニ從事ス

購買事務規程改定ス
二十一年二月勅令第三號
ノ以テ督買部ヲ廢ス

海軍省令 十九年六月二日
第四十號 海軍一號
購買事務規程左ノ通改定ス

購買事務規程

- 第一條 凡ソ海軍ニ於テ諸般ノ需用ニ供スル物件ハ定例費ヲ以テスルモノト作業費ヲ以テスルモノトノ別ナク督買部ヲシテ購買セシメ不用物件ノ排下モ亦督買部ヲシテ處分セシム
- 第二條 需用物件ハ豫定物件臨時物件ノ二種ニ區別ス
- 第三條 豫定物件トハ其數量ヲ前年度ニ豫定スルコトヲ得ヘキモノヲ云フ臨時物件トハ品目若クハ數量ヲ前年度ニ豫定スルコト能ハサルモノニシテ臨時ニ之ヲ要スルモノヲ云フ
- 第四條 不用物件トハ需用ニ適セサルモノヲ云フ
- 第五條 豫定物件ハ各廳ニ於テ來年度中ニ要スルモノ、品目數量價額及之ヲ要スル期限ヲ豫定シ十二月中ニ督買部ニ購買ノコトヲ要求スヘシ若シ十二月中豫定スルコト能ハサルモノハ翌年三月限り豫定シ之ヲ要求スヘシ又豫定ニ變更アル時ハ之ヲ督買部ニ通知ス可シ
- 第六條 食料飼料其他藥品等ノ如キ變質若クハ腐敗シ易クシテ貯蓄シ難キ物ハ豫定物件ト雖モ各廳ニ於テ之ヲ購求スルコトヲ得
- 第七條 東京遠隔ノ廳ヨリ豫定物件ヲ要求シタルトキ督買部ハ其物件僅小ニシテ其廳直ニ之ヲ購買スルヲ便宜ナリト認メテ之ヲ通知シタルトキハ其廳直ニ之ヲ購買スルコトヲ得
- 第八條 臨時物件各廳ノ定例費内ヲ以テ支辨スルモノ、中需用至急ニシテ督買部ニ要求シテ購買スルノ日時無キ時ハ一箇月合計金五百圓以下ニ屬スルモノハ各廳ニ於テ直ニ購買スルコトヲ得作業費ニ屬スルモノモ此場合ニ於テハ亦同シ
- 第九條 艦船外國航海ヲ爲ス時石炭食糧其他需用ノ物件航海先キニ於テ闕乏スルトキハ臨時ニ之ヲ購買スルコトヲ得此場合ニ於テハ最初ノ郵便ヲ以テ其所管長官ニ報告シ其長官ハ之ヲ督買部長ニ通知スルモノトス

ルモノトス

- 第十條 督買部ハ大臣ヨリ物件購買ノ命アル時ハ之ヲ要スル廳ト協議シ購買ノコトヲ行フヘシ
- 第十一條 督買部長或ハ理事官ハ主管ノ事務ニ關シ各廳主任者ト面議ヲ要シ部長或ハ理事官ノ名ヲ以テ各廳長ヘ照會シタルトキ各廳長其主任者ヲ該部ニ派遣スヘシ
- 第十二條 督買部ニ於テ物件ヲ購買スル際ニ當テ賣上ヲ命スル商賈ヨリ見本價付等ヲ出ストキハ成ルヘク先ツ其廳ニ移シ適否ノ監査ニ附シ然ル後チ購買ノコトヲ行フ可シ
- 第十三條 督買部ニ於テ購買スヘキ物件ハ要求セル廳ノ監査主任者之ヲ檢査シ合格ト認定シタルモノヲ領收スヘシ此檢査ノ際時宜ニヨリ督買部員立合フコトアルヘシ
- 第十四條 督買部ニ於テ購買シタルモノ、代金ハ約定ニ照シ要求シタル廳ニ於テ支拂フ可シ
- 第十五條 督買部ニ於テ購買セル物件其要求シタル廳ニ引渡タル後チ其物件ノ不良不合格ヲ見出スコトアルモ督買部ハ其責ニ任セスト雖モ其廳ハ其狀況ヲ委細ニ督買部ニ通牒スルトキハ該部ニ於テ其物件ヲ檢査シ事實相違ナキモノト認ルトキハ其賣主ヲ督責シ約定ニ從ヒ處分スルコトアルヘシ
- 第十六條 督買部ニ於テ購買ノ定約ヲ爲シタルトキハ速ニ其定約書ノ寫之ニ附帶セル書類ノ寫竝見本品ヲ要スルモノハ其見本ヲ副ヘ要求セシ廳ニ送附スヘシ
- 第十七條 大臣ノ命或ハ各廳ヨリノ要求ニヨリ督買部ニ於テ艦船兵器機械等ノ製造ヲ海軍部外ノ製造所ニ命セシ時ハ其主管ノ廳之ヲ監督スヘシ
- 第十八條 大臣ノ命或ハ各廳ヨリ海軍部内ノ製造所ニ命シ製造セシムル艦船兵器機械ノ中其某ノ部分其製造所ニ於テ製造スルヲ要セス又ハ製造スル能ハスシテ其製造所ヨリ海軍部外ノ製造所ニ命シテ製造セシムルヲ要スルモノ、如キハ督買部ノ關スル所ニ非ス但シ外國製造所ニ命スルモノハ此限ニ在ラス
- 第十九條 各廳ヨリ購買ノ要求アル物件ニシテ同一ノ用ニ供スルモノハ督買部ニ於テ物質品格ヲ一定スルヲ要ス

第二十條 郵便電信切手其他證券印紙類ノ購買竝ニ圖書ノ印刷ハ此規程ノ限ニ在ラス
 第二十一條 需用物件ノ中新發明若クハ改良セルモノ有リ督買部ニ於テ之ヲ有益ノモノト認メ改定ヲ必要トスル時ハ督買部ヨリ之ヲ要スル各廳ニ通知スヘシ
 第二十二條 各廳ニ於テ不用物品有ルトキハ其品目數量ヲ記載シ其賣却方ヲ督買部ニ要求スヘシ該部ハ其品目ヲ調査シ賣却ノ處分ヲ爲スヘシ若シ他廳ニ要用ナル物品有リト思料スル時ハ其品目書ヲ同送シ用否ヲ問フヘシ他廳ニ於テ要用ナルモノ有ル時ハ之ヲ該部ニ要求シ該部ハ其要求書ヲ賣却要求ノ廳ニ移ス其廳ハ其物品ヲ需用ノ廳ニ交附スヘシ但作業廳ハ相當ノ代價ヲ領收スヘシ
 第二十三條 消炭灰鉤屑塵芥下掃除等ノ如キモノハ各廳ニ於テ直ニ拂下クルコトヲ得

督買部職員ノ定員ヲ定
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス
 其部職員ノ定員ヲ十四人ト定ム
 右訓令ス

海軍省ヨリ督買部へ達 十九年五月十一日
 海軍省ヨリ督買部へ達 二十年十二月三日
 其部職員ノ定員ヲ筆生十人ト定ム

海軍省達 西十七年一月十日
 西十七年三月號海軍一號
 本省中ニ調度局ヲ置ク此旨相達候事

海軍省届 十七年一月十日
 今般本省中ニ調度局設置候條此旨御届仕候也

海軍省達 西十七年二月一日(前文ハ規程局
 西十七年四月號ノ内(ノ部ニ載スル)
 調度局條例

督買部職員ノ定員ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス
 督買部職員ノ定員ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス
 督買部職員ノ定員ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス
 督買部職員ノ定員ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス
 督買部職員ノ定員ヲ定ム
 二十一年二月勅令第三號
 ヲ以テ督買部ヲ廢ス

第一條 調度局ハ需用物品ノ購買貯藏供給及ヒ本省所屬ノ土木營繕等ニ關スル事ヲ幹理スル所トス
 第二條 局内ニ庶務監査購買主藏供給營繕ノ六課ヲ置キ各其事務ヲ分掌セシム
 第三條 庶務課ハ局長ノ處分ニ係ル文書ノ往復受付官印ノ監守公文書類ノ編修保存諸報告ノ調製其他各課ノ主管ニ屬セサル庶務ヲ掌理ス
 第四條 監査課ハ買辦及ヒ貯藏物品ノ良否存廢交換等監定ノ事ヲ掌理ス
 第五條 購買課ハ船具石炭被服糧食其他需用物品買辦ノ事ヲ掌理ス
 第六條 主藏課ハ船具石炭被服其他需用物品ノ貯藏保存配賦運輸ノ事ヲ掌理ス
 第七條 供給課ハ被服ノ裁縫糧食ノ製造及ヒ配給等ノ事ヲ掌理ス
 第八條 營繕課ハ本省所屬ノ土地家屋及ヒ其土工建築修理等ニ關スルコトヲ掌理ス
 第九條 局長一人五等官以上ヲ以テ之ニ充テ所轄諸員ヲ統督シ主管ノ事務ヲ總理ス
 第十條 局長ハ主管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ辯明スルコトヲ得而シテ亦擔保ノ責ニ任ス
 第十一條 局長ハ所轄諸員ノ進退黜陟ヲ卿ニ具狀スルコトヲ得
 第十二條 局長ハ常備豫備需用物品ノ現額ヲ詳悉シ豫メ補充配賦交換等ヲ慮リ其準備ヲ爲スヲ要ス
 第十三條 局長ハ需用物品支給保存ノ方法ニ就テハ常ニ其得失利害ヲ考察シ意見アルキハ之ヲ卿ニ具陳ス可シ
 第十四條 局長ハ左ニ記列スル事項ハ卿ノ認可ヲ經ルニ非サレハ施行スルコトヲ得ス
 第一 定例外ノ經費金ヲ要スル事
 第二 外國人ト諸條約書ヲ交換スル事
 第三 新築改造一工事ニ付一百圓以上ノ金額ヲ要スル事
 第四 定用物品ノ額ヲ増減スル事
 第五 定額外ノ需用物品ヲ艦船營等ニ配賦スル事
 第六 損廢ノ物品器具等ヲ賣却スル事

- 一 機械術新報
- 一 砲術新報
- 一 海陸將校會館報告
- 一 艦隊日誌
- 一 外國兵事評論
- 一 海軍省官報
- 一 海軍省官報
- 一 佛國海軍將校手簿
- 一 佛國海軍年表

同 同 同 同 同 同 同 同 佛國出版

海軍省ヨリ調度局へ達 十七年四月一日

舊艦船需用品取調委員擔當事務其局へ引繼方別紙ノ通今并海軍中佐へ相達候條右事務自今其局ニ於テ可取調此旨相達候也

海軍省ヨリ舊艦船需用品取調委員へ達 十七年四月一日

舊委員ニ於テ取扱候事務調度局へ引繼方可取計此旨相達候也

調度局ヨリ海軍省へ届 十七年四月一日

舊艦船需用品取調委員取扱ノ事務當局へ可引受旨第一〇〇六號ノ二ヲ以御達相成候ニ付局中へ艦船需用品取調掛ヲ設ケ中村大尉以下八名へ別紙ノ通相達候條此段御届仕候也

水雷局建築掛規程 十七年五月五日

第一條 本掛ハ相州長浦灣へ設置スヘキ水雷局新築工業一切ノ事ヲ管理スル處トス

第二條 本掛ハ調度局ノ直轄ト爲シ其根居ヲ本局ニ置キ其出張所ヲ長浦ニ設ク

第三條 掛長一員ヲ置キ該工業一切ノ事ヲ調理監督セシム而シテ其主管ノ事務ニ於テハ調度局長ニ對シ責ニ任ス

調度局中水雷局建築掛ヲ設ケ規程ヲ定ム
水雷局建築ニ至リ消滅ス但本局ハ十九年一月二十九日附度局ヲ廢シ需用品取調委員ノ事務ヲ艦政府ニ屬ス上ニ盡ス
十九年一月二十九日附度局ヲ廢シ需用品取調委員ノ事務ヲ艦政府ニ屬ス上ニ盡ス

第四條 掛員若干員ヲ置キ掛長ノ指揮ヲ請ケ各工事其他ノ事務ニ分任セシム

第五條 左ノ事項ハ調度局長ノ許可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

- 一 工事ノ圖面仕様帳ヲ決定スル事
- 一 既定ノ圖面仕様帳ヲ増減伸縮シ且地面建築ノ位置區畫等ヲ變更スル事
- 一 調度局長ノ名ヲ掲ケル書類ノ事
- 一 工事ヲ區別シ請負又ハ呼上等ヲ以テ著手ノ方法ヲ定ムル事
- 一 工事入札又ハ受負金百圓以上ノ者ニ落札又ハ受負ヲ命スル事

第六條 左ノ事項ハ掛長之レヲ專行シ然ル後緩急ヲ計リ局長ニ申報スヘシ

- 一 掛員ヲ東京並浦賀以內ノ地へ派出スル事
- 一 諸職工人夫等ヲ雇入又ハ解雇スル事
- 一 工事受負人ヲ撰定スル事
- 一 職場人足小屋材木置場等ノ假小屋ヲ建築スル事
- 一 附屬ノ工具通船荷車等ヲ修理スル事
- 一 掛員以下月俸旅費日當其他定規ノ諸給與ヲ橫須賀用所會計主任ヨリ支給セシムル事
- 一 工事受負金材料購買其外職工賃錢等一項百圓以內ノ支出金ヲ橫須賀用所ヨリ支出セシムル事
- 一 臨時至急ノ入費ヲ要スルトキハ本掛準備金ノ內ヲ以テ一時假拂スル事
- 一 地方廳郡區長戸長役場並海軍部內各廳艦船ニ對シ掛長ノ名ヲ以テ照會往復スル事

調度局ヨリ海軍省へ届 十七年五月五日

今般相州長浦ニ水雷局建築セラルヘキ御内命ニ付テハ當局營繕課ニ於テ負擔可致ノ處共建築タル尋常ノ工事ニ無之加ニ之速成ヲ要スル趣ニ付該課外ニ一ノ掛ヲ置キ特ニ一切ノ事ヲ管理セシムルニ非サレハ竣工無覺束依テ當局中ニ水雷局建築掛ヲ設ケ其規程別紙ノ通相定メ候條御聽置有之度此段御届仕候也

調度局中水雷局建築掛規程ヲ設ケ規程ヲ定ム

十五年十二月二十三日普
第四一四號命令給與新
集發行ノ件ハ會計局ノ部
ニ屬ス
十九年一月二十九日調度
局ヲ廢ス上ニ屬ス

現行披萃海軍給與類集發行ノ義ハ去ル十五年十二月九日會一上第一〇七號ヲ以テ上申同月二十三日普
第四一四號ヲ以テ御裁令相成候以降該書印刷製本等會計局經費ヲ以テ支辨致來候處右ハ調度局ノ管
理ニ屬スヘキモノト思料候條自今ハ該局ノ取扱ニ附セラレ而シテ其經費内ヲ以テ支辨候條致度此段仰
高裁候也
十九年七月十七日

追テ該書編成及各廳艦船營へ配賦又ハ會計ノ職務ニ從事スル武文官へ貸與等ノ義ハ從前ノ通會計局
ニ於テ取扱此段爲念副申仕候也

東海鎮守府ヨリ海軍省へ上申十七年五月二十六日
沿港根岸村射的場ノ義ハ本府所轄ニ被附置候處當府ノ義追テ橫須賀へ被令移轉候旨豫テ御達ノ義モ有
之且又該場ノ義ハ陸軍ノ次第有之自今演習可差止旨御達相成候ニ付テハ旁此際該場及其附屬品番人共
調度局へ所轄替相成候致度此段至急上請仕候也
指令十七年十一月二十七日

上請ノ趣聞屆候條調度局へ引渡ノ上其旨可届出事

海軍省ヨリ調度局へ達十七年十二月十五日

今般橫須賀海軍用所相廢候ニ付其局營繕課出張所ヲ設ケ從來海軍用所ニ於テ取扱來候地所營繕ニ關ス
ル事務ヲ取扱ハシムヘシ且該所從來ノ建物諸物品等供給ノ事務ハ橫須賀鎮守府へ可引渡此旨相違候事

調度局ヨリ海軍省へ伺十七年十二月十五日

各艦船營ヨリ定例外ノ諸物品新規又ハ引換交付方ノ義ニ付舊東海鎮守府及中艦隊事務代理へ申出ノ分
調度局主査ニ係ルヲ以テ内局ヨリ回付相成候書類數多有之候處本日御達相成候丙第六十七號鎮守府
條例第十條並丙第六十八號同府倉庫條例第五條ニ依ルトキハ總テ該府ニ於テ其要否ヲ審查スヘキハ
勿論物品ハ同倉庫ヨリ交付相成候義ト被存候得共前件書類ノ本日御達以前ニ係ルモノハ仍ホ調度局ニ

調度局元海軍用所所管
ノ地所營繕ニ關スル事
務ヲ管ス
海軍用所ノ廢ハ此日ニテ
リ海軍用所ノ部ニ屬ス
十九年一月二十九日調度
局ヲ廢ス上ニ屬ス
調度局鎮守府條例並同
府倉庫條例並同府
主査ノ職務取扱方ヲ管
ス
十九年一月二十九日調度
局ヲ廢ス上ニ屬ス
調度局鎮守府條例並同
府倉庫條例並同府
主査ノ職務取扱方ヲ管
ス
十九年一月二十九日調度
局ヲ廢ス上ニ屬ス

於テ取扱候テ可然哉尙至急仰高裁候也
十七年十二月二十三日

橫須賀調度局營繕課出張所處務内規 十八年一月八日

- 第一條 出張所ハ橫須賀浦賀其他最寄ノ本省所屬地所營繕ニ關スル事ヲ管理スル所トス
- 第二條 所内ニ記事督役積算ノ三掛ヲ置キ各其事務ヲ分掌セシム
- 第三條 記事掛ハ文書ノ受付往復公文書類ノ編修保存諸報告ヲ調製シ家稅借地料ノ徵集材料ノ價格工
夫ノ賃錢其他營繕費額ヲ計算シ又新築修繕ノ廣告投票材料ノ管守出納等ノ事ヲ掌理ス
- 第四條 督役掛ハ新築修繕ノ圖面仕樣書及工事ノ精粗材料瓦石煖爐ノ良否ヲ點檢シ諸職工人夫ヲ監督
使役等ノ事ヲ掌理ス
- 第五條 積算掛ハ新築修繕ノ圖面仕樣書等調製ノ事ヲ掌理ス
- 第六條 出張所ニ係ル入費ハ本局ノ豫算額内ヨリ適宜分割支辨スヘシ
- 第七條 主任一人ヲ置キ所員ヲ監督シ所務ヲ掌理セシメ其主管ノ事務ニ於テハ本課長ニ對シテ責任
ス
- 第八條 主任ハ諸官解ノ需求ニ應ジ既定ノ官舎ヲ例規ニ照シテ貸與スル事
- 第九條 主任ハ所員ニ工事ノ起業ヲ命シタルトキハ其分擔者ヲ本課ニ報告スル事
- 第十條 主任ハ所員ノ内無止事故アリテ公暇日外ニ出京ヲ出願スルモノアルトキハ往返日數三日ヲ限
リ本課ヲ經テ本局ノ裁可ヲ得ヘシ
- 第十一條 主任ハ管掌ノ事務ニ就キ地方廳若シハ海軍部内ノ各廳主任官へ照會往復スル事
- 第十二條 主任ハ公務ヲ帶ヒ橫濱東京へ一時出張ヲ要スルトキハ本課ヲ經本局ノ裁可ヲ得ヘシ尤臨時
至急ヲ要スル際ハ其限ニアラス
- 第十三條 左ニ列記スル事項ハ本局ノ認可ヲ經サレハ施行スルヲ得ス
其一 諸官解ヲ新築シ道路ヲ改造スル事

橫須賀調度局營繕課出張所
處務内規ヲ假定ス
十八年二月三日改正ス

海軍假條例ハ九年九月海軍省第一號達ヲ以テ定ムル所ニシテス

調度局管轄横須賀出張所會計員心得 十八年一月二十四日

調度局ヨリ海軍省ヘ届十八年一月八日

横須賀調度局管轄横須賀出張所處務内規別冊ノ通假定致候條此段御届仕候也

- 其二 出張所所屬解舍ノ位置ヲ變換改造シ及其地所ノ境界ヲ更定スル事
- 其三 概算金額一廉五十圓以上ヲ要シ復舊修繕スル事
- 其四 官役人夫死傷手當及療養料ヲ給與スル事
- 其五 定用物品額ヲ増減スル事
- 其六 制定ノ諸帳簿ヲ改正スル事
- 第十四條 左ニ列記スル事項ハ主任之レヲ專行シ然ル後緩急ヲ酌量シ本課ヲ經テ本局ニ申報ス
 - 其一 所員ニ掛ヲ分任スル事
 - 其二 所員ヲシテ一時東京橫濱浦賀等ヘ出張セシムル事
 - 其三 所員ニ既定ノ俸給旅費日當ヲ支給スル事
 - 其四 新築改造復舊修繕ノ費用ヲ成規ニ照ラシ支出スル事
 - 其五 賣上證又ハ受取證ヲ精算スル事
 - 其六 諸職工人夫一時雇入ル事
- 第十五條 所員ノ内一名順次宿直セシメ所内ノ取締ヲ爲ス事
- 第十六條 所員ノ内雇附屬ノ者忌服届及病氣療養届歸省湯治等一己ニ係ル文書ハ主任ニ宛差出シ主任之レニ與書シ本課ヲ經テ本局ニ進達スルモノトス
- 第十七條 等外吏以上前條ノ場合ニアリテハ海軍假條例第五條ニ照ラシテ差出シ都テ主任之レニ添書シ本課ヲ經テ本局ニ進達スルモノトス
- 第十八條 主任事故アルトキハ先任ノ所員之レカ代理ヲ爲ス
 - 調度局ヨリ海軍省ヘ届十八年一月八日
 - 横須賀調度局管轄横須賀出張所處務内規別冊ノ通假定致候條此段御届仕候也

月十六日大藏省ニ於テ定ムル所財政門出納規則ノ部ニ載ス

十九年一月二十九日調度局ヲ廢ス上ニ載ス

- スヘシ
- 但シ出張所主任權外ノ事項ニ屬スル出納ハ調度局長ノ認可書ヲ認ムルノ後ニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
- 第二條 會計員ハ若干ノ豫備金ヲ管守シ若シ至急ノ支出ヲ要シ前條ノ手續ヲ執行スヘキ暇ナキトキハ一時繰替支辨スルコトヲ得
- 第三條 前條至急ノ支出ヲ要シ繰替支辨セシトキハ直チニ第一條ノ手續キヲ以テ該金額ヲ受入レ豫備金ヘ補填スヘシ
- 第四條 會計員ハ左ノ帳簿ヲ主管シ收支ノ事由及ヒ金員ヲ記入スヘシ
 - 一 現金受拂簿 (一號書式)
 - 二 雜收入簿 (二號書式)
 - 三 經費簿 (三號書式)
 - 四 貸渡官舎修繕費簿 (三號書式)
 - 五 豫備金簿 (四號書式)
- 第五條 會計員ハ前條ノ帳簿ヲ基礎トシテ毎月三回出納表ヲ調製シ出張所主任ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第六條 第四條ノ帳簿式樣ヲ變更シ若クハ補助簿ヲ設クルトキハ其事由ヲ詳悉シ會計局長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 雜收入金ハ會計員ニ於テ一週日毎ニ其納金證書及ヒ本人ノ納メ證書ヲ取纏メ之ニ出張所主任ノ檢印アル上納證書書式ヲ添付シ其週後三日以内ニ該地ヲ發シ調度局ヲ經由シテ會計局ヘ收納スヘシ
- 第八條 貸渡官舎修繕費ノ元受金ハ毎月會計員其仕譯書ヲ調製シ之レニ出張所主任ノ檢印セル報告書六號ヲ添付シ翌月五日迄ニ該地ヲ發シ調度局ヲ經由シテ會計局ヘ申報スヘシ
- 第九條 諸經費ノ決算ハ會計員毎月其證書ヲ調理シ諸證書類調理之ニ出張所主任ノ證印アル通算表七號

何 月 何 日
納 費 表

假 拂	營 繕 費	何 所 新 營	現 在 金	締 高 圓
		一〇〇,〇〇〇	一四六,五〇〇	五〇,〇〇〇
				締 高 圓
				五〇,〇〇〇

(經費金及本拂ハ初期ヨリノ累算ヲ以テ掲ケ)
假拂ハ當日ノ殘高ヲ掲クヘシ

第四號書式
豫 備 金 簿

營繕課橫須賀出張所

年 月 日 明 治 何 年 何 月 日	摘 要	借 方		貸 方		殘 餘
		圓	錢	圓	錢	
一 月 日	至急ヲ要スル支出ノ繰替トシテ會計局ヨリ購入 何所迄電信料 票號		三五〇〇	二〇〇〇		二〇〇〇
六 日	同上在拂ノ電信料受入			三五〇〇		一六五〇〇
七 日	同上在拂ノ力車雇上代					二〇〇〇
十二 日						一九七〇〇

明 治 何 年 何 月 何 日
豫 備 金 納 出 表

勘 定 科 目	借 方	勘 定 科 目	貸 方
雜 給 雇 給	〇,三〇〇		二〇,〇〇〇
現 在 金	一九,七〇〇		
		締 高 圓	二〇,〇〇〇
		締 高 圓	二〇,〇〇〇

票號 (第五號書式)

明治何年何月何日

調度局長

出張所主任
庶務課長

會計員

會計局長

營繕課長
主計課長

計理課長

一金二十一圓五十錢

臨時雜收入

此譯

金二十圓

官有物拂下代
物品拂下代

金一圓五十錢

雜收入
雜收

右之通納金證書ヲ以上納候也

(第六號書式)

票號

明治何年何月何日

調度局長

出張所主任
庶務課長

會計員

營繕課長

會計局長

主計課長

何年度何月分貸渡官舎修繕費元受報告

一金何程

但仕譯書之通

右報告候也

(第七號書式)

票號

明治何年何月何日

調度局長

出張所主任
庶務課長

會計員

會計局長

營繕課長
主計課長

何年度何月分經費通算表

一金二百五十三圓五十錢

內譯

俸給 金九十圓

屬官俸給 金九十圓

雜給 金十六圓

旅費 金十六圓

廳費 金二十七圓五十錢

備 品 金二十七圓五十錢
 營繕費 金百二十圓
 何所新營 金百二十圓
 右之通有之候也

會計調度兩局ヨリ海軍省へ届十八年一月二十四日
 調度局營繕課横須賀出張所出張會計員心得別冊之通假定候條此段御届仕候也

横須賀調度局營繕課出張所處務内規 十八年二月三日

横須賀調度局營繕課出張所處務内規ヲ改正ス
 十九年一月二十九日附度局ヲ廢ス上ニ據ス

- 第一條 出張所ハ横須賀浦賀其他最寄ノ本省所屬地所營繕ニ關スル事ヲ管理スル所トス
- 第二條 所内ニ記事督役積算ノ三掛ヲ置キ各事務ヲ分掌セシム
- 第三條 記事掛ハ文書ノ受付往復公文書類ノ編修保存諸報告ヲ調製シ又新築修繕ノ廣告投票材料ノ管守出納等ノ事ヲ掌理ス
- 第四條 督役掛ハ新築修繕ノ圖面仕樣書及工事ノ精粗材料瓦石燧爐ノ良否ヲ點檢シ諸職工人夫ヲ監督使役等ノ事ヲ掌理ス
- 第五條 積算掛ハ新築修繕ノ圖面仕樣書等調製ノ事ヲ掌理ス
- 第六條 出張所ノ金錢出納及ヒ其決算整理ハ會計局主計部派出員ノ負擔トス
- 第七條 出張所ニ係ル入費ハ本局ノ豫算額内ヨリ適宜分割支辨スヘシ
- 第八條 主任一人ヲ置キ所員ヲ監督シ所務ヲ掌理セシメ其主管ノ事務ニ於テハ本課長ニ對シテ責任ス
- 第九條 主任ハ諸官廳ノ需求ニ應シ既定ノ官舎ヲ例規ニ照シテ貸與スル事
- 第十條 主任ハ所員ニ工事ノ起業ヲ命シタルトキハ其分擔者ヲ本課ニ報告スル事
- 第十一條 主任ハ所員ノ内無止事故アリテ公暇日外ニ出京ヲ出願スルモノアルトキハ往返日數三日ヲ

限リ本課ヲ經テ本局ノ裁可ヲ得ヘシ

- 第十二條 主任ハ管掌ノ事務ニ就キ地方廳若クハ海軍部内ノ各廳主任官ヘ照會往復スル事
- 第十三條 主任ハ公務ヲ帶ヒ横濱東京へ一時出張ヲ要スルトキハ本課ヲ經テ本局ノ裁可ヲ得ヘシ尤モ臨時至急ヲ要スル際ハ此限ニアラス
- 第十四條 左ニ列記スル事項ハ本局ノ認可ヲ經サレハ施行スルヲ得ス
 - 其一 諸官廳ヲ新築シ道路ヲ改造スル事
 - 其二 出張所々屬庫舎ノ位置ヲ變換改造シ及其地所ノ境界ヲ更定スル事
 - 其三 概算金額一廉五十圓以上ヲ要シ復舊修繕スル事
 - 其四 官役人夫死傷手當及療養料ヲ給與スル事
 - 其五 定用物品額ヲ増減スル事
 - 其六 制定ノ諸帳簿ヲ改正スル事
- 第十五條 左ニ列記スル事項ハ主任之レヲ專行シ然ル後緩急ヲ酌量シ本課ヲ經テ本局ニ申報ス
 - 其一 所員ニ掛ヲ分任スル事
 - 其二 所員ヲシテ一時東京横濱浦賀等へ出張セシムル事
 - 其三 所員ニ既定ノ俸給旅費日當ヲ支給スル事
 - 其四 新築改造復舊修繕ノ費用ヲ成規ニ照シ支辨スル事
 - 其五 賣上證又ハ受取證ヲ査閱スル事
 - 其六 諸職工人夫一時雇入ル事
- 第十六條 所員ノ内一名順次宿直セシメ所内ノ取締ヲ爲ス事
- 第十七條 所員ノ内雇附屬ノ者忌服届及病氣療養届歸省湯治等一己ニ係ル文書ハ主任ニ宛差出シ主任之レニ與書シ本課ヲ經テ本局ニ進達スルモノトス
- 第十八條 等外吏以上前條ノ場合ニアリテハ海軍假條例第五條ニ照ラシテ差出シ都テ主任之レニ添書

シ本課ヲ經テ本局ニ進達スルモノトス

第十九條 主任事故アルトキハ先任ノ所員之レカ代理ヲ爲ス

調度局ヨリ海軍省へ届十八年二月三日
横須賀調度局警務課出張所處務内規中別紙附箋ノ通知正候條此段御届仕候也

主計機關兩本部長調度會計總務三局ヨリ海軍省へ同十八年二月四日

機關主計兩本部長調度會計總務三局ヨリ海軍省へ同十八年二月四日
處郵便電信料ニ該テハ總務局等ト同様調度局ニ於テ支出メヘキコトニ御聽許相成候様致度此段仰高裁候也
十八年二月
十二日決裁

海軍省ヨリ調度局へ達十八年三月十三日

海軍省報告例通則第六項ニ由リ諸艦艦船へ可交付報告紙ハ其局ニ於テ刊刷シ夫々要求ニ應シ渡方可取計此旨相違候也

但刊行スヘキ表様ハ追々總務局ヨリ回致可致等ニ付同局ト協議可取計此旨副達候也

調度局監護服務通則 十八年六月十九日

第一章 總則

第一條 調度局勤務ノ監護ハ監査課ノ所轄ニ屬ス

第二條 監護ハ築地邸ノ諸門ヲ管シ構内一般守衛ノコトヲ負擔ス

第三條 監護總員二十四名トシ之レヲ甲乙ニ分チ半數ツ、一晝夜ノ守衛ニ充ツ

第四條 監護ハ其職務ヲ行フニ當リ監査課長ニ對シ其責ニ任ス

第二章 取締職務ノ事

第五條 監護中先任ノ者二名ヲ取締ニ充テ諸門見張邸内巡邏ノ監護及下小使ノ勤怠ヲ監督セシム

調度局監護服務通則
海軍省報告例通則第六項ニ由リ諸艦艦船へ可交付報告紙ハ其局ニ於テ刊刷シ夫々要求ニ應シ渡方可取計此旨相違候也
但刊行スヘキ表様ハ追々總務局ヨリ回致可致等ニ付同局ト協議可取計此旨副達候也
調度局監護服務通則 十八年六月十九日
第一章 總則
第一條 調度局勤務ノ監護ハ監査課ノ所轄ニ屬ス
第二條 監護ハ築地邸ノ諸門ヲ管シ構内一般守衛ノコトヲ負擔ス
第三條 監護總員二十四名トシ之レヲ甲乙ニ分チ半數ツ、一晝夜ノ守衛ニ充ツ
第四條 監護ハ其職務ヲ行フニ當リ監査課長ニ對シ其責ニ任ス
第二章 取締職務ノ事
第五條 監護中先任ノ者二名ヲ取締ニ充テ諸門見張邸内巡邏ノ監護及下小使ノ勤怠ヲ監督セシム

第六條 取締ハ命令諸違等ヲ監査課ヨリ受ケ之レヲ監護ニ移告スヘシ

第七條 取締ハ門衛巡邏ノ交代順序ヲ定メ置キ之レヲ監護ニ示スヘシ

第八條 取締ハ監護中病氣其他ノ事故ヲ以テ關勤スルカ又ハ出勤ノ監護發病シ勤務ニ堪ヘサルモノアルトキハ非番ノ者ヲ繰上ケ其關ヲ補フヘシ

第九條 取締ハ監護職務上ニ於テ意見申立ツルトキハ反覆討議シ至當ト認定スルモノハ監査課長ニ建議スヘシ

第十條 取締ノ内病氣其他ノ事故ヲ以テ不參ノ時ハ先任ノ監護又ハ監査課長指定ノ者之レカ代理スヘシ

第十一條 取締ハ監護へ渡付ノ被服及附屬品ヲ時々検査スヘシ

第十二條 取締ハ一晝夜ノ狀況細大トナク日記簿ニ登錄シ翌朝監査課ノ點檢ヲ受クヘシ

第十三條 取締ハ監護及ヒ下小使ノ官給品ヲ受取以テ之ヲ配給シ又返納品アルトキハ之レヲ検査シテ納付ノ手順ヲナスヘシ

第十四條 取締ハ常ニ定備品受排簿ヲ備置キ保存滿期若クハ破損品引換アル毎ニ其事故ヲ詳悉記載シテ其顛末ヲ明了ニスヘシ

第十五條 取締ハ常用品ノ既定額ヲ超過セサル様ニ注意シ受排簿ヲシテ其出納ヲ明了ニシ本月中支出ノ物品ハ翌月五日迄ニ監査課ニ報告スヘシ

第十六條 臨時物品ヲ請求セントスルトキハ其事由ヲ監査課ニ申出許可ヲ得テ之ヲ請取臨時受排簿ニ記入スヘシ

第三章 諸門管守ノ事

第十七條 第一章第三條ニ掲クル一晝夜ノ守衛配置方ヲ示スコト左ノ如シ

其一 南門 二人 但見張專務

其二 北門 二人 但同斷

十五年五月丙第三十五號
陸海軍官制ノ件ナリ
陸海軍官制ニ關ス

其三 安藝門 二人 但同斷
 其四 入堀水門 二人 但同斷
 其五 邸内中門 四人 内取締一人
 第十八條 南門北門ハ日出ヨリ日没迄開扉日没後ハ耳門ノミ開扉ス但諸官吏公務ヲ帶シ乘車馬ニテ通行ノ節ハ本門開扉スヘシ
 第十九條 安藝門ハ日出ヨリ日没迄耳門ノミ開扉シ兵器局火工所竝倉庫ヘ往復ノ者ニ限り通行ヲ許ス但物品携帶スルモノハ第二十條ニ同シ
 第二十條 面會人及ヒ諸官廳出入ノ諸商估出門ノトキハ通行券物品携帶者ハ帶品證監收ノ上通行セシメ定雇夫ノ類出門ノトキハ本人携帶ノ鑑札ヲ檢査スルコト明治十五年五月丙第三十五號達ノ通タルヘキ事
 但準士官以上制服着用ノ節ハ本文ノ例ニアラス
 第二十一條 邸内中門ハ通行人ノ監査ヲ要セス
 第二十二條 官用ノ木石竝荷車其他ノ諸物品ヲ出入スルトキハ其主管廳ノ送券ヲ監收シテ通行セシムルモノトス
 但兵器運送ニ當リ運搬旗ヲ建ツルノ類ハ此限ニアラス
 第二十三條 官用ノ物品ヲ運漕船ニテ水門ヨリ出ストキモ前條ニ同シ
 但艦船附屬ノ端艇ト雖モ物品ヲ搭載スルモノハ本文ニ同シ
 第二十四條 諸門見張所ノ前面ハ門扉開放中閉鎖スヘカラス且諸門閉鎖前ハ各一名ツ、常ニ前面ニ向テ椅子ニ就キ諸人ノ出入ヲ監視スヘシ
 第二十五條 諸門見張ハ每一時間ニ交代シ見張中ハ必ス正帽正服ヲ着用スヘシ
 第二十六條 諸門見張中讀書習字ハ勿論新聞紙ト雖モ展讀ヲ許サス且會合雜談スルヲ禁ス
 第二十七條 諸門見張中監視スル通門鑑紙ハ毎日取締ニ差出スヘシ取締ハ之ヲ纏メテ監査課ニ納付ス

第四章 邸内巡邏ノ事

第二十八條 邸内巡邏ハ第十八條五項ニ掲タル中門詰ノ監護三名タルヘシ巡邏中ハ正帽正服ヲ着用スヘシ且雨天ニ際シテハ渡付ノ雨具ヲ用ユヘシ
 第二十九條 巡邏中諸倉庫ノ封印ハ都度々々點檢シ若シ異狀アレハ速ニ當直官吏ニ報告スヘシ
 第三十條 巡邏中ハ定備具ノ外他ノ物具ヲ携帶シ或ハ吸烟スルヲ嚴禁ス
 第三十一條 巡邏中邸内境界柵柵ハ勿論諸倉庫各職場等破損シ守衛向キニ關涉スルモノハ勿論臨時汚穢物等發見スルトキハ速ニ取締ヲ經テ監査課ニ報告スヘシ
 第三十二條 巡邏中邸内ニアリテ法ニ觸レ省規ニ違フモノアルトキハ其狀況ヲ詳カニシ速ニ取締ヲ經テ監査課ニ報告スヘシ
 第三十三條 巡邏中邸内ニ於テ頭巾或ハ手巾ヲ以テ面部ヲ陰蔽シ又ハ放歌醉吟スルモノアルトキハ之ヲ制止スヘシ
 第三十四條 巡邏中邸内ニ胡亂ノ者若クハ亂暴者アルトキハ直ニ捕押ヘ取締ヲ經テ監査課ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ若シ其者常人ナルトキハ時宜ニ因テハ最寄警察署ニ交附シテ後申報スルモ妨ケナシ
 第三十五條 巡邏中現行犯者ヲ認ムルトキハ直チニ取押ヘ前條ノ手續ヲ以テ之ヲ處分スヘシ
 第三十六條 巡邏中水門内ニ於テ捕魚スルモノアルトキハ明治九年六月記三套第五十七號省達ノ趣意ヲ以テ之ヲ制止スヘシ
 第五章 非常守衛ノ事
 第三十七條 邸内ノ火災ハ勿論近火アルトキハ諸門ノ出入ヲ一層嚴重ニシ臨時開閉守衛向ハ監査課ノ差圖ヲ受ケ邸内雜沓セサル様ニ注意スヘシ
 但監査課開扉前後ニシテ同課員出勤ナキ時ハ取締ニ於テ臨機ノ取計ヲナシ其實況ヲ該課ニ申報スヘシ

九年六月記三套第五十七號
陸海軍官制ニ關ス

第三十八條 前條ノ場合ニアリテハ非番ノモノタリトモ速ニ駈付守衛消火等ノ方法ニ就テハ監査課若クハ取締ノ差圖ヲ受クヘシ然レトモ急劇ノ場合ニ於テハ臨機ノ處分ヲナシ然ル後監査課ニ報告スヘシ

第三十九條 八町以外ノ出火ト雖モ風ノ方向ニヨリ飛火ノ懸念アリト思惟スルトキハ非番ノ者ハ速ニ駈付守衛ニ從事スヘシ

第四十條 本省所轄諸官解ノ近火ト認ムルトキモ時刻ヲ移サス速ニ其諸官解ニ參集スヘシ

第四十一條 非常出火ニ際シ諸官解ノ用達消火ノタメ駈付タル節ハ入邸苦シカラスト雖モ其出門ニ際シ物品ヲ携帶スル者ハ第二十條ノ手續ニ因リ其簽證ヲ監收スヘシ
但隊伍ヲ爲シ階梯繩等ヲ所持スルモノハ本文ノ限ニアラス

第六章 監護心得方ノ事

第四十二條 監護ハ法律規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ

第四十三條 當直ノ者ハ既定ノ出勤時限ヨリ十分前ニ必ス出頭シ各自ニ監査課ニ至リ勤怠録ニ捺印スヘシ

第四十四條 事故又ハ病氣等ニテ不參ノ節ハ出勤例刻前マテ其事由取締ヲ經テ監査課ニ届出ツヘシ

第四十五條 職務上ニ於テ意見アルトキハ先ツ同僚ト熟議ヲ遂ケ取締ヲ經テ監査課長ニ建議スヘシ

第四十六條 見張及巡邏中職務上ニ關スル事項アルトキハ總テ手帖ニ記載シテ取締ニ報告スヘシ

第四十七條 職務上秘密ニ涉ル事件ハ勿論譬ヒ瑣末ノ事タリトモ洩シテ事ニ害アルモノハ猥リニ他言スヘカラス

第四十八條 職務執行中他人ト私談シ又ハ守位ヲ離ル、等ノコトアルヘカラス

第四十九條 出勤中發病スルトキハ取締ニ申出兵學校詰醫官ノ診斷ヲ乞フヘシ

第五十條 私事ニテ猥リニ當直ヲ他人ニ依囑スヘカラス事實不得止場合ニ於テハ其理由ヲ取締ヘ申出其筋ノ認可ヲ受クヘシ

第五十一條 官給ノ被服及附屬品共決シテ粗暴ノ取扱スヘカラス

第五十二條 出勤中ハ謹慎ヲ旨トシ他人ノ己ヲ罵詈スルモ具ニ理由ヲ辯シテ之ヲ論スヘシ然レトモ尙止マサルモノハ其始末ヲ届出テ監査課ノ指揮ヲ受クヘシ苟クモ怒色ヲ形シ若シクハ粗暴ノ姿勢ヲ張テ之ニ抗抵スヘカラス

第五十三條 監護ハ平素其容儀ヲ正フシ精勤勉勵ハ勿論常々誠實ヲ旨トシ決シテ我意ノ舉動アルヘカラス且同勤中ハ尤モ交誼ヲ親密ニシ必スシモ他ノ侮慢ヲ受ケサル様注意スヘシ

制度局ヨリ海軍省ヘ同十八年六月十九日
制度局監護服務規則別紙ノ通相定自今實施爲政候條此段及御届候也

兵器局ヨリ海軍省ヘ同十八年十月三十日

三田村火藥製造所ニ係ル修築土木ノ工事ハ一切兵器局ノ主管ニ付シ其經費モ又十九年度以降ハ兵器局營繕費豫算中ヘ編入整理致度旨連署上申ノ末本年四月二十五日普第一〇九三號ヲ以御決裁相成候處其後十九年度以降歲入出豫算編成方御改正相成各廳ニ於テ營繕費ノ豫算ヘ編入スルモノハ金額五百圓未満ノ小新營繕繕ニ止リ候儀ニ付特リ兵器局ノミ該金額ヨリ超過致候テハ不都合ノ義ト思考致シ去迎經費整理ト建築工事トヲ分擔致候ハ策ノ得タルモノニ無之候間不得止十九年度以降作業費中止ノ間該所營繕ノ儀ハ渾テ一般ノ制規ニ基キ調度局ニ於テ負擔致シ其營繕ノ工事機械ニ連帶スルモノ又ハ特種ノ建築ニ方テハ篤ト兩局協議ヲ遂ケ經營致シ而シテ從來兵器局所轄ノ地所建築物ハ此際調度局ヘ引渡シ同局ニ於テ管理致シ可然哉此段仰高裁候也 同十一年十一月十六日決裁

水路局規則 五年二月十三日

一切ノ器械類在來ノ者ヲ舊儀ト稱ヘ今度渡來セシ者ヲ新儀ト稱フヘキ事
一新儀ハ局中ノ者タリトモ隨意ニ之ヲ用ユル事ヲ許サス實測スル時ハ局長ノ令ニ應シ其掛ヨリ可受取事

三田村火藥製造所修築土木ノ事
事務等ヲ調度局ノ管理トナス
十九年一月二十九日開度
局ヲ廢ス上ニ置ス

水路局規則ヲ定ム
五年十月海軍省乙第二百
五十六號ヲ以テ水路局
ヲ廢シ水路ヲ廢シ

- 但實測中ハ其掛ノ者可關事
- 一新紙新筆類臨時ニ難得品故復ニ之ヲ用ユル事ヲ許サス製圖ニ用ユルトキハ局長ノ檢印ヲ受其掛ヨリ可受取事
- 一新儀新紙新筆類ハ祕史局ノ許可ヲ得サレハ諸局諸艦ヘ貸スコトヲ許サス
但シスタントコロノメートル、天測セキスタント、テラドライト、三器ハ諸局諸艦ヘ一切貸スコトヲ許サス
- 一經線儀ハ局中第一ノ器械也故ニ其掛ノ外一切扱フコトヲ許サス又之ヲ見ル乞フ者アリトモ局長ノ令ニ非サレハ之ヲ見セシム可カラズ
- 一經線儀ヲ納ムル一室ハ嚴シク火ヲ禁ス
但シ此室ノ鍵ハ其掛ノ者關カル可キ事
- 一經線儀掛ハ休暇タリトモ必ス一員出局スヘキ事
- 一經線儀ヲ納ムル一室ハ非常ノ外局長ノ令ナキ時ハ其掛リニ非サル者ハ之ニ入ルコトヲ許サス
- 一地圖ヲ關ル者ハ其地ヘ番號ヲ記シ且別冊ヲ作り記録シ置ヘキ事
但諸艦等ヘ貸スコトアルトキハ證書可取置事
- 一測器類ハ其掛ノ者平常ニ其目錄ヲ作り置キ且器庫ノ鍵等關カリ置ヘキ事
- 一溫度晴雨ヲ記簿スルハ當直官員ノ職トス
- 一ランプ蠟燭油測器掛用ノ鹿皮帛布類ハ等外天測掛之ヲ關ス可キ事
- 一局中ヨリ出港スル舟ノ扱ヒハ總テ案針手ノ職トス
- 一案針手ハ端舟ノ運轉並投鉛ノ式平常訓練スヘキ事
- 一測量ノ具ト稱ル者ハ標旗標竿檢潮標索具類量鍾石灰法馬水程儀其他雜具也等外ノ關ル所トス
- 一日次製スル所ノ圖ハ諸官員退散ノトキ片付ルハ等外製圖課ノ職トス
- 一諸官員退局後當直官員各室ヲ鎖シ其翌朝第九字之ヲ開キ鍵鑰ハ交番ノ者ヘ可授事

- 一當直ノ官員夜第九字火ヲ消シ局中ヲ巡視スルコト艦則ノ如シ
 - 一毎朝八字局内ヲ清淨ニスルハ前夜當直ノ等外ノ者可務之
 - 一五十ノ日午後局長諸器械ヲ檢査シ不潔ナルトキハ速ニ等外ニ令シ掃拭セシムル事
- 水路局ヨリ兵部省ヘ伺 五年二月十三日
別紙ノ通當局規則相立申度此段相伺候也

海軍省達 五年十月二十二日
乙部二百五十六號
水路局被廢水路寮被置候事

水路寮分課人員表 六年七月五日

大佐兼權頭	一人
出勤	
中佐	一人
出勤	
海軍省七等出仕	一人

分課

水路誌編纂及 生徒取締兼務	大屬	一人
庶務課 會計課兼務	權中屬	一人
小蒸氣船機 關掛兼務	權少屬	一人
往復ノ文案ヲ作り及ヒ記注シ其他寮中ノ雜務ヲ掌ル	等外二等	一人
出勤		
會計課	海軍省九等出仕	一人

水路局ヲ廢シ水路寮ヲ置ク
九年八月三十一日海軍省
職制章程ヲ定メ水路寮ヲ
廢シ水路局ヲ置ク上ニ關
ス
水路寮分課人員表
九年八月三十一日海軍省
職制章程ヲ定メ水路寮ヲ
廢シ水路局ヲ置ク上ニ關
ス

金幣ノ出納諸物品ノ督買及之ヲ分賦スル等ノ事ヲ掌ル

測量課 出勤 大尉 二人

生徒教授兼務 同上 中尉 一人

同上 少尉 一人

同上 十等出仕 一人

十五等出仕 七人

等外三等 一人

經緯度ヲ測リ經線儀ヲ比較シ航路ノ難易港灣ノ曲折島嶼ノ位置礁洲ノ所在海底ノ淺深及潮候等ヲ量定スル事ヲ掌ル

製圖課 内一人生徒 九等出仕 二人

教授兼務 生徒教授兼務 十等出仕 一人

十一等出仕 一人

十三等出仕 一人

十五等出仕 一人

等外二等 一人

銅版彫刻兼務 大尉 一人

海圖ヲ製作シ及之ヲ伸縮シ上鋼スル圖稿ヲ作ヲ掌ル

教授課 水陸誌編集 兼務 十二等出仕 二人

十三等出仕 一人

十四等出仕 一人

生徒ニ航海算術及英學ヲ講授スル事ヲ掌ル

編集課 十等出仕 一人

十二等出仕 一人

水路誌ヲ編成シ及洋書ヲ翻譯スル事ヲ掌ル

生徒取締 十等出仕 一人

生徒課業ノ勤惰行狀ノ正邪ヲ監督スル事ヲ掌ル

右ノ通ニ御座候也

水路寮ヨリ海軍省へ上申 六年七月五日 今般職制章程御取調ニ付當寮事務取扱方可申出旨云々致承知候得共章程ハ未タ内訓モ無之候然ルニ過日御達ニ付分課人員表取調候間即右人員表差進申候也

海軍省ヨリ水路寮へ達 七年六月四日

今般觀象臺落成ニ付其寮管轄被仰付候條測量事務ノ義ハ其寮測量課官員ニ於テ取扱可申事

觀象臺假規則 七年七月十三日

一 連日太陽ヲ測リ連夜行星恒星ヲ量リ曆原ノ根數ヲ推算シ本地ノ時刻ヲ精測スルヲ務トス

一 天氣寒暖風候風位等總テ毎時之ヲ測量スヘキ事

一 艦船準備ノ經線儀ヲ毎日可比較事

一 日月食分竝内行星經過ノ時ハ最モ精密ニ可測量事

一 彗星出現スルコトアルトキハ其經緯ヲ推算スヘキ事

一 他ノ天文臺ニテ測量セシ記事ヲ照會スヘキ事

一 連夜ノ實測ハ尉官可施之事

但出仕ノ測量課之ヲ補助スヘシ

一 天氣寒暖ノ測量ハ出仕ノ官員可施之事

一 測量推算ハ尉官自ラ可爲之事

水路寮職制ヲ定ム
九年八月三十一日海軍省
職制章程ヲ定メ水路寮ヲ
廢シ水路局ヲ設ケ上ニ置
ス

觀象臺假規則ヲ定ム
九年十二月十四日水路局
事務取扱章程並各課章程
ヲ制定ス

- 一 測量士ハ常ニ五時間推算室ニ在テ可服勤事但午前ハ第十時ヨリ十二時ニ至但出仕ノ測量課之ヲ補助スヘシ
- 一 課長及ヒ先任大尉ハ毎週月曜日ノ早天ニ測量士後チノ一週日間ニ測量スヘキ天文目注ノ順序ヲ添意シ與フヘシ其表ハ第三十三號ノ如シ
- 一 表中各科各線ニ必ス其日勤ニ服シタル先任測量士ノ姓名ヲ記スヘシ是則チ測量ノ事ヲ尋問セン爲メナリ而テ其測量ニ二種アリ子午線器械ヲ以テ測ヘキ者ト連夜ニ高度方向ヲ測ルヘキ者はナリ其時間ハ即チ左ノ如シ
- 自午前第三時至翌日午前第三時
- 一 測量士ハ一晝夜即チ前條實測ヲ施シ而テ其正算濟ニ非レハ退出スルコトヲ許サス
- 一 天文測量ノ報知書ハ毎日午前第九時ヨリ十時ニ至ル間ニ測量士之ヲ校正シ各種階級ノ測量ヲ區別シ以テ課長ヘ指出シ課長検査ノ上ニテ水路頭ニ送ルヘシ其表ハ第四十五號ノ如シ
- 一 磁石及氣象測量ノ報知書等ハ出仕ノ官員ヲシテ校正セシメテ後チ課長ヘ指出シ課長検査ヲ爲シ一週コトニ土曜日ノ午後水路頭ニ送致スヘシ
- 一 課長ハ時々測量士官ヨリ星學磁石氣象等諸般ノ報知書ヲ要求シ時アリテ頭ニ送ルヘシ其表ハ第四十六號第八十二號第一百一十四號ノ如シ表省ク
- 一 觀象臺ニ於テ經線儀ノ快慢ヲ測リタル報知書ハ毎週土曜日ニ頭ニ送ルヘシ
- 一 經線儀ノ作工ハ常ニ臺内ニ詰居ラシメ修理ノ用ニ備フヘシ
- 一 先任大尉ハ每週諸器械ヲ點視シ其形狀ヲ書記シ課長ニ報スヘシ
- 一 臺内ニ日誌ヲ置キ出仕ノ官員ヲシテ毎日ノ事ヲ記セシムヘシ
- 一 諸室ヲ改作セント欲スルコト竝器械書籍ヲ買ヘキ等ノ事ハ必ス課長ヨリ頭ニ商議シテ許可ヲ得テ可施行事
- 一 臺内財貨ノ出納ハ本寮會計課ニテ取扱フヘキ事

- 一 臺掛リ官員ノ外ハ本省若クハ水路頭ノ免狀無之者ハ官員タリトモ登臺スルコトヲ許サス
- 但臺務ニ關スル事アリテ課長若クハ尉官ヨリ許有之モノハ非此限
- 一 巡視スヘキ理アル人ト雖モ課長ヘ一應引合ノ上ニ無之モノハ臺ニ入ルヲ得ス若シ課長不在ノ時ハ先任大尉ヘ引合ノ上ニテ入ルヘシ
- 一 課長竝測量士ハ諸艦船ノ測量士文部省ノ天文士等ト常ニ親接スヘキ事
- 一 臺内出勤ノ人員左ノ如シ
 - 正副課長 本寮出勤ノ佐官之ヲ兼務ス
 - 三尉 本寮出勤ノ尉官之ヲ兼務ス
 - 出仕 本寮十一等以下ノ官員之ヲ兼務ス
- 右ノ外ニ
 - 臺番
 - 門番
 - 給仕
- 水路頭職務
 - 一 課長ヲ指揮シ意ニ適シタル測量ヲ爲サシムル事
 - 一 觀象臺一切ノ事務ヲ主管シ毎日課長ヨリ差出タル測量ノ記事ヲ検査スヘキ事
 - 一 他ノ天文臺ノ記事ヲ照會シ課長ヲシテ再測セシムルコトアル事
 - 一 當臺ノ修造及ヒ諸測器ノ買入等一切頭ノ見込ヲ以テ其都度申出許可ヲ得適宜ニ取計フヘキ事
 - 一 出板ヲ爲スノ目的ヲ以テ三箇月毎ニ實測セシ記事ノ寫ヲ課長ヨリ要ムル事
 - 一 文部省天文局ト常ニ通信スヘキ事
- 課長職務
 - 一 儀器ハ常ニ之ヲ検査シ近時ニ於テ其主ナル變改及增加等ハ必ス水路頭ト商議シテ後チ行フヘシ若シ

八年十二月先任大尉職務ヲ先任府官職務ト改正ス
 水路省水路事務取扱順序並各課章程ヲ假定ス
 九年八月三十一日海軍省職制章程ヲ定メ水路省水路事務取扱順序並各課章程ヲ假定ス
 十九年一月二十九日水路局事務取扱順序並各課章程ヲ假定ス

- 一 損所アヲハ速ニ修理ヲ加フヘキ事
- 一 當臺奉務中數日不在スルコトヲ許サ、ル事
 但シ事故アリテ不在スルトキハ儀器検査其他一切ノ事務先任大尉ニ指揮シ置クヘキ事
- 一 連日夜測量士ノ施行セシ記事ヲ檢シ時アリテ自ヲ實測スヘキ事
- 一 尉官ノ測量セシ記事ヲ檢査ノ後チ日々頭ヘ送ルヘキ事
- 一 臺中備付並艦船波ノ經線儀ヲ主管スヘキ事
- 一 測量術及正算ニ最モ注意スヘキ事
- 一 磁器及ヒ氣象ノ測量ニ注意スヘキ事
- 一 毎日午前一時間ツ、本寮ヘ出勤シ頭ノ意旨ヲ受ヘキ事
- 一 先任大尉職務
- 一 課長不在ノ時ハ代理ヲ務ムヘキ事
- 一 先任大尉ノ職掌ハ測天ヨリ外ナラス奉務中臺内ニ在テ測量術ニ一途從事シ課長ノ指揮ニ順從スヘキ事
- 一 臺内整備諸器械ノ取扱ヲ管スル事
- 一 連日經線儀ヲ比較スルコトヲ測量士ニ令スル事
 水路寮ヨリ海軍省ヘ届七年七月十三日
 觀象臺職務ノ義祕三套第九十二號御指令ノ趣ニ基キ當分假規則相立職務取扱仕候間別册相添此段御届仕候也
 追テ改正增加致候義有之候得ハ共都度々々御届可仕此段申副候也

海軍省ヨリ水路寮ヘ達 八年七月十五日

各港ヘ水路嚮導設置可相成ニ付内務省協議ノ上當省ニ於テ主務擔任候間右ニ關涉スル諸規則ノ義其寮ニ於テ原案擔當可致此旨相達候也

追テ本文ノ義ニ付赤松少將兼務候條爲心得副達候也

水路局ヨリ各課及觀象臺ヘ達 九年十二月十四日

當局事務取扱順序並各課章程別册之通假定候條此旨相達候事

水路局事務取扱順序

總款

凡ソ該局ニ奉仕スル者ハ本年九月制定海軍假條例ヲ守リ次ノ事務條目ニ遵ヒ可相勤事

- 第一章 以下六條ハ本省各局事務章程ニ係ル
- 第一條 副長ハ局長ノ職掌ヲ補助シ局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
- 第二條 課長ハ掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ局長ニ對シ其實ニ任ス
- 第三條 課長ノ能否勤怠ヲ視察シ之ヲ局長ニ具狀スヘシ
- 第四條 副課長ハ課長ノ掌務ヲ補理シ課長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第五條 課長ハ局長及課長ノ令ヲ受ケ課務ニ從事ス
- 第六條 課務ヲ整理スルニ於テハ課長ニ對シテ其實ニ任ス
- 第二章 事務取扱ノ事
- 第七條 何ノ事件ニ拘ラス總テ事ノ局内各課ヨリ起ル者ハ主務ノ課長先ツ局内關係アル課長ト熟議ノ上其原案ヲ製シ之ヲ局長ニ差出スヘシ
- 第八條 局長ハ該書ヲ受領シ本省事務章程第十七條ニ據リ其下款ハ專決シテ之ヲ庶務課長ニ下付シ其上款ニ係ル者ハ亦同課長ニ付シ上申ヲ行ハシム
 但シ物品買入申出ノ外國人ニ關係ノ者ヲ除キ定額内ニテ辨スヘキ者ニハ局長其本紙ヲ直ニ其上申起原ノ課長ニ下付シ該課長ハ之ヲ計算課ニ送付ス
- 第九條 前條事項ノ諸廳ニ推問協議等ヲ要スル者ハ同課長ニ付シテ之ヲ各廳ニ進達セシム

- 第十條 庶務課長ハ局長ヨリ下付スル文書ノ已決ノ者ハ記録掛或ハ外信掛ニ命シ番號ヲ付シ之ヲ該局各課申出簿ニ編綴セシムヘシ
- 但シ金銀ニ關係ノ書類ハ本書ヲ計算課ニ送付シ別ニ控ヲ取り本條ノ通編綴ス
- 第十一條 庶務課長ハ總テ局長ヨリ他向ヘ發遣ノ文書草案ヲ命セラレタルトキ記録掛ニ命シ本省上申書類ニ限リ速ニ正副二通ヲ認メシメ之ヲ局長ニ差出スヘシ局長ハ上申書類其他證書類ニ限リ定規ノ印章ヲ捺シ其他ハ事故ニ據リ見留印ヲ捺シ之ヲ庶務課長ニ下付ス
- 但シ事ノ各廳ニ協議推開等ヲ要スル者ハ其旨ヲ同課長ニ授ケ各廳ニ送ラシム
- 第十二條 庶務課長ハ該書ヲ受領シ亦記録掛ニ命シテ控一葉ヲ取り其控ニ其事項ノ關係アル課長ノ承印ヲ取り置キ然ル後其要旨ヲ摘要簿ニ記載シ番號ヲ付シ送達簿ト共ニ之ヲ各廳ニ進達セシムヘシ
- 但シ上申控類ハ各種類ノ控ニ補綴シ他向ノ掛合控ハ大日記ニ補綴ス
- 第十三條 總テ協議ニ付各廳ヨリ回答シタル文書ハ記録掛之ヲ受ケ課長ヲ經テ之ヲ局長ニ差出スヘシ局長ハ之カ判決ヲナシ文書ハ之ヲ課長ニ下付シ例ノ如ク處分セシムヘシ
- 第十四條 祕密ニ關係ノ事項ハ正副長之ヲ取扱フヲ以テ一般文書ノ例外タルヘシ
- 第十五條 所管官員一己ノ上申請願ニ係ル者ハ其課長ヲ經テ庶務課長之ヲ受ケ其下款ニ係ル者ハ局長ノ判決ヲ得テ直チニ本人ニ達スヘシ其上款ニ渉ル者ハ與書ヲナシ局長檢印ヲ得テ本省ニ送致スヘシ
- 但シ摘要例ノ如シ
- 第十六條 本省指令アルトキハ其要旨ヲ本號摘要簿ニ朱書シ上申起原ノ本課ニ返付スヘシ
- 但シ事體ニヨリ各課ニ通知スヘシ
- 第十七條 所管官員一己ノ屆書等ハ該課長ヲ經テ庶務課ニ出シ局長權内ニアル者ハ局長ノ檢印ヲ得テ該掛ニ留メ置キ本省ヘ届出ヘキ者ハ正書ヲ該省ニ送付シ副紙ハ該掛ニ留ム
- 但シ摘要例ノ如シ
- 第十八條 本省事務章程第十七條局長ノ專決ヲ得ル者ト海軍長官ノ決裁ヲ請フヘキ事項ノ該局ニ關係スル者ハ左ノ通りタルヘシ

- 第一 本省ノ職制章程ニ關涉スル事
- 第二 長官名ヲ掲ケル書類ノ事
- 第三 下士文官等外吏以上ヲ陞陟進退スル事
- 第四 各局ノ官員ヲ左右交換スル事
- 第五 奏任官ニ副課長以上ヲ命スル事
- 第六 文武官員ニ出張在勤ヲ命スル事
- 第七 内外人ノ傭入並内外諸條約ノ事
- 第八 物品器械等ヲ外國ヘ注文スル事
- 第九 章程其他一般規則ヲ増減改正スル事
- 第十 諸官員ニ加俸給與スル事
- 第十一 定例外ノ經費ヲ要スル事
- 第十二 海河港灣等測量スル事
- 第十三 諸器械其他物品ノ廢物賣却ノ事
- 右ハ卿ノ允許ヲ經テ施行スル者
- 第十四 奏任官以下ニ分課ヲ命スル事
- 第十五 課中ノ事務ヲ分テ便宜其掛ヲ設ケル事
- 第十六 給料十圓以下ノ附屬及用使以下ヲ昇降轉免スル事
- 第十七 測量圖ノ彫刻及水路誌等編集スル事
- 第十八 定例金ヲ以テ額内品修理買辦新製造配賦スル事
- 第十九 内外人ノ需ニ應シ諸器械ヲ修理スル事
- 第二十 諸般ノ概額金ヲ出納シ及既定俸給旅費等ヲ支給スル事

第二十一 定例金ヲ以テ諸建築ノ破損ヲ復舊修繕スル事

第二十二 諸職工一時雇入使役スル事

第二十三 掌務ノ照會及推問督促等局名局長名ヲ以テ直ニ往復スル事
右ハ局長ノ專決ヲ以テ施行スルモノ

第十九條 本省指令濟ノ文書ハ記錄掛或外信掛リ之ヲ受テ課長局長ノ檢印ヲ得テ其要旨ヲ各主務ノ摘要簿ニ記シ且最初取リタル控ヘ其指令番號等ヲ明寫シ其本紙ヲ主務ノ掛ニ送付シ其請印ヲ得ヘシ但シ事ノ諸課ニ係ルモノハ同掛ヨリ之ヲ通知スヘシ

第二十條 本省達書下問其他總テ局外ヨリノ回答或ハ掛合等ニ掛ル文書等ハ是亦課長ヲ經テ局長ノ檢印ヲ得其要旨ヲ摘要簿ニ記シ番號ヲ付シ其關係ノ課長ニ通知シ然ル後本紙ヲ大日記ニ補綴スヘシ

第二十一條 前條書類ハ艦船各廳物品渡方ニ關スル者ハ文面ニ依リ之ヲ主務ノ掛ニ送付ス

第二十二條 封書ノ官名宛ニテ親展直披等ノ文字アルハ直チニ本人ニ渡スヘシ又急至急等ノ端書アル者及ヒ電報ハ勿論其他類ト雖モ事宜ニ依リ直ニ自宅ニ送付スヘシ

第二十三條 本省ヨリ回達アルトキハ速ニ之ヲ回達簿ニ登記シ課長局長ノ檢印ヲ得其事項ノ關係アル各課ニ通達スヘシ

第二十四條 院省使廳府縣布告布達ハ是亦課長局長ノ檢印ヲ得其事ノ會計上ニ關スル者ハ速ニ計算課ニ送付シ其一般ニ關スル者ハ亦速ニ各課ニ通達スヘシ

第二十五條 各課ニ於テ取扱タル往復文書ハ每年末一卷トナシ見出目錄ヲ付シ書籍掛ニ送付シ局内書目ノ内ニ編綴ス

第二十六條 往復ニ論ナク總テ文書ノ横文ニ屬スルモノハ局長ノ命ヲ受ケテ庶務課長之ヲ調理シ書籍掛ヲシテ之ヲ外國書翰往復録ニ明記セシメ本紙ハ之ヲ主務ノ掛ニ送致ス

第二十七條 横文往復ト雖モ必ス譯文ヲ製シ平常往復文書取扱第十一條第十二條第二十條ノ通り之ヲ

所置スヘシ

第二十八條 諸員勤怠ハ毎日登廳ノ節勤怠簿ニ記シ出張病氣不參父母祭日定例休暇及聘免等一々之ヲ區記シ人員増減各員勤怠ノ取調ニ備フ

第三章 圖書出版校正ノ事

第二十九條 總テ艦船諸廳其他ヨリ差出シタル圖類ハ庶務課記錄掛或外信掛ニテ受付課長ヲ經テ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第三十條 局長ハ該圖ヲ受領シ其出版スヘキモノト考フルトキハ之ニ捺印シ之ヲ庶務課長ニ下付シ測量課長ニ送付セシム

但シ其出板ヲ要セサル者ハ海圖整備掛ニ送付スヘシ

第三十一條 測量課長ハ此圖ヲ受領シ之ヲ量地掛ニ命シ校正心得書ニ遵フテ之ヲ校正セシム
量地掛ハ校正相濟タラハ其證トシテ自箇ノ印ヲ捺シテ之ヲ該課長ニ返付ス

但シ圖ノ標題例言等ハ庶務課長ト協議ノ上先ツ量地掛ニ命シテ之ヲ填塞セシム

測量課長ハ之ヲ細查シ檢印ノ上庶務課水路誌校正掛ニ付スヘシ

第三十二條 水路誌校正掛ハ此圖ヲ受領シ圖書校正心得書ニ照シテ之ヲ校正シ其證トシテ自箇ノ印ヲ捺シ之ヲ庶務課長ニ差出スヘシ

該課長ハ之ヲ細查シ檢印ノ上之ヲ測量課長ニ返付ス該課長ハ然ル後之ヲ局長ニ差出スヘシ

第三十三條 局長ハ此圖ヲ受領シ之ヲ監查シ製圖課長ニ命シテ之ヲ淨寫セシム

但シ淨寫中疑條アルトキハ各其主務ノ掛ニ照會スヘシ

第三十四條 製圖課長ハ淨寫出來ノ時ハ再ヒ之ヲ庶務測量兩課ニ送付シ前條ノ校正手數ヲ繰廻シ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第三十五條 局長ハ此圖ヲ受領シ之ヲ再閱シ然後製圖課長ニ付シテ其出版ヲ命ス

第三十六條 製圖課長ハ出版出來ノ節其試刷ニ原本ヲ付シテ之ヲ庶務測量兩課ニ送付シ猶又細查ノ檢

印ヲ取り然ル後局長ノ監査ヲ請フヘシ

第三十七條 局長ハ監査ノ後之ヲ製圖課長ニ下タシ計算課ト協議ノ上其定價ヲ刻シ然ル後定規ノ部數ヲ印行セシム

第三十八條 此局ニテ編成スル圖類ハ局長ヨリ之ヲ測量課長ニ命シ亦前第三條以下ノ手續キニ從テ之ヲ出版セシム

第三十九條 水路誌水路雜誌ヲ編成スヘキ書類ノ局外ヨリ來ル者ハ先ツ庶務課記錄掛ニテ受付課長ヲ經テ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第四十條 局長ハ此書ヲ受領シ之ヲ庶務課長ニ下シ先ツ之ヲ水路誌整備掛ニ付シテ目錄ニ記載セシメ然後其出版スヘキ者ハ之ヲ測量課長ニ送付セシム

但シ書ノ横文ニ屬スルモノハ先ツ翻譯掛ニ命シテ之ヲ翻譯シ原譯ヲ合セテ之ヲ水路誌整備掛ニ付スヘシ

第四十一條 測量課長ハ第三十一條以下校正手續ニ從ヒ之ヲ庶務課長ニ送付スヘシ

第四十二條 庶務課長ハ之ヲ水路誌校正掛リニ付シ圖書校正心得書ニ照ラシ之ヲ校正セシム

但シ疑條有之トキハ本人或測量課ニ質スコトモアルヘシ

右校正相畢リタルトキハ其證印ヲ捺シ之ヲ課長ニ差出スヘシ

該課長ハ細查ノ後之ニ檢印シ之ヲ局長ノ監査ニ供スヘシ

第四十三條 總テ局内ニテ編成シタル書類ハ各課長ヨリ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第四十四條 局長ハ該書ヲ受領シ其出版スヘキト考フルトキハ檢印ノ上之ヲ庶務課長ニ渡スヘシ

該課長ハ該書ヲ受領シ諸課ノ校正ヲ要スルハ前條ノ校正手續ニ從ヒ其否ヲサルハ直ニ校正掛ニ付シ校正濟ノ上第四十二條ノ通之ヲ局長ニ差出スヘシ

第四十五條 總テ局長監査濟ニテ出版スヘキ書類ハ課長豫シメ其刊行スヘキ部數ヲ議定シ又其人費高ヲ計算課ニ商議ノ上之ヲ記載シテ局長ニ申出スヘシ

申出ノ指令相濟タルトキハ其由ヲ本局出版目錄ニ登記セシメ計算課ト商議ノ上之ヲ印刷師ニ送ルヘシ

第四十六條 課長ハ右ノ試刷ヲ請取タラハ綿密ニ之ヲ原稿ト比較シ其誤リナキトキハ之ニ檢印シ校正濟ト書シ原稿ヲ合セテ之ヲ印刷師ニ返付スヘシ右ノ手續ニテ悉皆出來ノトキハ其即日ヲ以テ出版月日ト相定ムヘキ事

第四章 圖書測器及物品取扱ノ事

第四十七條 該局ニテ刊行落成ノ海圖ハ製圖課海圖整備掛之ヲ計算課ニ送付シ裏打出來ノ上本省其他局外ニ差出スヘキ分ハ速ニ庶務課事務記錄掛ニ送付シ又各一葉ヲ各課ヲ除クニ渡シ切ルヘシ

第四十八條 刊行落成ノ水路誌類ハ庶務課書籍掛之ヲ計算課ニ送付シ然ル後改メテ一本ヲ請取リ課長局長ノ檢印ヲ得ヘシ

右檢印濟ノ後本省及ヒ局内各課ヲ除クニ送付スヘキ分ハ速ニ請取書ヲ以テ計算課ヨリ請取リ其本省ニ送付ノ分ハ之ヲ事務記錄掛ニ付シ各課ハ該掛ヨリ直ニ相渡スヘシ

第四十九條 圖書測器ヲ買入レントストキハ總テ其關係ノ課長計算課ト協議ノ上各其主務ノ掛ニ命シテ其旨趣ヲ書載セシメ檢印ノ後之ヲ局長ニ申出スヘシ

第五十條 買取タル者ト艦船諸應ヨリ送付ノ者トニ論ナク總テ局外ヨリ入手シタル圖書測器ハ其入手ノ都度各課長其主務ノ掛ニ命シ各課規則ニ從フテ之ヲ處分セシム

第五十一條 事務記錄掛外信掛ハ物品ノ文書ニ添テ來ル者アレハ先ツ其關係ノ掛リニ通知シ立會ノ上受取リ然ル後改メテ之ヲ其掛リニ付ス

第五十二條 各課ニ於テ物品ヲ要ストキハ其常用ニ係ル者ハ該課長ノ檢印ヲ得テ之ヲ計算課ヨリ受取リ其臨時ニ係ル者ハ各課長之ヲ局長ニ申出スヘシ

第五十三條 圖書測器及物品ノ遠國遞送ニ係ル者ハ其主務ノ課長ヨリ之ヲ計算課ニ送り計算課ヨリ之ヲ遞送ス

- 第五十四條 出張或ハ旅行先ニテ買入レタル圖書測器其他物品ハ其買上人其買上ノ月日價直ハ勿論其
他ノ事由ニ至ル迄詳細書留メ歸著ノ上之ヲ關係ノ掛ニ交付シ其由ヲ課長局長ニ稟告スヘシ
- 第五十五條 圖書測器及其他物品ハ公用ト雖モ局長ノ許可ヲ得ルニ非レハ自宅ニ持去ルヲ禁ス
第五章 報告ノ事
- 第五十六條 各課長ハ毎月一日ヨリ三日迄ノ間臨時非常及他向關係ノ外常用事務ヲ休ミ各課ニ於テ前
月取扱ヒタル事務ヲ各其主務ノ掛ニ命シテ之ヲ報告セシムヘシ
- 第五十七條 各課長ハ兼テ右ノ報告ヲ收集シ第一第二第三第四表ノ式ニ從フテ之レヲ編シ檢印ノ上之
ヲ局長ニ具狀スヘシ
- 第五十八條 局長ハ一々該報告ヲ閱查シ檢印ノ上旨ヲ庶務課長ニ授ケ之ヲ海軍長官ニ具狀スヘシ
- 第五十九條 庶務課長ハ月次ノ報告書ヲ取纏メ嚴ニ之ヲ書室ニ收藏スヘシ
- 第六十條 副長ハ會計年度末ニ至リ諸課長ト協議ノ上月次ノ報告書ニ據リ次ノ節目ニ從フテ年報ヲ纂
集シ之ヲ局長ノ監査ニ供スヘシ
- 第一節 文書ノ取扱
- 第二節 海圖ノ編成刊行
- 第三節 水路誌及雜誌ノ編成刊行
- 第四節 測器圖書ノ出納
- 第五節 測量地方及測量船
- 第六節 觀象臺
- 第七節 海上現象ノ景況
- 第八節 一年經費總額
- 第九節 官員給料
- 第十節 艦船渡濟物品經費

- 第十一節 各廳渡物品經費
- 第十二節 測量出張費
- 第十三節 局中費
- 第十四節 官員ノ數及勤怠
- 第六十一條 局長ハ右ノ年報ヲ受領シ監査ノ後之ニ檢印シ規則ノ通り之ヲ海軍長官ニ具狀スヘシ

庶務課月次報告要目表

往復文	本省諸上申類	既決何件	未決何件	總計	何件
書	平常文書	既決何件	未決何件	總計	何件
官員附屬吏	等外任以下	何人		總計	何人
水路誌類	編纂	何種		總計	何種
編集	刊行	何種			
水路誌類原稿	水路誌類原稿	在來何冊	增加何冊	總計	何冊
稿及水程誌	水程誌	同上何冊		總計	何冊
總書	新在來	何冊	何冊	總計	何冊
	排版下	何冊	何冊	總計	何冊

測量課月次報告要目表中

港灣測量幾箇所	落成幾箇所	未成幾箇所
海岸測量幾箇所		
經緯度ヲ實測セシメ幾箇所		
針差ヲ實測セシメ幾箇所		
山岳ノ高度ヲ測量セシメ幾箇所		
新ニ開闢ヲ發見セシメ幾箇所		
原圖ヲ改正セシメ幾箇所		
大三角並ニ二等點以上箇數		
三等點箇數		
投鉛ノ箇數		
岸測沿海里數		
檢潮ノ日數		
同圖ヲ伸縮セシメ箇數		
原圖ヲ伸縮セシメ箇數		
海上現象記事編纂	落成幾箇所	未成幾箇所
内外國水路誌參酌記述	幾冊	
測天量地ノ正算ノ件數		
航海日誌等正算ノ件數		

測量課月次報告要目表下

測器掛	員數	代價
操越測器	員數	代價
新測器	員數	代價
艦船各屬ヨリ新測器	員數	代價
修廢用買入品	員數	代價
月末改現在測器	員數	代價
別ニ物品並代價ノ明細表ヲ添ル		

製圖課月次報告要目表上

製圖數	影刻數	刷版數	圖版數	版製	圖紙	摺立紙	圖版	銅版
淨寫版	系圖	系圖	校正	摺摺	元張	諸殘	元買	遣
寫圖下紙類	版類	摺摺	紙損摺	數立	渡課	殘	入排	數入
枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚	枚何枚
大紙	全紙	折半紙	象限紙	小紙	改正	補刻	總計	

製圖課月次報告要目表下

大圖之部	小圖之部	寫圖	圖版	映臨布	映臨紙	製圖紙	局外刊行圖品
枚數	代價	枚數	代價	枚數	代價	枚數	代價

航海曆水路誌其他之書類ヲ整備シ是ヲ艦船ニ交付スルヲ掌トル

第六 水路誌整備掛
海軍艦船及其他ヨリ差出シタル日誌及其他水路書誌氣象表等ニ關係ノ原稿原書等ヲ整備スルヲ掌トル

第二條 凡ソ事務記録掛ハ局長及課長ノ指圖ニ應シ事務ノ緩急ヲ斟酌シ記録ノ方法ヲ注意シ務メテ錯雜ノ憂ナカラシムヘキ事

第三條 泫テ書札普通ノ番號ハ書札ノ右端ニ朱書シ書簿ノ各號ニ隨ヒ番號ヲ異ニシ一月ニ始テ六月七月ニ始テ十二月ニ終ルヲ例トス

第四條 該掛ノ書簿部類ハ左ノ通り之ヲ區分スヘシ

大日記 該局ヨリ他官省各廳等へ往復スルモノ

申出及願伺控

諸届控

大日記 他官省各廳等ヨリ該局ニ往復スルモノ

下間及諸達留

本局各課申出簿

祕事簿

本省指令簿

外國書翰往復錄

廻達留

諸進達簿

勘怠簿

職員錄 一ハ本省へ出ス一ハ該課ニ在リ

諸員履歷錄

水路局報告

第五條 毎土曜日事件未済ノ文書ヲ分記シ之ヲ課長ニ差出スヘシ

第六條 公布達書ノ類ハ總テ取扱部類ヲ分チテ大冊子トシ月日ノ順序ニ從ヒ番號ヲ附シ之ヲ以テ見出

目錄ヲ作り毎半年ヲ以テ一冊トナシ書籍掛ニ送付シ之ヲ整頓スヘキ事

但公布中金穀出納ニ關シタル者ハ布達到達ノ節即時計算課へ送付スヘキ事

公布達書等部分ハ左ノ如クスヘシ

太政官布告

太政官日誌

本省日誌輯錄

諸規則

各省公布公達

但外各省公布ハ每省各一冊トナスカ或合冊トナスハ適宜ナルヘシ又一枚摺等ノ物ハ散亂ノ憂アルヲ以テ之ヲ諸表帖ニ糊ス

第七條 諸官省告達中水路海上ニ關係ノ件ハ速ニ之ヲ水路誌整備掛ニ通知スヘシ

第八條 諸品渡證印簿ヲ製シ物品ヲ諸課ニ交付スル毎ニ該帳簿ニ請取印ヲ取ルヘシ

第九條 文書ノ出郵ニ係ル者ハ其要旨ヲ郵便簿ニ記載シ計算課ニ付シテ之ヲ送致セシム

第十條 職員錄ハ諸官員以下共聘免任叙ノ都度改正シ兼テ布達ノ通長官へ可差出事

第十一條 該局諸員黜陟轉免等アル時ハ直チニ之ヲ履歷簿ニ記載スヘキ事

第十二條 宿直事務ハ該掛ニ於テ宿直規則ヲ遵奉シ不都合無之様注意スヘキ事

第十三條 用使給仕門番ハ兼テ規則書ヲ渡置キ之ヲ取締スヘキ事

第十四條 凡ソ水路誌編輯掛ハ編輯心得書ニ從ヒ課長專ラ之ヲ調理スル事

- 第十五條 凡ソ水路誌翻譯掛ハ文ノ長冗或簡略ヲ意トセス務メテ原意ヲ失ハサルヲ旨トスヘキ事
- 第十六條 凡ソ水路誌校正掛ハ務メテ文ノ簡約平易ニシテ原文ノ意ヲ失ハサルニ注意シ編輯心得書ニ從フテ之ヲ校正シ且編輯刊行ヲ助務スヘキ事
- 第十七條 該課員ハ水路誌編輯心得書ヲ熟知スヘシ
- 第十八條 譯字ハ可成丈ケ方今制定ノ水路語ヲ用ユヘク又新タニ譯ヲ命スヘキ原字ヲ認出タルトキハ課長ト協議ノ上新譯ヲ付シ之ヲ局長ニ稟告シテ水路提要ニ編入スル事
- 第十九條 翻譯編輯ハ必ス其實ニ關係ノ海圖ト之ヲ比較シ若シ經緯度羅針差潮候時其他船具等ニ不分明ノ廉有之トキハ必ス測量課ト打合スヘキ事
- 第二十條 課長以上ノ令ヲ除キ他ヨリ翻譯校正其他事ヲ直ニ引請クヘカヲサル事
但課長以上不在ノ時ハ何レモ次員之ニ代リ長出勤ノトキ其旨ヲ傳フヘシ
- 第二十一條 翻譯編輯原稿ハ一々之ヲ區分シ水路誌整備掛ヘ可相廻事
- 第二十二條 翻譯校正相畢リタルトキハ其起師脫稿月日ヲ記シ寫字生ニ命シ之ヲ淨寫セシメ之ヲ課長ニ差出スヘキ事
- 第二十三條 清國燈臺表ヲ製シ年々之ヲ改定出版スヘキ事
- 第二十四條 以下十八箇條書籍 書籍掛ハ局中備付書籍總目ヲ編製シ且該課附屬ノ書籍海圖及本局ニテ出版シタル書籍雜誌表式等モ勿論一々之ヲ區分シ之カ目錄ヲ作り之カ番號ヲ設ケ之ヲ箱中ニ區分シ示目表ヲ作り所要ノ書誌ヲ立辨セシムヘシ
- 但書類ノ海圖ニ關係スルモノハ其海圖ノ番號ヲ示目表中ニ併記スヘシ
- 第二十五條 凡ソ書籍掛ハ該課備付ノ書誌ニ練熟スルニ注意スヘキ事
- 第二十六條 書籍ヲ新調シタルトキハ之ヲ各課ニ分配セサル前ニ於テ水路局圖書印ヲ其卷首ニ捺シテ總目錄ニ登記シ課長ノ檢印ヲ得ヘシ又新調ノ書籍ハ其時々局長ノ閣查ニ供スヘキ事
- 但書類ノ他ヨリ獻納回送等ニ係ル者及記錄掛ヨリ受取タル日誌布告類ハ本文同様總目錄並該課書

十一月二十九日 陸海軍官制
 八十九號ヲ以テ改正
 取入ノ上ニ「先ツ課長ノ檢印ヲ得テ而シテ」ノ十三字ヲ附補ス
 同
 書籍掛製シ局内一時ノ貸借ニ係ル者ハ課長ノ檢印ヲ得テ後押借人ヲシテ檢定ノ押借限ヲ記載シ四印セシム尤公務上自筆ヘ押借ヲ乞フ者ハ課長ヲ經テ局長ノ許可ヲ受クヘシ但該課前ノ如シ

- 籍目錄ニ記載スヘシ
- 第二十七條 總目錄ニ登記スルノ方法ハ書名編集人出版局並出版年月注文人買上人代價及請取ノ月日册數番號及何國或何人ヨリ注文或到來ノ由ヲ書スヘシ
- 第二十八條 夫々諸課ニ分配スヘキ書誌ハ天文書算術書測量書類ハ測量課製圖器械書海圖目錄地圖等ハ製圖課水路誌地理書及庶務課ニ所要ノ書誌ハ該課書庫ニ渡シ切ルヘシ右渡方ノ儀ハ總目錄ニ登記シタル後之ヲ各課書籍分配簿ニ登記シ各課ノ請取人ノ證印ヲ該簿ニ捺過ノ後之ヲ渡スヘシ
但新舊書籍ニ論ナク未タ總目錄ニ登記セサル内ハ決シテ之ヲ渡スヘカラス
- 第二十九條 渡シ切ニ非スシテ一時貸借ヲ行フハ書籍貸渡簿ヲ製シ拜借人ヲシテ其姓名ヲ記シ調印セシメ返却ノ節其印章ヲ塗抹セシムヘシ
但拜借中公務ニ非スシテ其破損ヲ醸シタルトキハ拜借人ヲシテ其責ニ任セシムヘシ
- 第三十條 諸課中ニ書籍ノ廢物トナリタル分アリテ其課ヨリ其儀ノ通達アルトキハ課長ヲ經テ之ヲ局長ニ稟告シ速ニ大目錄中ヨリ之ヲ除クヘキ事
- 第三十一條 刊行落成書類ノ局長監査濟ニ係ル者ハ速ニ本省其他送付スヘキ分及本局備付ノ分ヲ計算課ヨリ請取リ本省其他ニ差送ルヘキハ事務記錄掛ニ渡シ本局各課ニ渡スヘキ分ハ第二十八條ノ通り處分スヘシ
- 第三十二條 艦船渡書類ハ新調ノ都度水路局印ヲ捺シ別ニ目錄ヲ製シ之ニ記載スヘシ
- 第三十三條 書籍表式類渡方ニ係ル艦船各廳申出書ノ局長檢印濟本紙ノ事務記錄掛ヨリ廻リタルトキハ其本紙ヲ艦船各廳申出簿ニ補綴シ置キ請取人來ルトキハ艦船渡書籍控帳ニ其調印ヲ得テ後之ヲ渡スヘシ
- 第三十四條 航海碇泊日誌ハ常ニ合シテ八十部ヲ備ヘ置クヘシ若シ四十部以下ニ減少シタルトキハ直ニ五十部ヲ版行ニ命スヘシ
但該掛ハ本條増減ノ數ニ平常注意スヘシ

第三十五條 航海曆水路誌ハ局備トシテ各五本ヲ引除キ其餘ヲ以テ艦船渡シト相定ムヘキ事
但航海曆ハ丙年ノ分ヲ甲年ニ買入置ク様注意スヘキハ勿論其員數ノ如キハ一箇年當分四十部ト相定メ臨時ハ局長ノ命ヲ仰クヘシ

第三十六條 艦船渡書誌ノ儀ハ局長ノ許可ヲ得ルニ非レハ決シテ他省察等ニ讓與或ハ貸渡スヘカラス
但局中諸課ニ貸渡ノ儀モ亦局長ノ許可ヲ得ヘシ

第三十七條 雜書類ヲ他ノ書籍ヨリ區分シ之ヲ束綴スル事

第三十八條 該掛リハ左ノ帳簿ヲ保有スヘキ事

- 一 書籍大目錄
- 一 各課分配簿
- 一 艦船諸廳申出簿
- 一 艦船渡書籍控帳及目錄
- 一 書籍貸借簿

一 本局出版書及書籍注文新調錄

第三十九條 每月末土曜日ニハ該課ノ書籍ヲ整頓シ翌月三日限り該課事務順序第一表中ノ要目ニ照シ
明細表ヲ製シ之ヲ課長ニ差出スヘキ事

第四十條 毎年六月十二月兩度ニ局中ノ總書籍ヲ整頓シ總目錄ヲ證明制定スル事

第四十一條 凡ソ水路誌整備掛ハ水路ニ關係ノ書誌原說ヲ集收シ之ヲ區分スヘキ事

但本條ニ所謂區分トハ水程誌類水路雜誌類雜書類ヲ云フ

第四十二條 水路書誌原說目錄ヲ製シ各課ヨリ請取リタルトキ一々之ヲ記載スヘキ事

但目錄二冊ヲ備ヘ一冊ハ之ヲ課長ニ差出スヘキ事

第四十三條 目錄ニ記載ノ法ハ差出人各測量人名艦船ニ關スル者ハ艦船名ヲモ記ス測量年月請取年月ヲ詳細ニ記スヘシ

第四十四條 水路雜誌トナスヘキ原說ヲ請取リタルトキハ番號ヲ順付シ他ノ雜書ト混同セサルニ注意スヘシ

第四十五條 局長ノ許可ヲ經ルニ非レハ管主ノ圖誌ヲ課外ニ出スヘカラサル事

但艦船日誌ヲ海上現象記事掛ニ渡スハ此限ニ非ス

第四十六條 該課翻譯編輯ニ必要ノ海圖ヲ製圖課ヨリ請取リ示目表ヲ作り所製ノ圖ヲ立辨セシムヘキ事

但右海圖紛失或損害シタルトキハ速ニ課長竝海圖整備掛ヘ其旨ヲ通スヘキ事

第四十七條 該掛リハ寫字生ヲ兼務シ且寫字生ヲ取締リ用辨ヲ闕カサルニ注意スヘシ

第四十八條 寫字生ハ課員ヨリ命スル所ノ稿本ヲ淨書シ誤字落字等ノナキニ注意シ自カラ其原稿ヲ變

改スヘカラサル事

第二章 測量課

第一條 測量課長ノ下ニ五掛リヲ設ケ其事務ヲ分掌スルコト左ノ如シ

課長

課中一切ノ事ヲ幹理シ羅鐵主理ヲ兼務シ測量船ニテ派出ノ時ハ艦長ヲ勤メ陸路出測ノ時ハ其事

務ヲ總裁ス

副課長

課長ノ職掌ヲ補理ス職務課長ニ同シ

第一 觀象臺掛

觀象臺ヘ出勤シ天體氣象等ヲ實測シ且之ヲ記述シ測器ヲ精檢スル等ノ事ヲ掌トル

第二 量地掛

測量艦ニ乗組ミ或陸地出張以テ内外國ノ沿海ヲ測量シ或測量ノ爲メ臨時艦船ニ乗組ミ在京ノトキハ量地ノ事ヲ調理シ内外國ノ水路誌海上現象記事等ヲ參酌記述シ眞景ヲ寫シ又常ニ投鉛手ヲ

幹理スルヲ掌トル

第三 精算掛

測天量地ノ諸推算簿並諸艦船航海日誌等ヲ正算シ又該課附屬ノ書籍ヲ管掌ス

第四 器械整備掛

該局備付並諸艦船渡測器ノ出納修履等ヲ處分シ及器械修理掛ヲ幹理スルヲ掌トル
第五 大井村報午球掛
此掛掌務未設

第二條 觀象臺掛ハ本省ヨリ令スル所ノ該臺假規則ヲ遵奉シ相勸ムヘシ

第三條 臺中事務專任尉官ハ臺中一切ノ事務ヲ幹理シ臺詰士官ト交番宿直ノ餘隙ニ少尉補以下ヘ測量術ノ原理ヲ講授スヘシ

第四條 量地掛ハ平時ト雖モ細ニ出測心得書ヲ熟知スヘシ

第五條 在京ノトキハ課長以上ノ令ニ從ヒ海圖ヲ伸縮シ或ハ新タニ之レヲ編成シ及ヒ内外國ノ水路誌ヲ參酌記述スヘキ事

第六條 測量艦並諸艦船ノ報告或日誌ニ據リ海上現象記事ヲ記述シ及風潮圖ヲ作ル事

第七條 眞景寫方掛ハ寫眞取扱心得書ニ依テ之ヲ處置スヘキ事

第八條 水兵三名ヲ該掛中ニ置キ陸地出測ノトキハ投鉛ヲ專務トシ又測器等ヲ運搬シ平常在局ノトキハ投鉛索等ノ調査ヲナシ標旗ヲ縫製セシム

第九條 水兵ハ水兵概則ニ從ヒ之ヲ取締リスヘキ事

第十條 精算掛ハ課長ヨリ下付スル測天量地ノ諸推算簿並諸艦船ヨリ回送ノ航海日誌等ヲ正算ス

第十一條 庶務課書籍掛ヨリ送附ノ書籍類ハ受領ノ上目錄ヘ記載スヘキ事
但し觀象臺ニ係ル者ハ其臺詰士官ノ受取印ヲ得テ後該臺ヘ送付シ其由ヲ目錄ニ記スヘシ

第十二條 該課長ヨリ申出ノ書籍到來ノトキハ前條ニ從ヒ速ニ書籍掛ヨリ之ヲ受取ヘシ

出測心得書ハ後三付ス

第十三條 測天量地航海ニ關スル諸推算簿ハ原稿淨書トモ該掛ニテ預リ別ニ目錄ヲ製シ請取ノ時々之ヲ記載スヘシ

第十四條 該課付ノ書籍破損スルトキハ速ニ其事由ヲ課長ヲ經テ局長ニ申出ヘシ
但し庶務課ヘモ其旨ヲ通達スヘシ

第十五條 該課備付ノ書籍ハ毎月末ノ土曜日ニ書籍目錄ト引合セ整頓スヘキ事

第十六條 毎年六月十二月兩度ニ該課付ノ總書籍ヲ整頓シ目錄ヲ改定シ之ヲ課長ヘ差出ス可シ

第十七條 以下二十六箇條器 器械整備掛ハ局中備付並諸艦船各廳渡共測器ヘ一々番號ヲ刻記シ之ヲ總目錄ニ記載スヘキ事
但し經線儀ハ從前ノ番號ヲ用ユ

第十八條 都テ該掛ヘ入手スル測器ハ先課長ノ手ヲ經テ局長ノ閱查ニ供シ然ル後觀象臺ヘ廻付シ實際

試驗ノ上買取ノ手續ヲナスヘシ

第十九條 修履シタル測器ハ亦觀象臺ヘ廻付シ其試驗ヲナシ置クヘシ

第二十條 經線儀並甲板時計ハ試驗済ノ上該臺ニ於テ之ヲ保持セシム

第二十一條 測器ノ試驗済ニ係ルモノハ代價排濟ノ上ハ總目錄ヘ登記シ番號刻記ノ上課長ノ檢印ヲ得ヘシ

第二十二條 總目錄ヘ登記ノ方法ハ測器名製造人製造局並年月注文人試驗人代價請取ノ年月日番號及

何國ニ注文何カノ由ヲ記スヘシ

第二十三條 觀象臺並諸掛ヘ備フヘキ測器ハ總目錄ヘ登記ノ後課長ノ令ニ從テ各課分配簿ヘ記載シ請

取人ノ證印ヲ該簿ヘ捺過ノ後之レヲ相渡スヘシ

第二十四條 渡シ切ニ非スシテ一時貸借ヲ行フトキハ測器貸渡簿ニ拜借人ヲシテ年月日及ヒ其姓名ヲ

記シ調印セシム返却ノ時ハ年月日ヲ朱書シテ其印章ヲ塗抹スヘシ
但し拜借中公務ニ非スシテ破損ノ醸生スルトキハ拜借人ヲシテ其責ニ任セシム

- 第二十五條 出測ノ時行装スヘキ測器ハ出張ノ先任士官ヨリ定表ニ準シ課長へ申出課長局長檢印ノ後該掛ヨリ其先任士官ノ請取印ヲ取り之ヲ渡スヘシ
 - 第二十六條 出測濟ニテ歸局ノトキ課長ヨリ其趣キノ違アルトキハ速ニ其測器ヲ受取ルヘシ但破損品ハ一切受取ラサルヘシ
 - 第二十七條 出測中測器破損遺失等之レアリ歸局ノ上本人ヨリ其事由ヲ詳記シ課長へ申出ノ後局長ノ検査濟ニ係ル者ハ之ヲ該掛ニ請取り夫々處分スヘシ
 - 第二十八條 經線儀ハ出測用艦船渡トモ入用ノ時々課長ノ檢印ヲ以テ觀象臺ヨリ受取ルヘシ尤同臺事務專任官ハ成規ノ如ク指誤及日差等ヲ記載シ之ヲ送付スヘシ
 - 第二十九條 諸艦船並各廳ヨリ經線儀比較ノ照會之アリ局長檢印濟ノ本紙廻リタル時其品ハ該掛へ請取其由ヲ課長へ申出捺印濟ノ上觀象臺へ廻付シ前條ノ如ク比較濟ノ上ニテ同臺事務專任官ヨリ送付アルトキハ課長へ稟告ノ上庶務課事務記録掛へ其品ヲ交付スヘシ
 - 第三十條 測器渡シ方並引替等ニ關スル艦船各廳申出書局長檢印濟ニテ本紙事務記録掛ヨリ廻付シタルトキハ其本紙ヲ艦船各廳申出簿ニ補綴シ又艦船渡測器控帳ニ記シ置請取人出頭ノトキハ其年月日ヲ記シ調印ヲ得テ後之ヲ渡スヘシ
 - 但諸艦船備付測器表ニ照準スルニ注意スヘキ事
 - 第三十一條 局長或課長檢印濟ノ本紙ナキトキハ一切測器ノ渡方ヲ禁ス但非常ノ事故アルトキハ此限ニアラス
 - 第三十二條 艦船渡測器十個以下トナルトキハ速ニ其買上方ヲ課長ニ申出ヘシ
 - 第三十三條 艦船渡豫備ノ測器ハ局長ノ許可ヲ得ルニ非レハ決シテ他用ニ充ツヘカラス
 - 第三十四條 該掛リハ左ノ帳簿ヲ保有スヘキコト
- 測器總目錄
艦船各廳渡測器並經線儀比較申出簿

測器注文新調簿

艦船各廳渡測器控簿

各課分配並貸借簿

- 第三十五條 各所ヨリノ返納品ハ測器總目錄へ其番號及年月日ヲ記載スヘシ其損品ノ如キハ其由ヲ記シ且修覆ヲ加フヘシ
- 但獻納品モ亦本條ノ通り
- 第三十六條 艦船各廳ヨリ引替ノ爲メ同送ノ破損測器若シ修理ノ整フヘキ見込アル者ハ修理ノ上之ヲ回付スヘシ
- 第三十七條 破損測器ハ都テ器械修理掛へ下付シ之ヲ修理セシムヘシ
- 第三十八條 測器修理濟ノトキハ右代價上書へ測器掛捺印ノ上又課長ノ檢印ヲ得テ之ヲ計算課ニ付スヘシ
- 第三十九條 毎月末ノ土曜日ニハ庫中測器ヲ整頓シ課長ノ調査ヲ乞フヘシ
- 第四十條 前月取扱フタル器械ノ出納代價其他ノ事項ニ至ルマテ事務順序第二表ノ要目ニ因リ詳細ニ表記シ毎月三日限課長へ差出スヘシ
- 第四十一條 毎年六月十二月兩度ニ局中ノ總測器ヲ整頓シ總目錄ヲ改定シ之ヲ課長へ差出スヘシ
- 第四十二條 諸課中ニテ測器ノ破損廢物トナリテ其課長ヨリ其儀通知アルトキハ課長檢査ノ上總目錄ヨリ之ヲ除去スヘシ
- 第四十三條 測量船規則
- 此條未設
- 第三章 製圖課
- 第一條 製圖課長ノ下ニ五掛ヲ設ケ其事務ヲ分掌スル左ノ如シ

十三年三月三十一日製圖課内
則テ改正ス

- 諸海圖ヲ檢閲シ淨寫校圖及銅版ノ出納ヨリ其他課中一切ノ事ヲ幹理ス
- 第一 淨寫掛
 - 諸課校正淨寫ノ原稿ヲ淨寫シ或ハ原點推算簿ニ據リテ畫圖シ其他伸縮校正及新ニ漸長圖ヲ編畫スルヲ掌ル
- 第二 寫圖掛
 - 海圖地圖其他一切雜圖ヲ映寫スルヲ掌ル
- 第三 海圖整備掛
 - 局版圖類及内外諸海圖總目錄ヲ預リ其出納貸借ヲ處分シ及艦船各廳ニ交付スルヲ掌ル
- 第四 銅鑄掛
 - 圖類ヲ彫刻シ銅版ヲ保存シ之ニ附屬シタル流藥其他器具類等ヲ總括ス
- 第五 刷版掛
 - 諸印肉ヲ製作シ刷版器具ヲ研磨シ印刷一切ノ工事ヲ掌ル
- 第二條 凡ソ該課員ノ技術加俸ヲ給ル者ハ定例時限ヨリ一時前ニ出勤シ一時後ニ退出可致且就業時間中烟艸ヲ禁シ候事
 - 但シ出勤後五分ヨリ就業十一時三十分ヨリ運動零時午食後再運動同三十分ヨリ就業退出五分前諸器片付可申事
- 第三條 凡ソ淨寫掛寫圖掛ハ務メテ原稿ト進差ナキニ注意シ淨寫スヘキ事
- 第四條 新ニ圖類ヲ畫スルトキハ製圖例式ニ背馳セサルニ注意スヘシ
- 第五條 字體及原點畫圖等ニ疑條有之時ハ必ス庶務測量兩課ヘ打合ヘキ事
- 第六條 淨寫中ハ毫末ノ厭タリトモ課長以上ノ令ニアラサレハ決シテ圖面ヲ變改スヘカラサル事
- 第七條 漸長圖及伸縮圖等ハ精檢ノ上測量課長ヘ協議ノ上畫線スヘキ事
- 第八條 淨寫出來ノ圖ハ總テ之ヲ課長ニ差出スヘシ

- 第九條 原稿並淨寫圖ハ彫刻落成ノ上海圖整備掛ヘ渡スヘシ
 - 但シ番號ハ刊行圖ト同番號ヲ付記スヘシ
- 第十條 艦船各廳ヨリ寫方依頼ニテ到來ノ圖類ハ課長ノ指揮ニ從ヒ差出スヘキ分ノ外局内備附トシテ別ニ一本ヲ寫取ルヘシ
 - 但シ未タ出版無之歟或ハ局内備附無之圖類
- 第十一條 局内備附トシテ寫取タル圖類ハ總テ海圖整備掛ニ相渡スヘシ
- 第十二條 以下十二箇條ハ海圖取扱順序ニ係ル 總テ局中ニ入手シタル圖類ハ之ヲ左ノ三類ニ區分スヘシ
 - 第一類圖ハ原備トシテ嚴ニ之ヲ海圖庫ニ藏シ局長ノ令ニ非サルヨリハ一般ノ流用ヲ禁ス
 - 第二類圖ハ局内各課ノ用ニ供ス
 - 第三類圖ハ艦船各廳渡品トス
- 第十三條 海圖整備掛ハ海圖大目錄ヲ製シ種類ヲ區分シ在來ノ部ハ勿論新調ノ都度水路局圖書印ヲ捺シ目錄式ノ通り之ヲ詳細登記シ又索引圖ヲ作り所要ノ圖類ヲ立辨セシムヘシ
- 第十四條 他ヨリ獻納或引替ニ付回送ノ圖ハ本條ノ通目錄ニ登記スヘシ
 - 但シ引替ニ付回送ノ圖ハ課長以上ノ檢査ヲ請ヒ補理或廢棄スヘシ
- 第十五條 局内各課ニ渡シ切ルヘキ圖ハ先ツ各課海圖分配簿ニ登記シ各課請取人ノ證印ヲ該簿ニ捺過ノ後之ヲ渡スヘシ
- 第十六條 渡切ニ非スシテ一時貸借ヲ行フハ海圖借用證ト交換シ返却ノトキモ同様交換スヘシ
 - 但拜借中公務ニ非スシテ其破損ヲ醸シタルトキハ拜借人ヲシテ其責ニ任セシムヘシ
- 第十七條 各課中ヨリ海圖ノ廢物トナリタル儀通達アルトキハ課長ヲ經テ之ヲ局長ニ稟告シ速ニ大目錄中ヨリ之ヲ除クヘシ
- 第十八條 刊行落成ノ海圖並系統類ノ課長ヨリ下付スル者ハ先ツ計算課ヘ廻シ裏打出來ノ上本局備付及本省其他ニ廻付スヘキ分ヲ此課ヨリ受取り本省ヘ差送ルヘキハ第三類圖トシテ庶務課事務記録掛

ニ廻シ本局各課ニ渡スヘキ分ハ第十五條ノ通り處分スヘシ
 但系統類ハ總テ計算課ヘ廻切リ需用ノ時ハ課長ノ檢印ヲ得テ同課ヨリ請取ルヘシ
 第十九條 艦船各廳渡海圖新調ノ都度水路局印ヲ捺シ別ニ目錄ヲ製シ之ヲ記載スヘシ
 第二十條 計算課ヨリ摺立方ノ申込有之トキハ先ツ課長ヘ申告スヘシ
 第二十一條 新規並引換海圖及其他ノ品類渡方ニ係ル艦船各廳申出書局長檢印濟ノ本紙庶務課事務記
 録掛ヨリ廻リタルトキハ其本紙ヲ艦船各廳申出簿ニ補綴シ置キ受取人出頭ノトキ艦船渡控帳ニ其調
 印ヲ得テ後之ヲ渡スヘシ
 第二十二條 艦船渡豫備海圖ハ常ニ二十葉ヲ備置クヘシ若十葉以下ニ減少シタルトキハ其買入方ヲ申
 出ヘシ
 但艦船ノ増減ニ從ヒ員數ノ見込ヲ申出スヘシ
 第二十三條 新版海圖入手ノトキハ局内備付ハ勿論又速ニ艦船渡方ノ手順ヲ申出スヘシ
 第二十四條 内外海圖ニ改正版出來ノトキ速ニ引替ノ手順ヲ申出スヘシ
 但局長ノ見込ニ依リ舊圖ヘ補圖ノ上引換ルコトモアルヘシ
 第二十五條 銅鑄掛ハ務メテ周密ニ原圖ト差違ナキニ注意シ彫刻致スヘキ事
 第二十六條 彫刻中毫末ノ點タリトモ課長以上ノ令ニアラザレハ決テ版面ヲ變改スヘカラス
 第二十七條 了解シ難キ廉有之トキハ速ニ課長ヘ質スヘシ
 第二十八條 製圖事務繁劇ノトキハ課長ノ令ニ隨ヒ謄寫手傳等ヲモ相勤ムヘシ
 第二十九條 彫刻起工毎ニ竣工ノ見込日數ヲ課長ヘ申出スヘシ
 第三十條 改版或諸廉改正刻成ノ後ハ速ニ舊銅版ヲ廢止スヘシ
 第三十一條 該掛ハ課長ノ令アル毎ニ銅版ヲ研磨シ務メテ其生鏽ヲ拒クヘシ
 第三十二條 刷版掛ハ課長ヨリ刷版ノ命アルトキハ速ニ定數ノ通摺立之ヲ課長ニ差出スヘシ
 但校合摺ハ二葉宛ニ限ルヘシ

第三十三條 印刷圖紙ニ摺損シ等有之トキハ課長ニ申出廢物タルノ證印ヲ其圖紙上ニ請フヘシ
 第三十四條 肉類ノ製作ハ嚴密ニ其抱合ノ方法ニ注意シ刷版ノ後紙上餘白ニ紛末ヲ殘サ、ル様製作ス
 ヘシ
 第三十五條 一日間摺立定數ハ左ノ通りタルヘシ
 最大圖 二十五枚
 全紙圖 三十枚
 二分一ノ圖 四十枚
 四分一ノ圖 五十枚
 小圖 百枚
 系統類 百二十枚
 但非常ハ此限ニアラス
 第三十六條 印刷濟ノ都度版面ヲ透明ニ拭ヒ取り之ヲ課長ニ差出スヘシ
 第三十七條 月末土曜日ハ該課中各其主務ノ掛ニ於テ圖及ヒ器具ヲ整頓シ課長ノ閱查ヲ請フヘシ
 第三十八條 毎年六月十二月前條ノ圖及器具ヲ整頓シ局長ノ監閱ヲ請フヘシ
 第三十九條 諸課長ノ他局長ノ許可ヲ經ルニ非レハ就業室ニ入ルヲ禁ス
 第四章 計算課
 第一條 該課員ハ會計局事務章程ヲ遵奉シ可相勤事
 出測心得書
 第一條 測量ハ之ヲ左ノ三種ニ區分ス
 第一 大測ハ六箇月以上ノ月日ヲ費シテ投鉛シ二十里以上ノ地ヲ測シ地宜ニヨリ二道ニ分ル、者
 第二 中測ハ二箇月以内ニ月日ヲ費シテ投鉛シ二十里以内ノ地或ハ諸港灣ヲ測シ二道ニ分ル、ナ
 キ者

會計局事務章程ハ九年九
 月海軍省丙第三號陸各局
 事務章程中ニ在リ上ニ載
 ス

第三 小測ハ砲臺或道路等ヲ測スルカ其他或ハ港灣ヲ測量スルトモ投鉛檢潮スルコトナキ類
右三種ノ出測ニ要スヘキ器械ハ左ノ三種測量器械表ノ通タルヘシ別表

第二條 量地掛他方へ出張ノ時行装スヘキ器械類ハ先任士官タル者定表ニ準シ之ヲ課長ニ申出シ該長
檢印ノ上局長へ差出シ局長檢印ノ後ニテ測器掛ヨリ受取先任士官請取證印致置ヘキ事
但遠隔ノ地へ出張ノ時定表外ノ器械ヲ要スルトキハ別途之レヲ申出スヘシ

第三條 出測濟ニテ歸局ノトキハ課長へ申出測量掛へ可相渡尤出測中ニ測器破損遺失等有之時ハ其事
由詳明課長へ可届出事

第四條 艦船乗組員外出張ノ節測量費ハ乘艦ノ主計へ預ケ置其先任士官ノ檢印ヲ以テ出納可致歸艦ノ
上其檢印帳ハ殘金ト乘艦ノ主計ヨリ該局へ可相納事
但測量艦ハ此限ニ非ス

第五條 陸地ヨリ出測スルトキハ其出張員ノ内ヨリ一名局長ノ撰擧ヲ以テ計算掛ヲ兼務セシメ其先任
士官ノ檢印ヲ以テ出納可致事

第六條 檢潮ハ三十日以上ト定ムト雖モ都合ニ依リ朔望前二日後四日ヲ以テ定ルコトモアルヘシ

第七條 陸路出測ノトキハ投鉛手ヲ幹理シ水兵陸路出測假規則ニ從テ處分スヘキ事

第八條

甲員 先任官 大三角點ヲ實測ス
乙員 天測ヲ主リ大時規ヲ預ル
丙員 投鉛ヲ主トス
丁員 海岸測ヲ主トス

甲員ハ佐官或大尉タルヘシ乙丙丁員ハ尉官タルヘシ若シ尉官闕アルトキハ局長ノ令ニ隨ヒ補之ヲ代
理シ其餘ノ補ハ甲乙丙丁員ニ隨ヒ事業ヲ務ムヘキ事
先任官ハ測量出張中ヲ總括スルノ權アリ故ニ乙丙丁員分課ノ測量ヲ日々検査スヘシ

第九條 測器類ハ左ノ區分ノ通心得預ルヘキ事

甲員ハ經緯儀並量鏡

乙員ハ天測器械並氣象器械

丙員ハ六分儀並投鉛及索類潮候ニ屬スル器械一切

丁員ハ六分儀並分度規類及白灰標旗植標ニ關スル一切ノ器械

戊員ハ製圖器械並筆墨紙類一切ヲ預ル
但シ製圖課隨行スルトキハ此員タルヘシ然ラサルトキハ丁員ヨリ兼務ス

第十條 諸簿記類區分

甲員 大三角測量記並推算記 羅針推算記 山嶺高度推算記 水路誌 測量日誌並出測中雜記

乙員 大時規比較記 天測記並推算記

丙員 投鉛記 檢潮記並檢潮推算記 潮流記

丁員 岸測記

水路誌ハ各員共出測ノ際市民ニ依テ探訪セシ其國狀並其他ノ景況往昔ノ事等可成丈ケ詳明ニ書記シ
テ其覺ヘ書ヲ毎夜甲員ニ差出スヘキ事

附リ水難ニ遇ヒ測量簿ヲ失スルノ慮ヲ防ン爲メ各員トモ補ニ命シ毎夜諸實測器ヲ復記セシムヘシ
但シ日々ノ事業日誌モ同様ノ事

第十一條 甲乙丙丁員主任ヲ區別スト雖モ事業ノ景況ニ隨ヒ甲員ヨリ命スルノ事業ハ拒ムヘカラス
但甲員大三角ノ事業ハ他ニ讓ルヘカラス乙員天測ノ事業モ故ナクシテ他ニ依頼スルヲ許サス

第十二條 測地ニ臨ミ區域ヲ定ムルハ甲員ノ令タルヘシ

第十三條 測地ニ臨ミ區域ヲ定メ豫メ植標ノ地ヲ丁員ニ命シ之ヲ受テ標旗ヲ植ヘ標岩ヲ白塗ス距離ハ
大約一マイルニ付二箇ト定ム

但甲員ノ見込ヲ以テ増加不苦事

附リ城郭堡壘ニ標旗ヲ植ヘ脚壁ヲ白塗スルヲ禁ス

但内國ハ其管轄廳ニ談スヘシ

石碑石佛夜燈生木竝人家ヲ白塗スルヲ禁ス

各國ノ號旗信號旗ヲ用ヒ或ハ異形ノ標ヲ建ルコトヲ禁ス

標ハ番號ヲ記シ之ヲ甲員ハ勿論他員ニ至ル迄廣布スヘキ事

但追テ設ル標ハノヲ附シ番號ヲ加フヘシ

根ニ伐木シテ標トナシ或ハ野艸ヲ燒キ標トナスコト勿レ

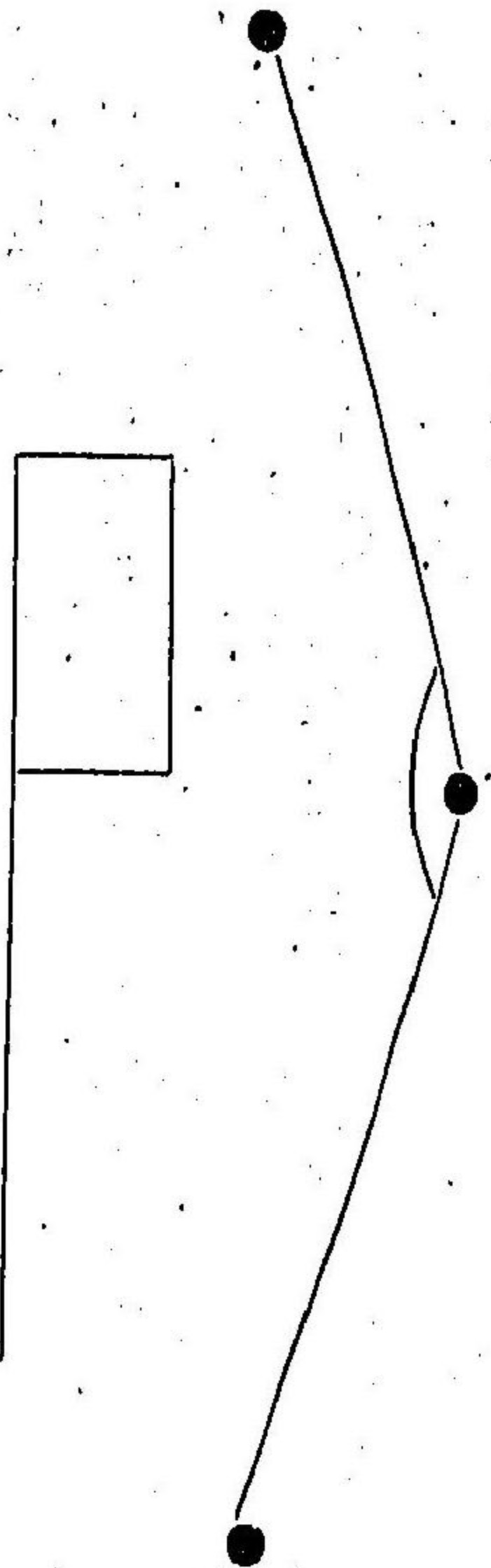
第十四條 實測スヘキ地ニ至ルトキハ其地ノ略圖又ハ部落岬角島嶼ノ名ヲ詳ニ戸長ヘ尋ヘキ事

但漁夫土人ノ云コトヲ信シ記載スルコト勿レ

第十五條 外國ヲ實測スルトキハ地名等詳ニ其官吏ヘ尋ヌヘキ事

第十六條 基線ハ五回ヲ復測ヲシテ後平均シ又別地ニ測リ施訂スヘシ

少ナルモ一千尺以上大ナルモ五千尺ニ過ス



此測ニ在テハ地平及高低務メテ注意シ、成ルヘク一直ノ砂濱郊原ヲ佳トス線中涓流或ハ潦沼等アル地ヲ好マス又原地ニ地ニ對スル角度ハ三十度ヨリ百二十度ニ至ルヲ度トス此レヨリ少キ或ハ大ナルヲ用ルコト勿レ

基線ノ推算ハ大三角記ノ初メニ記載シ其尺ト「ケトブル」及假數ヲ舉ルヘシ
但其記載法ハ別記ニアリ

第十七條 羅鍼測ハ測地ノ廣狹ニ因ルト雖モ十回乃至十五回ヲ測量シ南北ヲ平均シ一地ノ羅鍼方向トシ之ヲ五所七所ニ平均シテ用ユヘシ

附リ夜燈ノ近邊或ハ鐵沙散布スル海岸ニ於テ實測スルヲ禁ス

午前午後測量シ又天候ヲ勘考スヘシ

眞方向測ハ午前午後ニ測量シテ平均シ又二箇所ニ施シ定ムヘシ

但太陽ノ高度二十度以内ヲ採ルヘシ

第十八條 乙員ハ經緯度ヲ測定シ連日寒暖計晴雨計ヲ記スル事

緯度ハ南北二星ヲ三十測以上シテ定ムヘシ

經度ハ等高術ニテ二十測以上シテ定ムヘシ

時規差ハ七日毎ニ比較スルヲ主トス

但記載法ハ別記アリ

艦内ニテ發砲スルトキハ務テ大時規ヲ保護スヘシ

第十九條 丙員ハ實測前時々投鉛索ヲ點檢シ其縮伸ヲ刪正スヘシ

錨地ノ海底ノ土沙ヲ採リ之ヲ收藏スヘシ

檢潮スルヲ時々検査スヘシ

第二十條 丁員ハ海岸測ノ記事ヲ精密ニ擧クヘシ

六分儀ノ差ヲ時々改正スヘシ

海岸測ハ二點間ヲ一區トシテ測量スヘシ遠點ヲ交ヘ或ハ三杆二角法ヲ用ヒ測量スルヲ禁ス

第二十一條 甲員ハ大三角ヲ推算シ丁員ニ令シテ之ヲ原版ニ第一第二等點ヲ記載セシムヘシ

原版ハ最モ樞要ナルモノ故ニ甲員ノ他之ヲ取扱フ勿レ

丙丁員ハ之ヲ再ヒ別版ニ寫スヘシ

第二十二條 丙員ハ丙版ニ淺深ヲ淨寫シ丁員ハ丁版ニ海岸ヲ淨寫シ之ヲ甲員ニ指出スヘシ甲員ハ之レ

ヲ丁員ニ令シ原版ニ畫カシム廣狹製圖徵候並題號及洋字書體等ハ一般ノ局則ニ隨フヘシ
 第二十三條 測量士姓名ハ尉官以上ヲ記載シ補及出任ノ輩ハ載セサル事
 第二十四條 測量全成シテ後原圖ニ第三條ニ記載スル記簿ヲ添テ之ヲ正副課長ニ指出シ課長ヨリ頭ヘ
 指出スヘキ事

但圖書共正副二本ヲ指出スヘシ若シ出張先ヨリ送ルトキハ正本ヲ該局ヘ送り副本ヲ艦ニ殘シ置キ
 歸京ノ上指出スヘキ事

附リ諸簿記ハ頭ヨリ課長ヘ下付シ正算掛リ預リ置キ申ヘキ事

第二十五條 以下十五條其係 寫真主任ハ左ノ件々ヲ奉シ施業スヘシ

第二十六條 寫真ハ測量地ノ見取リヲ主トスルモノ故ニ測量課ノ一部ト定ム又製圖課モ關係アルヲ以
 テ此技術ヲ令スルハ測量課製圖課ノ内ニ限リ可申事

第二十七條 局長ノ見込ミヲ以テ再傳申付ルモノハ官器ヲ貸シ官藥ヲ用ヒ再傳スルヲ許スヘシ

第二十八條 計算課ニ於テ圖書前金ノ内ヨリ若干兩ヲ寫真金ト名ケ別簿ヲ作り置可申事

第二十九條 寫真掛リニテ蓄品簿並排棄記相製シ申ヘキ事

第三十條 寫真藥品其他一切關係ノ品買入レハ前以テ計算課ト打合セ局長ノ捺印ヲ經テ施業スヘキ事

第三十一條 寫真器械並附屬品諸蓄品ト雖モ寫真掛ニテ預置可申事

第三十二條 地景並土地ノ事情ヲ知ル爲メ外國人ヲ寫スノ他ハ人象ヲ寫スコトヲ禁ス又寫真掛ノ他ハ
 一切關係相成ラス且妨礙トナルヘキ場所ニ立寄り或器械等へ觸ルコトハ嚴禁タルヘシ

附リ局長及課長ノ令ニ非レハ寫真スルヲ許サス出張中ハ先任官ノ令ニ隨フヘシ寫真ニ取掛ルトキ
 ハ其時々許可ヲ得テ施行スヘシ

第三十三條 種板ハ番號ヲ附ケ測量課長預リ寮庫ヘ收置ク事

第三十四條 本省當局並豫備品トモ五通ノ代價ヲ表拂ニ致シ右代金寫真金ニ收入致スヘキ事

第三十五條 諸省ノ者願出ル時ハ

中板一枚代價

小板一枚代價

右ノ通代價取建寫真金ニ收入スヘシ

但一ト組五枚ト定メ其以下ハ讓渡サルコト、定ム尤讓渡ノ節ハ會計ト議ス

第三十六條 他へ賣拂ハ禁止ス

第三十七條 出來上リ寫真ハ掛リヨリ計算課ヘ相渡シ同課ニテ取計申ヘキ事

第三十八條 今ヨリ十八箇月ノ後入費ヲ推算致シ規則改正致スヘキ事

第三十九條 諸器械取片付方ニハ水兵召仕ヘキ事

但器械類運搬ハ其時々相履申ヘキ事

門番規則

一大門ハ每朝諸官員出勤時限一時前ニ開門諸官員退出畢テ鎖門小門ハ同九時メ切鍵鑰ハ宿直士官ヘ差
 出シ翌朝士官ヨリ請取開門可致事

但日曜日並土曜日午後其他ノ休日ハ大門メ切小門ノミ開キ可申尤モ非常ノ節ハ當直士官ノ令ヲ請
 フテ開門スヘシ

一燈火ハ毎日日没ニ點シ翌朝日出ニ相消シ可申事

一諸官省ノ用使小遣等ノ外ハ諸物品ヲ持出シ局員ノ送書無之者ハ一切出門ヲ許スヘカラサル事

但商人商品ヲ持參スル者ハ出入其員數ヲ改ムヘシ

一凡局門通行ノ者ハ本省及本省所屬局府所校院等ノ官員並其用使小使等ヲ除クノ外ハ必ス其名札差出
 サセ記録シ置クヘキ事

一當局所轄ノ水火夫等局ノ鑑札所持セサル者ハ堅ク通行許ス間敷キ事

但鎖門後ハ用使ト雖モ無鑑札者ハ通行致サセマシキ事

一門戸出入人名簿毎日庶務課ヘ可差出事

一 門戸内外毎朝夕清潔ニ掃除致スヘキ事

追加

一局ノ門前橋上ニ遊戯スル者ヲ制止スヘキ事

但シ聞入レサル者アルトキハ其人名等取糺シ庶務課ヘ申出スヘシ

一 門番所ニ於テ當番者ノ外人ヲ相集メ談話等ヲナスハ嚴禁タルヘキ事

一 何様ノ異變出來候共庶務課或當直士官ヘ無斷門番所ヲ離レ他行致候儀等ハ決テ不相成候事

一 總テ申出度儀有之節ハ先ツ庶務課ニ申出其指揮ヲ請クヘキ事

用使取締規則

第一 用使取締ハ總テ庶務課ノ命ヲ受テ之ヲ總括スヘキ事

第二 平日出勤退出時限ハ諸官員ヨリ一時前出勤一時後退出可致事

但御用多ノ節ハ此限ニ非ス

第三 取締ハ玄關ニ相詰メ該局ヨリ他向ヘ差出候御用並他向ヨリ該局ヘ到來ノ御用共一々日誌ニ記録

シ候上用使或ハ給仕ヘ相渡スヘキ事

第四 外出ノ用使御用狀等ヲ粗忽ニ取扱候歟又ハ竊ニ私用等ニ拘ハリ不申哉厚ク注意致スヘキ事

第五 炭油茶其他用使所用ノ物品闕乏之アルトキハ庶務課ノ檢印ヲ得テ計算課ヘ受取方可申出

但毎月末ニ一月費シタル諸物品ヲ區分シ各其總數ヲ庶務課ニ届出ヘシ

第六 毎月土曜日午前局内掃除ニ付取締ニ於テ各課室ヲ甲乙丙ト前後ヲ分チ庶務課ヲ甲トシ測量課ヲ

乙トシ製圖課ヲ丙トシ清淨ニ掃除可爲致事

但平日トイヘトモ局内ハ勿論構内門前等不潔ノ箇所有之節ハ速ニ掃除可爲致事

第七 諸品用達或ハ諸職人等出入ニ專ラ注意可致事

第九 取締ヲ用使ヨリ兼務スルトキハ用使同一ニ宿直可相勤事

第十 用使ヨリ申立候儀有之節ハ一應聞糺シ其情實不得止時ハ庶務課ヘ申出其指揮ヲ可受事

用使規則

第一 出勤退出時限ハ取締ト同様タルヘキ事

第二 當直ハ三名ツ、交番ニ可相勤事

但夜中十二時局内ヲ見廻リ無別條ヤ否ヤ當直士官ヘ申出ヘキ事

第三 御用ハ大切ノ義故平常粗忽ノ取扱無之様可相心懸事

但粗忽ノ取扱ヲ致シ萬一紛失等有之或ハ官物ヲ破毀候節ハ相當ノ處分可申付事

第四 取締ヨリ御用狀等相渡候節ハ速ニ之ヲ配達可致事

但至急ノ文字之レアル分ハ瞬時モ打捨置申間敷事

第五 御用ニテ外出ノ節私用等相辨候義嚴禁タルヘキ事

第六 無用ノ者ヲ詰所ヘ引入訓レナキ雜談等致候儀ハ嚴禁タルヘキ事

第七 連日土曜日午前各課室掃除ノ節取締ノ命ヲ受何分清淨潔白ニ可致平日ト雖モ不潔ノ箇所有之節

ハ互ニ讓リ不申速ニ掃除致候儀心得ヘク敢テ取締ノ撮當不及受候事

第八 宿直士官所用ノ夜具蒲團連日天日ニ乾シ且室内ヲモ掃除可致義ハ當直用使ノ受持タルヘキ事

第九 登籠ノ節ハ必ス授與ノ帽服着用可致事

第十 暴風ノ節ハ勿論平日ト雖モ湯吞所火ノ元別テ入念可申候且湯茶飲水等不潔ニ無之様屹度注意可

致事

第十一 例時ニ至リ湯吞所ヲ始其他消火候ハ、當直官ノ檢査ヲ可受事

第十二 私ニ給仕ヲ召仕候儀ハ不相成事

第十三 連日使用ノ炭油茶其他闕乏ノ物品ハ取締ヘ申出受取可申事

但シ非常ノ時取締不相見トキハ直ニ申出取締出勤ノ上其旨ヲ傳フヘシ

第十四 申出度儀有之節ハ總テ取締ヘ申出ヘキ事

給仕心得方

- 第一 毎日出勤ハ官員ヨリ一時早ク退出ハ一時遅ク引取可申事
- 第二 何事ニヨラス官員ノ用ヲ勤ルヲ專ニ可心懸事
- 第三 出勤致候ハ、各其持場ヲ廻リ諸官員所用ノ糊水入等ノ有無ニ氣ヲ付ケ可申且視箱ナト不潔ノ節ハ何分奇麗ニ掃除可致其他持前ノ事忘リナク相勤可申事
- 第四 各其持場ノ諸官員ノ用ニ非サレハ漫ニ其坐ヲ離ルヘカラス
- 第五 局中ノ事一切他ヘ漏スヲ禁スル事
- 第六 何事ニヨラス自身勝手ニ致候儀ハ不相成事
- 第七 同勤中ハ成丈ケ陸マシク致シ喧嘩口論ハ嚴禁タルヘキ事
- 第八 御用ノ隙ハ讀書算術等ノ勉強ニ可心掛事
- 第九 官員ハ勿論長者ニ對シ無禮ナキ様可致事

水路局ヨリ海軍省へ同九年十二月十二日
 當局事務取扱順序並各課章程別冊之通假定仕候ニ付此段御届仕候也

水路局測量課機器修理掛附屬二名ヲ附員ス

十九年一月二十九日水路局事務ヲ海軍水路部ニ屬ス上ニ屬ス

申出ノ通

海軍省ヨリ水路局へ達十二年五月八日

其局中自今整什課被置候事

但事務取扱順序ノ儀ハ取調可届出事ヲ以テ一般へ達ス上ニ屬ス

水路局ヨリ海軍省へ上申十一年十二月七日
 當局測量課機器修理掛備ハ是迄二名ノ附屬ニ主任爲致其他ハ日雇ノ者ヲ以テ助務爲致來候處諸艦船各職ヨリ修理品或ハ新規製造方等陸續申込有之候ニ付今二名十五級ヨリ二十四級迄ノ内ニテ附屬増員不作仕到底御用和關不得共當備ニ付右附屬兩名増員ノ儀目下都合モ御坐候ニ付テハ至急御許容相成候様仕度此段申出仕候也
 指令十一年十二月十一日

水路局製圖課内則ヲ改

正ス

十五年二月海軍省同第九號達ヲ以テ製圖課ヲ廢シ製圖課ヲ設ク

水路局製圖課内則 十三年三月三日

製圖課

本課中ニ四掛ヲ設ケ其事務ヲ分掌スル左ノ如シ

課長

繪圖鑄刻共豫メ起功卒業ノ期ヲ定メ淨寫ノ校正ヲ負擔シ及ヒ月報年報ノ調製ヲ掌リ其他課中一切ノ事ヲ幹理ス

第一 繪圖掛

校正濟ノ原稿ヲ淨寫シ或ハ原點推算簿ニ據リ畫圖其他伸縮校正及ヒ新ニ漸長圖ヲ編畫スルヲ掌リ且ツ海圖地圖其他一切ノ複圖ヲ映寫スルヲ掌ル

第二 銅石鑄刻掛

圖類ヲ彫刻シ銅石版ヲ保存シ兼テ活字版ヲ調整ス

第三 刷版掛

刷版器具ヲ整備シ諸印肉ヲ製シ銅石版ノ研磨ヲ兼テ印刷一切ノ工業ヲ掌ル

第四 用度掛

繪圖紙印刷紙ノ出納及銅石畫具製藥蠟油筆墨並雜品等ノ買收簿冊記載ヲ扱ヒ刷版後表裝迄ノ事務ヲ執リ該課一切ノ諸器ヲ整頓スルコトヲ掌ル

右ノ通相定候也

水路局ヨリ海軍省へ同十三年三月三日
 當局御創設以來局員内外へ派出測量シ年々ニ可刊行海圖増殖シ加之歐米其他各國ノ圖ヲ再刻鑄刻ニ追次著手致候ヨリ夥多ノ總數ニ至候如此盛大ニ相成候上ハ製圖課員從前ノ儘ニテハ何分ニモ事業抄取兼必至ト差支候間同課内則別冊ノ通改正仕候此段御届仕候也

水路局事務中編譯掛
測量課中水路部掛
測量課中二八掛
十九年一月二十九日水路
局事務ヲ海軍水路
部ニ屬ス上ニ置ス

水路局ヨリ海軍省へ届 十五年二月十七日
今般當局中製圖課ヲ廢シ更ニ圖誌課ヲ被置候旨御達相成候ニ付テハ庶務課中編譯掛測量課中水路誌掛
ヲ廢シ圖誌課中ニ左ノ八掛ヲ分置候條此段御届仕候也

製圖掛

海圖繪寫科 海圖印刷科
雜圖映寫科

水路誌掛

校正掛

水路報告掛

寫真掛

銅刻掛

銅鑄科

石刻科

刷版掛

植字科

製藥科

用度掛

水路局ヨリ海軍省へ上申 十八年七月八日

當局刊行ノ海圖並書誌等各局部所校領守府所轄ノ繫泊練習艦豫備艦へ是迄相渡居候分モ有之候處向後
右配付方軍事部兵學校領守府中艦隊へ各一通リ諸艦船モ常備豫備艦ニ限リ一通ツ、其他ハ相止メ申度
内地ノ海圖ニ限リ水雷局へ一通リ氣象報告ニ限リ軍醫本部へ二通り相渡其他部内ノ各局ハ入用次第貸
渡可申將又是迄本省ヲ經テ諸官省並東京大學部へ配付ノ分モ向後ハ直ニ當局ヨリ配付候條改正致度候
ニ付此段仰高裁候也 同年七月十日

海軍省達 十九年一月二十九日

海軍水路部海軍衛生部海軍兵器製造所海軍火藥製造所ヲ東京ニ置ク

水路局刊行ノ海圖並書誌
等ノ配付方ヲ管ス
十九年一月二十九日水路
局事務ヲ海軍水路
部ニ屬ス上ニ置ス

海軍衛生部兵機火藥
製造所ヲ東京ニ置ク

海軍省達 十九年一月二十九日

海軍省達 十九年一月二十九日

海軍省達 十九年一月二十九日

海軍水路部條例別冊ノ通相定ム

海軍水路部條例

第一條 海軍水路部ハ海河港灣ノ測量海圖ノ調製水路誌ノ編纂氣象ノ觀測天候ノ警報測器ノ試驗
航海ニ要用ナル圖誌器具配備等航海ノ保安ニ關スル事ヲ幹理スル所トス

第二條 海軍水路部ノ職員ハ左ノ如シ

部長	少將	一人
部長傳令使	大中尉	一人
屬員		二人
測量員		
測量長	大中佐	一人
測量班長	少佐或大尉	三人
測量士	大中尉	六人
測量助手	判任技術官	三人
圖誌課		
課長	少佐	一人
課僚	奏任官	二人
屬員	判任官	十五人
測器課		

課長 大中尉 一人
判任官 三人

第三條 部長ハ所轄諸員ヲ統督シ部務ヲ總理シ海軍大臣ニ對シ擔保ノ責ニ任ス

第四條 部長ハ其名ヲ以テ水路ニ關スル諸事件ヲ一般ニ告示スヘシ

第五條 部長ハ所轄諸員ニ課僚以下ノ職務ヲ命シ又測量員ノ班列ヲ定ムルコトヲ得

第六條 部長ハ課務ヲ分チ掛ヲ設ケ又處務内規及測量教則ヲ創設改良スルコトヲ得

第七條 部長ハ其名ヲ以テ航海又ハ水路氣象等ニ關スル事件ニ於テハ直ニ各艦長ト通信スルコトヲ得

第八條 部長ハ次年ニ測量スヘキ方面ヲ撰定シテ其大臣ニ具申スヘシ

第九條 部長ハ艦船ノ遠洋航ニ際シ水路上ニ關スル訓令ヲ草シ海軍大臣ニ差出スヘシ

第十條 部長ハ測量觀象等ニ關スル年報ヲ調製シ之ヲ大臣ニ出スヘシ

第十一條 部長事故アルトキハ測量長其代理ヲ爲スヘシ

第十二條 測量長ハ測量班長以下ヲ指揮シテ其主務ヲ整理ス

第十三條 測量長ハ一ノ測量班ニ長トシテ一方面ノ測量ヲ擔任スルコトアルヘシ

第十四條 測量長ノ職務ハ左ノ如シ

第一 指定セラレタル方面ノ測量著手ノ方法ヲ考案スル事

第二 各班ニ下スヘキ測量教令ヲ起草スル事

第三 各班ノ測量原圖ヲ精査シ其推算法ヲ檢査スル事

第四 各班ノ水路記事ヲ檢査スル事

第五 測量費豫算ノ事

第六 測量成績報告ノ事

第十五條 測量班長ハ各班ニ長トシテ測量士ヲ指揮シ其主務ヲ整理ス

第十六條 測量班長ノ職務ハ左ノ如シ

第一 指定セラレタル方面ヲ測量スル事

第二 測量原圖ヲ製スル事

第三 水路記事ヲ記述シ測量士ノ水路記事ヲ取纏ムル事

第四 其擔當シタル測量事業ノ報告ヲ爲ス事

第十七條 測量士ハ測量班長ニ分屬シ其主務ニ従事ス

第十八條 測量士ノ職務ハ左ノ如シ

第一 指定セラレタル方面ノ測量事業ノ一部ヲ擔當スル事

第二 擔當セル方面一部ノ水路記事ヲ記述スル事

第十九條 圖誌課主管ノ事項ハ左ノ如シ

第一 測量原圖ニ依リ海圖ヲ調製スル事

第二 諸報告ニ依リ海圖ヲ補正改正スル事

第三 艦船測量員其他ヨリ出セル水路ニ關スル報告調査ノ事

第四 水路告示ヲ記案スル事

第五 水路誌ヲ編纂改正スル事

第六 海圖水路誌配賦準備ノ事

第七 艦船ノ海圖新舊交換ノ事

第八 製圖鑄刻及印刷ノ事

第九 圖誌ニ關スル經費豫算ノ事

第十 水路ニ關スル圖書保管ノ事

第十一 圖誌ニ關スル報告統計整理ノ事

第二十條 測器課主管ノ事項ハ左ノ如シ

- 第一 艦船用測量器及本局用測器保護整頓ノ事
- 第二 測器修理ノ事
- 第三 測器ニ關スル報告並新發明測器調査ノ事
- 第四 測器ニ關スル經費豫算ノ事
- 第五 測器ニ關スル報告統計整理ノ事
- 第二十一條 課長ハ事ヲ部長ニ承ケ課員ヲ指揮シ課務ヲ整理ス
- 第二十二條 部長傳令使ハ部長ノ命スル事務ニ服ス
- 第二十三條 課僚ハ課長ノ指揮ヲ受ケ課務ヲ整理ス
- 第二十四條 部長專屬員ハ部長ノ命スル事務ニ服ス
- 第二十五條 屬員ハ上官ノ命ヲ受ケ課務ニ服ス
- 第二十六條 水路部ニ屬スル觀象臺ノ職員ハ左ノ如シ
 - 臺長 少佐或大尉 一人
 - 觀測士 大中尉 一人
 - 觀測助手 判任官 六人
- 第二十七條 觀象臺主管ノ事項ハ左ノ如シ
 - 第一 天體ヲ觀測スル事
 - 第二 經線儀羅針晴雨儀其他ノ測器ヲ試驗スル事
 - 第三 經度聯測ノ事
 - 第四 氣象ヲ觀測スル事
 - 第五 天候ノ警報ヲ爲ス事
 - 第六 錐氣ヲ觀測スル事
 - 第七 觀象ニ關スル報告整理ノ事

第二十八條 觀象臺長ハ事ヲ水路部長ニ承ケ臺務ヲ整理ス

第二十九條 觀測士觀測助手ハ臺長ノ指揮ヲ受ケ觀測及其記事ニ從事ス

第三十條 水路部觀象臺ノ金錢需用品ノ給與ハ會計局員ヲ派シテ處辨セシム

水路部ヨリ海軍省へ同十九年二月一日

水路部條例第三十條

水路部觀象臺ノ金錢需用品ノ給與ハ會計局員ヲ派シテ處辨セシムト有之ハ會計局員水路部ニ派出シ水路部並ニ觀象臺ノ金錢需用品ノ給與ヲ取扱候義ニ候哉此段相伺候也

指令十九年二月二日

同ノ趣ハ會計局員ヲ水路部ニ派出シ該部並觀象臺ノ給與向取扱候義ト可心得事

水路部ヨリ海軍省へ上申十九年三月十八日

本年二月普第八百四號ノ二ヲ以テ物件購買要求ノ儀ハ購買事務規程ニ依リ購買委員へ可要求云々御達ニ付十九年度ニ於テ要スル物件ハ已ニ該規程ニ基キ購買委員へ及通知置候得共茲ニ本部主管購買品總船各應渡圖誌測器類ノ儀ニ付反覆熟考仕候ニ圖誌ニ於テハ其種類ハ目下已ニ準備品三千餘種ニ及ヒ而シテ此多數ノ圖誌ニ就テハ年々月々不絶多少ノ改正有之者ニ候得ハ時宜ニ依リ會計年度ニ先ダチ購入ノ手順ヲナサレハ著荷ノ上改正ヲ經サル多分ノ古圖誌ヲ買取ルヘキ事實ニ逢ヒ可申然ルトキハ外國ノ失モ不易自然艦船渡モ限乏ヲ生シ可申且本部ニ於テ圖誌編製原稿參照用トシテ可取入モノハ外國ノ報告ニ依リ不移時直接購入ノ手順ニ逐ハサレハ編製上ニ障礙不少又艦船及本部測量員用準備ニ係ル測器類ハ其品類夥多ニシテ其中各國天文臺ノ試驗ヲ經ヘキ者アリ或ハ少數ニテ屢々注文スヘキ者有之又同一ノ品ニテ航海用ニ供スル者ト本部原器ニ供スル者ト注文所ヲ別ツ等共購買上ニ於テ圖誌同様各屬ヲ經テハ繁複ヲ極メ且著荷ノ上其物品ノ不的當ヲ認ムル等ノ不都合ハ到底難免存候然ルニ右圖誌測器ノ類ハ普通ノ品ト違ヒ本部ノ外他ニ類品モ無之且前陳ノ通り事實ニ於テ差支モ不少候得ハ該物件ニ限リ本部豫算内ニ於テ直接購入候様御裁省相成度此段上申仕候也

指令 十九年三月二十日

上申之趣認許ス

海軍省ヨリ水路部へ達 十九年四月十六日

新製海圖改正海圖頒布ノ義ハ自今經伺ノ上取計フヘシ

右訓令ス

水路部新製改正海圖
八種頒布上申セシム
十九年四月勅令第二十六
號ヲ以テ水路部官制ヲ定

水路部觀象臺類ハ豫
算定額内ヲ以テ直ニ購
買ス

十九年九月海軍省令第百四號ヲ以テ海軍水路誌供給規則ヲ定ム

本宿秘書官ヨリ參謀本部海軍部副官へ通牒 十九年四月十六日
新製海圖頒布ノ義ニ付參冬第一五號第二ヲ以テ御回答ノ趣了承別紙ノ通水路部長へ訓令相成候條此段
爲御心得及御通牒候也

兵備門 陸海軍官制 海軍一

五百十八

水路部官制ヲ定ム
二十一年六月勅令第四十九號ヲ以テ定ム

勅令 十九年四月二十二日內閣總理大臣伯爵伊藤博文海軍大臣伯爵西郷從道副署
朕海軍水路部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍水路部官制

第一條 海軍水路部ハ水路測量海圖調整水路誌編纂氣象觀測及圖誌測器ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 水路部ニ測量科圖誌科測器科觀象臺計算課ヲ置ク

第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一人 少將
- 測量科長 一人 大佐或中佐
- 圖誌科長 一人 少佐
- 測量班長 三人 少佐或大尉
- 觀象臺長 一人 大尉或技術官
- 測器科長 一人 大尉
- 圖誌科僚 一人 同上
- 測量士 六人 大尉或中尉
- 觀測士 一人 尉官或技術官
- 計算課長 一人 屬
- 測量助手 若干人 判任技術官

觀測助手 若干人 屬或判任技術官

第四條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發スルコトヲ得

第六條 測量科長ハ部長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル

一、各班ニ下スヘキ測量教令ヲ立案スル事

二、各班ノ測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項

三、圖誌科ニ於テ調整セル海圖ノ調査ニ關スル事項

四、各班ノ水路記事ノ調査ニ關スル事項

五、測量經費豫算ニ關スル事項

六、測量成績報告書及測量ニ關スル書類ヲ立案シ又ハ調査スル事

七、測量ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス

第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ原圖ヲ調整シ其水路記事ヲ記述スル事ヲ掌ル

第九條 測量士ハ各班ニ分屬ス

第十條 測量方面ノ狭少ナルモノハ測量士ヲシテ之ヲ主幹セシムルコトヲ得

第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シテ班長ノ命ヲ承ケ測量士ヲ助ク

第十二條 圖誌科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、測量原圖ニ依リ海圖ヲ調整スル事

二、諸報告ヲ調査シ海圖水路誌ヲ編成補正改正シテ之ヲ出版スル事

三、水路告示ヲ起草スル事

四、艦船營ニ備フル海圖水路誌ノ定數ニ關スル事項

兵備門 陸海軍官制 海軍一

五百十九

- 五、海圖水路誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事
- 六、圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項
- 七、圖誌ヲ保管スル事
- 八、圖誌ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第十三條 測器科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、測器ヲ保護整頓製造修理スル事
 - 二、艦船營ニ備フル測器ノ定數ニ關スル事項
 - 三、測器ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊測器ヲ交換スル事
 - 四、測器ノ購買及經費豫算ニ關スル事項
 - 五、測器ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
 - 第十四條 科長ハ部長ノ命ヲ承ケ科務ヲ整理ス
 - 第十五條 科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ科務ニ服ス
 - 第十六條 觀象臺ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、天體氣象及鑑氣ヲ觀測シ經度ノ聯測ヲ行ヒ測器ヲ試驗シ警報ヲ發スル事
 - 二、沿海ノ氣象ヲ調査シ天候圖海流圖ヲ編成スル事
 - 三、觀象及測器試驗ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
 - 第十七條 觀象臺長ハ部長ノ命ヲ承ケ觀象臺ノ事務ヲ整理ス
 - 第十八條 觀測士ハ臺長ノ命ヲ承ケ觀象臺ノ事務ヲ分掌ス
 - 第十九條 觀測助手ハ臺長ノ命ヲ承ケ觀測其他ノ事ニ服ス
 - 第二十條 計算課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス
 - 第二十一條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、本部經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項

水路部職務細則ヲ定ム

- 二、部内經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
 - 三、部内ノ庶務
 - 第二十二條 第三條ニ掲ケル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク
- 海軍省ヨリ水路部へ達 十九年六月二日 要第三八二號
- 其部處務細則別冊ノ通定ム
- (別冊)

海軍水路部處務細則

- 第一章 代理及分課
- 第一條 水路部長事故アルトキハ測量科長ヲシテ部内ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第二條 測量科長ハ部長ヨリ代理ヲ命セラレタルトキハ其指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理スヘシ而シテ上申伺水路告示及ヒ各國水路部ヘノ往復書ノ如キハ部長ノ名ヲ以テ發付スヘシ
- 第三條 水路部長出張ヲ命セラレ或ハ病氣其他ノ事故アリ數日間事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ臨時代理ヲ命スルモノトス
- 第四條 測量科長事故アルトキハ在部ノ班長若クハ測量士ヲシテ其主務ヲ代理セシムヘシ各員出測中ニシテ代理者ナキトキハ部長ノ見込ニ依リ部内ノ將校ヲシテ代理セシムヘシ
- 第五條 部長專屬職員ハ部長ノ官印ヲ管守シ文書ノ接受發送部中各主管ニ屬セサル文書ノ取扱及部長ノ命ヲ受ケ祕密文書ノ起案調査ヲ掌ル
- 第六條 各科課屬員ハ各上官ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ服ス
- 第七條 測量科ノ兵曹水兵ハ各班長ニ分屬シ屬員ハ科長ニ專屬ス
- 第八條 圖誌科ニハ左ノ五掛ヲ置キ其事務事業ヲ分掌ス
 - 一 圖書掛

二十年十二月十六日第九
條以下三條ヲ改正ス

- 一 製圖掛
- 一 編誌掛
- 一 彫刻掛
- 一 印刷掛
- 第九條 圖書掛ハ科僚之ヲ督理シ其事務ヲ左ノ四項ニ分チ各其主任ヲ定メテ之ヲ掌ラシム
 - 一 圖書ノ調査
 - 二 圖書ノ配賦交換諸受拂及海外通信
 - 三 圖書ノ保存目錄ノ調整
 - 四 往復記録及科内ノ雜務
- 第十條 製圖編誌彫刻掛ニハ各掛長ヲ置キ其主務ヲ幹理セシム
- 第十一條 製圖掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 編畫
 - 一 淨寫
 - 一 補寫
 - 一 寫眞
- 第十二條 編誌掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 水路誌ノ編纂改補
 - 一 水路告示ノ編纂及燈臺表ノ調整
 - 一 圖誌ノ翻譯
- 第十三條 彫刻掛ノ事業左ノ如ク分別ス
 - 一 經畫方線
 - 一 海岸線

- 一 錘測字
- 一 文字
- 一 砂點
- 一 山脈
- 一 布點補刻
- 一 石版刻寫
- 第十四條 製圖彫刻印刷掛ノ平常執業時間ハ八時間ヲ以テ定時間トス
- 第十五條 刷版掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 銅版印刷
 - 一 石版印刷
 - 一 鍍版
 - 一 表裝
- 第十六條 圖書掛及編誌掛ハ屬ヲ以テ之ニ充テ製圖掛彫刻掛印刷掛ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十七條 測器科ニハ掛ヲ置カス
- 第十八條 測器科備員ノ執業時間ハ圖誌科ノ執業時間ニ同シ
- 第十九條 觀象臺ニハ左ノ三掛ヲ置キ觀測士及觀測助手ヲシテ其事務事業ヲ分擔セシム
 - 一 測天掛
 - 一 氣象掛
 - 一 試驗掛
- 第二十條 測天掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 天體及磁氣ノ觀測
 - 一 經度聯測

第二十一條 氣象掛ハ左ノ事ヲ掌ル

一 氣象觀測及警報ノ發信

一 官制第十六條第二項

一 艦船航泊日誌ノ保存

第二十二條 試驗掛ハ左ノ事ヲ掌ル

一 測器試驗

一 官制第十六條第三項及報告出版

一 經線儀風雨針寒暑針ノ保存

第二十三條 計算課ニハ別ニ掛ヲ置カス

第二十四條 計算課受拂ニ用ユル官印及豫備金ハ課長之ヲ管守ス

第二十五條 本部ニ使用スル監護用使給仕ハ計算課ニ於テ之ヲ管轄ス

第二章 文書取扱

第二十六條 本部ニ到來スル文書ハ凡テ專屬員之ヲ取纏メ開封シ番號ヲ附シテ部長ノ査閱ニ供ス

第二十七條 外國ヨリ到來ノ文書ハ專屬員ヨリ封皮ノ儘之ヲ主務ノ科臺課ニ配付シ外國へ發送ノ文書ハ科臺課ニ於テ封緘シ之ヲ專屬員ニ回付ス

第二十八條 部長ハ文書ヲ査閱シ其主務ノ科臺課指示ノ印ヲ捺シ專屬員ニ下附シ其件名ヲ簿册ニ登記シ各主務ニ配附セシム

但事ノ急施ヲ要スルモノハ屬員ヲシテ急印ヲ捺サシム

第二十九條 科臺課長ハ部長ヨリ下附ノ文書ヲ審查シ其上申照會等ヲ要セサルモノハ其儘保存シ之ヲ專屬員ニ通知シ其要スルモノハ各文案ヲ附シ之ヲ部長ニ出スヘシ而シテ之ヲ部長ニ出スニハ其受領ノ日ヨリ五日ヲ超ユヘカラス其急印アルモノハ即時處辨シ又其事業ノ施行學術ノ調査等ヲ要シ定限時日內ニ處辨シカタキモノハ豫メ其事由ヲ申報スヘシ

第三十條 事ノ連帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科臺課ニ於テ處分案ヲ起草シ關係科臺課長ト協議ノ上連署スヘシ科臺課ノ協議ハ各主任者面議商量シ若シ彼是見ヲ異ニシ速ニ決セサルトキハ直ニ部長ニ面陳シテ決裁ヲ請ヒ文書又ハ附箋ヲ以テ應答スルヲ許サス

第三十一條 科臺課連帶ノ文書ハ主務ノ科臺課ニ於テ處理ノ責任アルモノトス故ニ主務ノ科臺課ハ關係ノ科臺課ニ回付ノ文書ヲ査シ若シ滯滞スルモノアルトキハ之ヲ督促シテ定限ノ時日ヲ經過セシメサルヲ要ス

第三十二條 部長主務科臺課ノ成案ニ異議アルトキハ各主務長ニ命シテ之ヲ修正セシメ然ル後專屬員ニ下付スルモノトス

第三十三條 專屬員ハ配付シタル文書ノ日限ヲ計査シ若シ日限ヲ經過シテ部長ニ上答ナキモノアルトキハ之ヲ主務ノ科臺課ニ通告シ其件名及科臺課名ヲ部長ニ報スヘシ

第三十四條 部長親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後直チニ部長ニ呈スヘシ

但部長閱覽ノ後該文書ヲ下付シタルトキハ其事項ヲ件名簿ニ記入スヘシ

第三十五條 第二十九條ニ依リ科臺課長ヨリ出シタル文案及各科臺課ヨリ起ル文書ハ專屬員之ヲ淨寫シ番號ヲ付シ件名ヲ簿册ニ登記シテ發送スヘシ而シテ原書ハ發送ノ番號年月日ヲ記入シテ各科臺課ニ返付スヘシ

但報告統計及計算ニ關スル文書ハ本條ニ依ラス各科臺課ニ於テ淨寫スヘシ

第三十六條 專屬員ニ於テ原稿淨書ノ際文字ノ誤謬又ハ書式ニ違フモノアルトキハ之ヲ訂正スヘシ

ト雖モ成案ノ責任ハ各科臺課長ニ在ルヲ以テ立案ハ精核周到ヲ要ス

第三十七條 部内ノ諸達及部員一己ノ願屆竝ニ履歷等ニ關スル文書ハ專屬員之ヲ保存スヘシ

水路部ヨリ海軍省へ上申十九年五月四日

營部處務細則別册案文ノ通御裁定相成度此段上申仕候也

水路部海軍水路供給
規則ヲ定ム

海軍省令 十九年九月二日
第四百四號海軍一號

海圖水路誌供給概則ヲ定ムルコト左ノ如シ

海圖水路誌供給概則

- 第一條 艦船及鎮守府各廳ニ要スル海圖水路誌水路雜誌水路告示航海曆航泊日誌ハ水路部ヨリ各鎮守府文庫ニ送付シ文庫ヨリ所要ニ應シ供給スルモノトス
- 第二條 海圖ハ我海軍海圖ニ限ルト雖我海軍海圖ナキ地方ノモノハ英海軍海圖ヲ以テ補充スルモノトス
- 第三條 海上航行ニ堪ユル各艦船ニ渡スヘキ海圖ハ交趾南東角バダラン岬ヨリ巴拉灣島北端及バナール島ニ至リ北東火山島小笠原島ヲ經テ東察加アワチャ灣ニ至ル線内ノ海岸島嶼ニ係ル海圖各一葉ヲ以テ一部トス
- 第四條 文庫ニ於テハ第三條ニ掲クル海圖ヲ第八條第三項第四項ノ艦船及裝裝艦船ノ數ニ應シ各一部ヲ編束シ置キ改裝新版大改正ノ圖ヲ水路部ヨリ受領スル毎ニ之ヲ挿換シ水路告示ニ依リ補正又ハ記注ヲ要スル海圖ニハ其告示ヲ每葉ニ添付シ置キ不時ノ出航ニ支障ナカラシムヘシ
- 第五條 文庫ニハ第四條ニ掲クル海圖ノ外水雷船用トシテ須要ノ海圖ヲ貯ヘ且豫備トシテ每圖若干葉ヲ備フヘシ其數ハ使用ノ繁閑ニ依リ定ムヘキモノトス
- 第六條 文庫ニハ第四條ニ掲クル海圖ノ外世界全部ノ海圖各一葉ヲ備ヘ不時ノ需用ニ應スヘシ
- 第七條 艦隊旗艦鎮守府參謀部ニハ第三條ノ諸海圖ヲ備ヘ尙ホ左ノ海圖ヲ備フヘシ
 - 世界全圖 世界風潮圖 大平洋全圖 大平洋東部及印度洋全圖
- 第八條 艦船ニハ左ノ區別ニ從ヒ海圖ヲ供給スヘシ
 - 第一 艦隊艦船 第三條ニ掲クル海圖二部但艦ノ容積二部ヲ備フル能ハサル艦船ニハ一部
 - 第二 測量艦生徒練習艦 同上但第三條ニ掲クル海圖ノ區域外ニ航スルキハ臨時文庫ヨリ貸與スヘシ
 - 第三 若水兵若火夫航海練習艦 航海ニ應シ第三條海圖ノ中須要ノ海圖ヲ供給シ其他ハ文庫ニ收藏ス

二十年三月海軍省令第五號
水路部海圖水路誌供給概則第十五條ヲ改正ス

水路部海圖水路誌供給概則第十五條ヲ改正ス

- 第四 繫留諸艦 航行スルヲ 繫留ノ港内港外ニ係ル海圖ヲ供給シ其他ハ文庫ニ收藏スヘシ
 - 第五 繫留諸艦 航行スルヲ 繫留ノ港内港外ニ係ル海圖
 - 第六 水雷艇 常繫港近傍ノ海圖 百里以内ノ海岸海面
 - 第九條 文庫ニ於テハ損破汚染等ニ依リ艦船其他ノ海圖ヲ交換シ若クハ其他ノ事故ニ依リ海圖闕乏スルキハ速カニ事由ヲ證明シ補闕ヲ水路部ニ請求スヘシ
 - 第十條 新版改裝若クハ大改正ニ係ル海圖アルキハ水路部ヨリ隨時文庫ニ送付スルモノトス
 - 第十一條 改裝大改正若クハ損破汚染等ニ依リ交換返納ニ係ル海圖ハ文庫ニ於テ收聚シ置キ便宜水路部ニ送付シ或ハ水路部ノ承認ヲ受ケ之ヲ廢紙ニ付スヘシ
 - 第十二條 水路部刊行ノ水路誌水路雜誌水路告示ハ關係海圖ノ有無ニ關セ各一部ヲ供給スヘシ
 - 第十三條 航海曆ハ第八條第一項第二項第三項ノ艦船ニハ各二部ヲ供給シ其第四項ノ艦船マサル艦ヲ除キハ各一部ヲ供給ス
 - 第十四條 航泊日誌ハ每艦毎年各八冊ヲ供給スヘシ
 - 第十五條 文庫主管ハ毎年三月ニ於テ前一週年ノ圖誌受排統計表ヲ製シ司令長官ノ檢印ヲ受ケ水路部ニ送付スヘシ
 - 第十六條 圖誌供給ニ關スル事件ニシテ定規アルモノハ水路部圖誌課長文庫主管ト直チニ往復照會スルコトヲ得
- 海軍省令 二十年三月四日 第五號 海軍一
 明治十九年 九省令第四百四號 海圖水路誌供給概則第十五條左ノ通改定ス
 第十五條 文庫主管ハ毎年一月ニ於テ前一週年ノ圖誌受排統計表ヲ製シ司令長官ノ檢印ヲ受ケ同月十五日限水路部ニ送付スヘシ

水路部機密取扱方ヲ定ム

海軍省ヨリ水路部へ達 二十年六月一日

機密圖取扱方左ノ通相定ム

- 第一 測量海圖ニシテ軍略上世ニ公示シ難キモノハ機密圖トス
 - 第二 機密圖ト雖モ世ニ公示スルト否トニ依リ一般航海者ノ利害ニ關スル大ナルモノハ軍略上最モ機密トスル部分ヲ省略シテ刊行スヘシ
 - 第三 機密圖ニシテ已ニ公布セル海圖ニ關係アルモノハ軍略上最モ機密トスル部分ヲ省略シテ公布スル圖ヲ改正スルモノトス
 - 第四 新測圖成ルトキハ水路部ヨリ直ニ參謀本部海軍部ニ協議シ前三項ノ事ヲ定メ然ル後刊行スヘシ但圖面及協議ノ次第ハ届出ヘシ
 - 第五 機密圖ハ司令長官司令官參謀長艦長ニ限り下付シ其他所要ノ理由ニ依リ下付スルコトアリ但機密圖ト雖モ航海上必要ナラサルモノハ司令長官司令官艦長ト雖モ下付セス
 - 第六 機密圖ノ版ハ水路部ニ於テ保管シ印刷物ハ參謀本部海軍部ニ於テ保管出納スルモノトス
- 海軍省ヨリ水路部へ達 二十年十二月十六日
- 其部處務細則中第九條第十條第十一條及第十二條ヲ改正スル左ノ如シ
- 第九條 圖書製圖編誌彫刻掛ニハ各掛長ヲ置キ其主務ヲ幹理セシム但印刷掛ニハ製圖彫刻掛員ノ内ヨリ一名ノ督理ヲ置ク
 - 第十條 圖書掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 官制第十二條ノ第四第五第六第七第八項及科内ノ庶務
 - 一 圖書ノ調査及目錄調製
 - 一 各國圖書交換及圖書拂下
 - 一 官制第十二條ノ第一項

水路部機密取扱方ヲ定ム

海軍省ヨリ水路部へ達 二十年十二月十六日

- 一 淨寫
 - 一 補寫
 - 一 編畫
 - 一 寫眞
- 第十二條 編誌掛ハ左ノ事ヲ掌ル
- 一 官制第十二條ノ第二第三項
 - 一 水路雜誌ノ編纂及燈臺表ノ調製
 - 一 圖誌ノ翻譯及誌類ノ出版
- 水路部ヨリ海軍省へ上申 二十年十二月九日
- 其部處務細則中第九條第十條及第十二條左ノ通り御改正相成度別紙改正案相添此段上申候也
- 海軍省ヨリ水路部へ達 十九年二月四日
- 其部工手及工手補ハ合シテ二十五人ヲ以テ定員ト定ム此旨相達候也
- 水路部ヨリ海軍省へ上申 十九年二月三日
- 常部工手二十五名内
- | | |
|-----|----|
| 製圖手 | 三名 |
| 鐫刻手 | 八名 |
| 刷版手 | 七名 |
| 表裝手 | 一名 |
| 時計手 | 一名 |
| 測器手 | 五名 |
- 右ノ通員數被相定度尤事務繁劇ノ節ハ刷版手表裝手測器手等ハ日給雇ヲ以テ其都度雇入候様仕度此段上申仕候也
- 海軍省ヨリ水路部へ達 十九年二月十日
- 自今其部へ左ノ人員ヲ置ク

水路部ニ兵曹水兵各三名ヲ置ク

水路部工手及工手補定員ト定ム

- 兵制門 陸海軍官制 海軍一
- 五百二十九

兵曹 三名
水兵 三名

水路部ヨリ海軍省へ上申十九年二月五日
啓水路局ニ於テ從來ノ測量員ハ測量出張ニ際シ其時々多少ノ下士水兵ヲ屯營ヨリ借受之ヲ引率シテ測量事業ヲ施行致來候得共元來該下士水兵タル者ハ艦船運用戰争配置等ニ專ラ訓練セルモノニシテ水路測量事業ニハ不熟ナルカ故ニ之ヲ該業ニ使役スルニ臨ミテハ其進退ノ方法ヲ授ケ傍ラ之ヲ訓練セサル可ラサルカ爲ニ大ニ測量員ノ事業ヲ施スニ時間ヲ費スノ妨ケヲナスコト少カラズ而シテ漸ク之ニ馴致スルニ及ヘハ最早測量ヲ成功スルノ期ニ至リ歸京ノ後ハ直ニ屯營ニ復歸セシメ翌年再ヒ該局員ノ出張スルトキハ更ニ他員ヲ借受ケ之ヲ使役スルカ爲メ恒ニ測量ニ熟練セル該員ヲ使役スル能ハサルノ患アルノミナラス兎角屯營ヨリ從來借受タル水兵ハ往々品行方正ナラス事業ヲ施スニ直實ナラサルモノ有之甚タ差支ヲ生居候處更ニ今回ノ御改革ニ際シ測量員モ減少セシ義ニ候得ハ從前ノ如ク事業ニ未熟ナル水兵ヲ引率スルハ大ニ事業ニ滯滞ヲ來候間此際更ニ測量員中へ下士三名水兵三名ヲ別紙採用手續ヲ以テ撰拔ノ上本部ニ定置シ在京ノ間ハ測量標旗ノ緋方錘測量器具其他測量帶用物品ノ取扱ヲナサシメ平常測量事業ニ熟練セシメ出陣ノ間ハ測量班ニハ下士水兵各一名ヲ隨行セシメ測量地ニ在テハ專ラ測量ノ建方及錘測日夜潮汐ノ驗測等ヲ負擔セシムル者ニ候ニ付該員定置ノ義御許容相成度此段上請仕候也
(別紙)

測量下士卒採用手續

測量下士卒ノ資格

一 品行方正資性直實

一 尺牘往復一通リヲ辨スル者

一 亞刺比亞數字解得セシ者

一 卒ハ一等水兵以下ニシテ乘艦一箇年以上ノ者

右ノ資格ヲ有スル者六名ヲ各艦船營ノ内ヨリ撰拔シ尙本部ニ於テ試験ノ上合格ト認ムル者ヲ採用スル事

海軍省ヨリ水路部へ達 十九年五月十八日

其部測量助手觀測助手屬員ノ定員左ノ通り定ム

右訓令ス

部長專屬

測量科 二人

測量助手 六人

圖誌科 一人

技手 八人

觀象臺 十九人

觀測助手 六人

測器科 三人

計算課 二人

以上

右ノ外測量科附屬トシテ兵曹三人水兵三人ヲ置ク

水路部ヨリ海軍省へ上申十九年五月十日
當部判任官及卒ノ定員別紙割合ノ通り御定メ相成度此段上申仕候也

水路部及觀象臺用便ヲ減シ監視ヲ設ク

水路部ヨリ海軍省へ上申十九年六月九日
從來當部及觀象臺ニ於テハ用便ノミヲ以テ門衛其他囑中取締リ爲致來リ候處右ニテハ他各關ノ振合ニモ背キ且實際取締上不都合ノ虞モ有之ニ付今般別表之通り用便ヲ減シ更ニ監視ヲ設ケ門衛其他取締等爲致度候間此段御裁可被下度上申仕候也
追テ監視新設ニ關スル經費ハ既ニ本年度經費豫算額内ニ見積リ申置候此段爲念副申仕候也
(別表)

水路部	現員用使	現員ノ内可減用使	今般請求之監護	今後可要用使
九名	九名	三名	四名	六名
觀察臺	五名	一名	二名	四名

指令 十九年六月十二日
書面之趣認許ス

海軍省ヨリ水路部へ達二十年十二月一日

其部雇員ノ定員ヲ筆生七人技生十九人器械手六人監護七人用使十一人給仕六人ト定ム

水路部雇員ノ定員ヲ定ム
海軍省ヨリ水路部ニ別送セシメ
陸軍省ヨリ御沙汰ハ五年
二月三十日ニテ陸軍一
部制ノ部ニ送ス

造兵紀開兩司ノ設置方
法ヲ海軍省ニ別送セシメ
陸軍省ヨリ御沙汰ハ五年
二月三十日ニテ陸軍一
部制ノ部ニ送ス

海軍省同五年三月十三日
造兵紀開兩司ノ備先般何ノ上機械部間等海陸一司ニテ使用イタシ來候處去月分省被仰出候末右兩司陸
軍省轉ノ御沙汰相成候左候テハ於當省如何相心得可然哉今爲何御沙汰モ無之即今機械製造差支候ノ
ミナラス殊更紀開ノ備ハ一日モ難被差置譯ニ付速ニ御評議ノ次第承知仕度此段奉伺候也
指令 五年三月十四日

造兵紀開兩司陸軍省ニ被管候ニ付更ニ取立ノ方法可相伺候事

武庫條例 五年七月四日

第一條 綱領ノ事

- 一 武庫一定ノ職務ハ大小礮並諸屬兵器ヲ收藏支給スルヲ掌トル事
- 一 武器貯藏ノ品數並其種類諸規則取締リ向等他方ニ於テ猥リニ漏泄スル可カラサル事
- 一定則ノ改正或ハ武器格納操治ノ工夫等總テ見込筋ハ書面ニ認メ可申出事
- 一 各員一定ノ職掌アリト雖モ非常繁劇ノ事アルトキハ他ノ課ヨリ手傳可致事

武庫條例ヲ定ム
五年十月十五日海軍條例
ヲ定ム上ニ載ス

- 一 武器格納手入不行届ヨリシテ或ハ鏽ヲ生シ或ハ故無クシテ壞敗ニ至ル等皆其管課筆頭ノ過チタル事
- 一 諸兵器貸渡切或ハ引替等ノ事ハ本省祕史局ノ印ヲ目的トシテ可取扱事
- 一 諸分課ニ於テ兵器手入ノ規則其他實地ノ取扱向ヲ器械保護手ヘ教諭スヘキ事
- 一 書籍諸帳簿ハ猥リニ携ヘ歸ルヲ禁ス尤モ借用致度者ハ其掛リ筆頭ヘ届出手形ヲ差出シ日限ヲ定メ借
用可致事

- 一 海軍省内條例書ニ就テ武庫關スルノ事件堅ク可相守事
- 一 倉庫ノ近傍ニテ火ヲ扱フヲ禁ス吸烟タリトモ猥ニ吸フ可ラサル事

附若シ火ヲ用ヒスンハアルヘカラサルトキハ其故ヲ斷リ後ニ相用可申事

第二條 倉庫ノ規則

- 一 庫内ハ清淨ヲ旨トシ掃除等其管轄ノ者吟味可致事
- 一 諸庫ヲ分チテ十箇トシ其一大礮庫其二小銃庫其三火藥庫其四大礮彈庫其五小銃彈庫其六管類庫其七
洞亂庫其八背囊庫其九樂器庫其十雜器庫以上諸倉庫ハ每庫其門扉ニ庫名ヲ題記シ番號ヲ加フ可キ
事
- 一 諸倉庫ハ各分課ニ於テ管轄シ他人ノ斷リ無ク猥リニ出入ヲ禁ス
- 一時宜ニ依リ二課ノ物品ヲ一庫中ニ收藏スルトキハ每課ニ管轄ノ疆界ヲナシ出納封緘リ等雙方ノ立會
ノ上可致事
- 一 一回ヒ庫扉ヲ開キ其用事畢ルニ至レハ直チニ之レヲ閉ツ可シ鎖鑰ヲ設ケス開扉ノ儘立去ル間敷事
- 一 庫内ニテ兵器手入方其外操作ノ事アルトキハ管課ノ者一人宛監守ス可キ事
- 一 心得ノ爲メ庫中ノ拜見ヲ乞フ者アラハ管課ノ者一人案内可致事
- 一 諸倉庫其他ノ鎖鑰ハ各分課ニ於テ管轄シ開閉封緘リトモ管課ノ者手親ヲ之ヲ爲スヘキ事
- 一 諸鎖鑰ハ各々函ニ納メ封印ヲ爲シ退出ノ後宿直ノ者ヘ相預クヘキ事
- 一 封印紙ハ美濃紙ヲ相用ヒ其用ニ臨ンテ預リ之者押印シ庫名番號月日ヲ記載シ念ヲ入レ封印可致

事

第三條 小分課之事

一 武庫ノ分課ハ庶務大礮小銃火藥竝會計五課ニ區別ス各課職掌左ノ如シ

庶務

一 兵器貸渡竝渡切等本省檢印濟之者ハ一々此課ニ於テ申出帳ヘ寫取諸課ヘ分配布達スル事
一 申出請取貸渡ノ諸帳ヲ掌トル事
但元拂帳ハ各課ニ於テ掌トル事

一 武器竝火藥等闕乏ナルトキハ大礮小銃竝火藥課ヘ申談シ製造竝買入レノ手配可致事
一 諸庫竝附屬地ノ新築營繕ヲ管スル事
一 附屬保護手竝小遣給仕ヲ所轄スル事

一 諸分課申合セ武器類格納取扱ノ規則ヲ建ル事
一 全國海軍兵器表竝海軍武庫現在スル兵器表ヲ作り毎年四度ツ、三月六月九月十二月出入差引ヲナシ表面ヲ改革スル事

一 諸屬地ヲ管スル事
一 宿直竝當直ノ順番ヲ調フル事

一 日記ヲ分記シ往復書類ヲ掌トル事
一 檢印界紙竝請取證書ノ類夫々區別ヲ建テ取締リスル事

一 御布告書ヲ一統ヘ順達スル事
一 記室圖籍ヲ管轄スル事

一 官員附屬保護手小遣給仕竝定用人夫等ノ出所其外明細ヲ取調ヘ人別帳ヲ作り竝官員勤怠帳ヲ調フル事
一 諸印鑑印章ヲ所轄スル事

大礮

一分課ノ兵器ヲ取調ヘ根帳ヘ記載シ且檢査格納運送其支給ヲ掌トル事

一 大礮竝屬器元拂帳ヲ掌トル事

一 大礮竝諸屬器ノ修製製作向ヲ管スル事

一 各艦竝兵員ニ應シ常備豫備ノ計算ヲ立テ可申出事

一 號火類ヲ掌トル事

一分課ノ兵器ハ表ニ記載シ置ヘキ事

一 艦隊ノ大礮訓練竝礮兵ノ操練等ニテ毎月可費彈藥等ハ巨細ニ表ニアラハシ前以テ手當可有之事

一 火藥分課ト申合セ大礮火藥ヲ取調ヘ置クヘキ事

小銃

一分課ノ兵器ヲ取調ヘ根帳ヘ記載シ且檢査格納運送其支給ヲ掌トル事

但シ礮兵銃ト雖トモ掌トル事

一 總テノ樂器類ヲन्दセル胴亂等其他隨身ノ兵器ヲ掌トル事

一 所轄ノ兵器ノ修製製造向ヲ管スル事

一分課兵器ノ元拂帳ヲ掌トル事

一 各艦竝兵數ニ應シ常備豫備之計算ヲ立テ可申出事

一 海兵操練用ノ小銃彈藥空發等ヲ毎月可費丈ケ表ニ顯ハシ先以テ手當可有之事

一分課ノ兵器竝樂器共可成丈ケ表ニ顯シ置ク可キ事

一 火藥課ト申合セ小銃火藥竝バトロンヲ取調ヘ置クヘキ事

火藥

一 火藥ヲ檢査シ格納支給スルヲ掌トル事

但彈藥ハ大小銃掛ヘ申合スヘキ事

- 一 火藥庫ヲ所轄スル事
 - 一 火藥運搬ヲ所轄スル事
 - 一 火藥操作ノ規則建ル事
 - 一 大礮ノ藥囊ヲ司トル事
 - 一 小銃彈藥ハ小銃課ト申合セ格納方取扱申ヘキ事
- 會計
- 一 會計諸拂大帳ヲ作り出納ノ金額ヲ細記シ一箇月毎ニ明細勘査帳ヲ作ルヘキ事
 - 一 武庫兵學寮本部諸艦船ノ入費分算スル事
 - 一 雜品製作買入ヲ司トル事
 - 一 筆墨紙其外大小砲手入物品出納ヲ掌トル事
 - 一 本省ノ差圖ヲ受ケ不用武器物品ノ賣拂ヲ掌トル事
 - 一 諸屬地ノ運上金ヲ掌トル事
 - 一 武庫雜器庫ヲ掌トル事
 - 一 本省會計局規則可相守事

第四條 帳簿規則

- 一 日記ハ武庫一般之事ヲ細密ニ記載スヘキ事
- 一 武器根帳ハ二ツニ別ツ一ハ東京海軍武庫ニ於テ豫備現在スル物其常備分配スル所之諸兵器其一ハ全國海軍武器類ノ大根帳タル事
- 一 武器申出控帳ハ寮部竝一艦毎ニ一帳ヲ造リ物品年月日逐一記載シ且番號ノ下ニ其記シタル官員押印シ竝ニ其品物之下ヘ分課ノ者爲承知押印可有之事
- 一 武器渡帳モ寮部竝一艦毎ニ一帳ヲ作り物品運送之節其品物ト引合セ明細ニ相認メ取扱ノ官員品物員

- 數ニ調印致コト宰領ヲ附ケ相送り可申且宰領之者先方へ品相渡シ候上ハ右渡シ帳ニ受取人之姓名ヲ認メ竝證印ヲ受ケ可申事
- 一 何品ニヨラス相渡シ候上ハ申出控帳竝渡帳へ渡濟ノ印ヲ押スヘキコト
 - 一 本省へ申出ハ寮部諸艦ヨリ武器貸渡シ之義申出ルト雖モ不幸ニシテ其品ニ乏シク又ハ豫メ準備セント欲スルトキハ新規製作或ハ買上等ノ目途ヲ建テ武庫ニテ製作之品ハ用達ノ積リ書ヲ相添本省へ伺出ヘシ尤役内へモ申出之通り積リ書ヲ添ル申出集へ綴チ込ミ置クヘシ尙本省檢印濟之上ハ申出集へ番號其他ヲ記載シ註文帳へ相認メ用達之者へ申付日限其外取極メ印形受取ルヘキ事
 - 一 車輛河船職工人夫等用ニル節ハ前日各分課ヨリ切符ヲ以テ庶務へ申込庶務課是レニ押印シ會計ニ廻シ會計ヨリ夫々用達ノ者へ申渡スヘキ事
 - 一 保護手部署録ヲ作り毎日庫内ノ操作等明細相認メ可申事
 - 一 職工人夫面著帳ヲ作り人名ヲ記シ竝ニ檢査ノ上老體卓弱ナル者ハ是ヲ除クヘキ事
- 但シ宿直ノ者之ヲ關ス
- 一 職工人夫面著帳ハ各其管課ニ於テ稔ト取糺ノ上調印致スヘキ事
 - 一 武器元拂帳ハ上下二區ニ畫シ上區ニ元數ヲ記シ下區ニ拂數ヲ記ス積テ大數ニ至レハ上下ノ員數ヲ枚計シ殘數ヲ上區ニ出スヘシ右元拂共其時々取扱之者調印可有之事
 - 一 但シ右兵器員數ノ上へ庫ノ番名ヲ記載スヘキ事
 - 一 武庫人別帳ハ官人ヨリ以下定用人夫ニ至ル迄出所年齡住所等明細ニ記載スヘキ事
- 第五條 火藥庫規則ノ事
- 一 火藥庫預リノ外勝手ニ出入致間敷事
 - 一 庫中ニ入ル者ハ刀ヲ脱シ履ヲ替ヘ烟管ヲ捨ツ可シ總シテ鐵具ノ類總テ携へ入ルヲ許サス
 - 一 但火藥操作ニ要スル人夫桶工等ハ豫メ柵外ニ於テ精密ニ檢査ス可キ事
 - 一 醉氣アル人別シテ烈酒ヲ飲シ者ハ庫邊ニ近ツクヲ許サス

一 火藥ヲ出納シ或ハ風乾滾轉スル等總テ開庫關スル作業ハ可成丈連晴ノ時日ヲ撰ヒ午前十時ヨリ相始メ午後四時ニ了ル決シテ曇天又ハ土地濕潤ノ日ニ於テ操作スルヲ許サズ

一 毎歲一度七八月ノ比ニ當テ好日ヲ撰ヒ庫中ノ火藥ヲ取出シ毛布上ニ滾轉シ塊結ノ有無ヲ試ミ其品ニ寄リ一定ノ作業ヲ作其品位ヲ定ム可キ事

但時々乾燥連晴ノ日ヲトシ窓戸ヲ開キ火藥ヲ風乾ス可シ

一 火藥ハ大砲用ト小銃用トノ二類ニ大別シ其中又大中小粒最小粒ノ四種ニ分チ各其力ノ強弱ニ精驗シ其製作年月出處等明細標記ス可キ事

但縱ニ堆積スル者ハ桶側ニ書シ横ニ積ム者ハ桶底ニ書ス可シ

一 火藥多少ノ損敗ヲ受ケ大小砲要用ニ充ツルニ不足者ハ或ハ祝放演習用或ハ再製廢藥等明細ニ識別シ標記ヲ爲ス可キ事

第六條 火藥運搬ノ規則ノ事

但シ此條刊行ノ布令書有リ

第七條 人夫規則ノ事

一 午前第七字人員整列之上宿直ヨリ其人體之強弱ヲ検査シ各分課ニ配付ス若シ老少弱體之者在列スルトキハ除列申付クヘキ事

一 人員整列之上事業ヲ始ルニハ其人員銘々所持用達之印章ト役印鑑トヲ交換交付ス卒業之上ハ印鑑ヲ検査ノ官員ヘ納メ元用達之印章ヲ相渡スヘキ事

但シ用達之印章ナキ者ハ庫之出入ヲ禁ス

一 事業

但シ午前第七字ヨリ午後第五字迄ト定ム 但シ時限ハ日ノ長短ニ依リ變異可有之事

一 食事

但シ十二字ヨリ午後第一字迄ト定ム

一 休息

但シ午前第九字四十五分ヨリ第十字迄午後三字ヨリ同字十五分迄ト定ム

一 事業間根リニ煙吸ヲ許サズ

一 早出並居殘之者ハ其掛リ官員或ハ附屬保護手ノ間是ヲ見留メ其旨其課長ヘ申出ヘキ事

武庫司ヨリ海軍省ヘ届 五年七月四日

甲 三套第一千二百五十六號御布令ニ付テハ事務取扱ノ手順並職制章程等別紙ノ通りニ候條此段別紙御廻申候御落座可被下候也

海軍省達 乙 第五年十月二十二日

造船局中武庫掛被廢海軍武庫司被置候事

海軍省達 乙 第五年十月三十一日

石川島ノ内 鍛冶場 大工小屋 鑄物小屋 製鐵所 鋸場

右製造場造兵司被設候迄武庫司管轄申付且引渡方ノ儀元造船局製造品總出來ノ上可相達候事前條ノ通相達候條爲心得此段及布達候事

海軍省達 五年十月三十一日

石川島ノ内

鍛冶場

大工小屋

鑄物小屋

製鐵所

鋸場

海軍武庫司ノ置キ選船局中武庫掛ヲ廢ス 八年五月七日廢ス

石川島鍛冶場外四個所ヲ武庫司ノ管轄トナシ 製造所ト稱ス 六年十月十八日武庫司ノ管轄ヲ免ス

右武庫司管轄トシテ造兵所ト可唱事

造兵所之約定

六年十月十八日武庫司ノ
管轄ヲ免レ七年一月十二
日武庫司ニ合併ス

海軍條例ハ五年十月十五
日定ムル所上ニ載ス

造兵所之約束 五年十月三十日

第一條 綱領之事

- 一 造兵一定ノ職務ハ海軍部内ノ大小兵器ヲ製造シ是ヲ船艦諸隊ノ使用ニ可充事
- 一 已ニ製造シタル兵器ハ検査試験ヲ經タル後點檢ノ印ヲ刻シ使用スル者ヲシテ安心セシムル事ニ注意スヘキ事
- 一 兵器製造ノ物品ハ其樣式ニ從テ尙ホ工夫ヲ加ヘ總テ見込ノ儀ハ書面ニ相認メ長官ヘ可申事
- 一 兵器製造ノ儀竝入費等ハ本省祕史軍務會計ノ印章ヲ目的トシテ可取扱事
- 一 各員一定ノ職掌アリト雖モ非常急劇ノ事アルトキハ他課手傳可致事
- 一 海軍條例ニ就テ造兵ニ關スル事件堅ク相守ルヘキ事

第二條 小分課之事

- 一 造兵所内課ヲ分ケテ八課トス庶務會計鑄工鍛工火工木工革工器械課ナリ各課ノ職掌左ノ如シ
- 庶務課
 - 一 本省寮司其他諸艦船ノ往復ヲ掌ル事
 - 一 諸帳簿竝證書類ヲ掌ル事
 - 一 文書受領記注送達布告等ヲ掌ル事
 - 一 諸官員附屬司番給仕等ノ勤怠簿ヲ調整スル事
 - 一 諸分課ノ申出物ヲ長官ニ商議シ買入等ノ手配無洩致ス可キ事
 - 一 宿直當直ノ順序ヲ調ル事
- 會計課
 - 一 會計諸排大帳ヲ作り出納ノ金額ヲ細記シ一箇月毎ニ明細勘定帳ヲ作ルヘキ事

一 雜品製作買入レヲ掌ル事

一 筆墨紙其他大小銃手入物品出納ヲ掌ル事

一 造兵所雜器庫ヲ掌ル事

一 總テ地金荒草木材等ノ諸庫ヲ司ル事

一 本省會計局ノ規則可相守事

鑄工課

一 大砲竝彈丸共總テ鑄造ヲ掌ル事

一 總テ鑄造物ノ圖面竝難形出來ノ品物ハ木工課ニ商議シテ製造シ狀チ成リテ能點檢シテ收留スヘキ事

一 地金其他入用ノ品ニハ出來ノ品物ニ應シ量料ノ見込筋綿密ニ可申出事

器械課

一 鐵具青銅具總テ金屬兵器ノ仕上ケ等ヲ検査スル事

一 總テハンク類及鋸所竝其職人ヲ所轄スル事

一 此課ノ圖寫物ハ多クハ木工課及鍛工鑄工等ノ課ニ商議スル物多シ故ニ精密ニ商議シテ製造シ其後チ規型ヲ點檢シテ收留スヘキ事

火工課

一 小銃「パトロン」ノ製造ヲ掌ル事

一 諸信管ノ製造ヲ掌ル事

一 火箭號火等ノ製造ヲ掌ル事

一 摩擦管雷等ノ製造ハ化學ニ關係スルコト頗多シ夫等ノ藥品案排ヲ掌ルコト故處暴ノ始末アルヘカラ

ナル事

鍛工課

一 大小銃竝小道具類總テノ鍛冶ニ關スル事件ヲ掌ル事

- 一 鍛冶職ノ者ヲ所轄スル事
- 一 地金及其鋼鐵等入用ノ物品精粗ヲ調へ見込筋可申出事
- 一 分課圖寫濟ノ上雜形ヲ製造スルニ於テハ木工ニ關係スルコトハ其課ニ商議シ出來ノ上點檢シテ收留スル事
- 木工課附タリ掘工ヲ分課ス
 - 一 砲課銃架ノ製造精密ニセサレハ實ニ人命ノ危キニ至ルコト故愈其樣式ニ基キテ製造ヲ掌ルヘキ事
 - 一 裝藥具手槌類滑車桶篋等其他本部兵器ノ製造ヲ掌ル事
 - 一 木材其他入用ノ物品買入方見込可申出事
 - 革工課附タリ漆工ヲ分課ス
 - 一 胴亂ラントセル藥囊盒其他一切ノ革製ノ兵器製造ヲ掌ル事
 - 一 ラントセル附屬ノ小道具製造ヲ掌ル事
 - 一 革職並裁縫職及ヒ塗工ノ者ヲ掌ル事
 - 一 諸革類並木綿其他入用物品買入方見込可申出事
 - 一 分課ノ圖寫ハ鑄鐵木類鐵物ノ雜形アルヘシ悉ク其課ニ商議シテ造ルヘシ其後チ點檢シテ其使用ニ供スヘキ事

武庫司ノ造兵所管轄ヲ免ス

七年一月二十二日武庫司ニ合併ス

海軍省ヨリ武庫司へ達 六年十月十八日
 造兵所管轄自今差許候事
 但月額金半高可引分事
 海軍省ヨリ造兵司へ達 六年十月十八日
 自今武庫司管轄差免候事
 但武庫司月額金半高可請取事

海軍省達 七年一月十二日

造兵所之稱被廢自今武庫司へ合併申付候條爲心得此旨相達候事

海軍省ヨリ主船寮へ達 七年一月二十二日

今般造兵所武庫司へ合併同司ニ於テ更ニ造兵課相設從前ノ通石川島ニ於テ事務爲取扱候條此段爲念相達候事

武庫司ヨリ海軍省へ届 七年八月十七日

製造技術課

但 鑄工 機械 火工 鍛工 銅工 木工付桶工 革工付塗工

以上七課合併

右者造兵課ノ内庶務課算計課倉庫課ヲ除ク外右之通相改候ニ付此段御届申出置候也

製造課假章程 八年四月七日

- 一 造兵ノ勤務ハ海軍部内ノ大小兵器ヲ製造シ其用ニ供フルヲ掌ル
- 一 倉庫並諸職場ノ鍵及ヒ鎖ノ封ハ其掌ル處ノ官員自ラ捺印固封シ鍵函ハ宿直ニ預ルヘシ
- 一 各一定ノ主務アリト雖モ繁忙或ハ其員闕ルニ至ツテハ互ニ相ヒ助力スヘシ
- 宿直兼當直
 - 一 午前十時ヲ以テ交代ノ時限トス
 - 一 工人出頭著到午前ハ宿明ケ之ヲ監シ午後退散ハ其當直之ヲ監ス
 - 一 工人事業ノ起休止ヲ示令スルヲ掌ル
 - 一 諸往復書類日記其他局中一切ノ事務ヲ掌ル

武庫司製造課假章程ヲ定ム
八年五月七日造兵武庫司ヨリ届ス

武庫司各課ヲ改ム
八年五月七日造兵武庫司ヨリ届ス

造兵所ノ稱ヲ廢シ武庫司へ合併同司造兵課ヲ設ケ從前ノ通事務ヲ執行ス
八年五月七日造兵武庫司ヨリ届ス

- 一 地金木材其他有用ノ品物ハ料量ヲ詳ニシテ監業掛ニ達ス
- 一 工人ノ進退監業掛ニ商議シ選用スヘシ
- 一 諸分課ヨリ達スル製造品ノ受領ヲ掌ル

監業掛

- 一 製造ニ供用スル木材地金等ノ出納及ヒ工人ニ貸シ置ク所ノ器具ヲ微細ニ記載スヘシ
- 一 工人ノ勤惰及ヒ巧拙ヲ檢シ技術掛ニ商議シ備賃ノ進退ヲナシ晝夜ノ短長ニ應シテ起止ノ時限ヲ定ムヘシ

但備賃ノ進退等ノ議決シテ後局長ニ告ケ許可ヲ得ヘシ

- 一 官員附屬司番門番給仕等ニ至ル勤惰帳ヲ掌ル
- 一 各所ノ鍵函ヲ預リ工人退出ノ後附屬等ト立會ヒ職場竝休息所ノ火ヲ檢ス
- 一 夜間ハ二時毎ニ門番司番等交代シテ巡廻シ錠封亦ハ非常ヲ檢シ異常ノ有無ヲ報セシメ風雨等騒カシキ時ハ一時毎ニ巡廻セシムヘシ

技術掛

- 一 製造ハ其式ニ從フヘシト雖モ尙ホ勘考シテ別ニ改メ作ルヘキアラハ子細ニ局長ニ告ケヘシ
 - 一 製造ノ品物ヲ鑒定シ且圖ヲ撰シ及ヒ事業ヲ工人ニ示令ス而シテ完成ノ品物善惡ヲ檢査スヘシ
 - 一 技術掛ヨリ議スル工人進退或ハ新撰採用ノ人員在ルトキハ局長ニ告ケ許可ヲ得ヘシ
 - 一 製造ニ供用スル品物ハ子細ニ記載シ捺印シテ倉庫掛ヨリ受領シ製造ノ殘餘ハ復倉庫掛ニ返却スヘシ
 - 一 完成ノ品物ハ技術掛ト會シテ善惡ヲ檢査シ而後倉庫掛ニ送ル
 - 一 工人ノ鑑札竝著到星ノ調ヘヲ掌ル
 - 一 毎月兩度 前月二十六日ヨリ本月十日迄 工人ノ賃錢ヲ算計シ著到帳ト共ニ局長ニ出スヘシ
 - 一 工人賃 毎月十四日三十日兩度ニ下渡スヘシ
- 但シ算計課官員出役シテ取扱ヘシ

倉庫掛

- 一 庫内ヘ他ノ管セサル者出入スルヲ禁ス職場用ノ品物ヲ渡ス時ト云トモ猥リニ出入スルヲ禁ス
- 一 庫内ハ品物位置正クシテ混雜ナルヘカラス
- 一 一度ヒ戸ヲ閉キ其用終ル時ハ直ニ閉テ假ニ錠ヲ下スヘシ戸ヲ開キ其儘ニ爲シ置ヘカラス
- 一 品物出納ノ時ハ官員一名之ヲ監視スヘシ
- 一 貯積ノ品物竝出納ニ至ル各帳ヲ設ケ微細ニ書記シ瞭然ナラシメ月末毎ニ局長ニ出シ檢印ヲ受ケヘシ
- 一 製造ニ於ル品物監業掛ノ求メニ應シ授與シ貯ナキ時ハ局長ニ告ケ買入ノ手順ヲ爲シ技術掛ト商議シ品物ノ善惡及ヒ代價ノ高下ヲ吟味シ其宜キヲ得タラハ賣上書ヲ取テ局長ニ出シ許可ノ檢印ノ手續ヲナス

一 買入ノ品物ハ庶務課算計課立會ヒ其量數等ヲ檢シ收藏スヘシ

一 完成ノ器具監業掛ヨリ送り來ルトキハ格納シ都合ニ應シ其掌ル分課ヘ送ルヘシ

一 筆墨紙其他用度品ノ出納ヲ掌ル

一 川竝及ヒ平人足等ノ履ヒ入ヲ掌ル

以上

武庫司ヨリ海軍省ヘ届 八年四月七日
右者今般造兵所庶務課算計課合併被仰付ニ於テハ本行通約束相定メ置已後現事施行ノ上不都合ノ儀有之候ハ、尙取御可申出様可致御坐候此段御届申出候也

海軍省ヘ達 八年五月七日

其省中造兵武庫兩司被廢候條此旨相達候事

布告 第八年五月七日

海軍省中造兵司武庫司被廢候條此旨布告候事

海軍省同 八年三月三十日
當省所轄武庫司ノ儀ハ砲銃諸器械準備品等多分有之候ニ付夫々諸官員モ相備リ居候ヘトモ造兵司ノ儀

ハ別段司ヲ不置姑ラシ武庫司ニ於テ管理イタル來リ未タ諸官員モ相設ケ不申爾來廳見島製造所管省所轉被仰付候ニ付同所ノ儀モ當分武庫司ニ於テ管理イタル居候處此マ、造兵武庫兩司ノ事務合併イタシ度尤同司被廢候トモ官名相改候マテニテ諸官員ノ儀ハ從前ノ通り事務取扱候儀イタシ度此段上請仕候也

兵務課議案 八年四月二十三日

別紙造兵武庫兩司被廢度儀調査候處全官名相改メ候マテノ儀ニ付上請ノ通御許可相成可然存候因テ御達布告ノ兩案相添仰高裁候也

海軍省達 八年五月八日

本省中兵器局被置元武庫司ヲ以テ同局ト被定候事

但元造兵武庫兩司之庶務管理セシメ候事

海軍省ヨリ兵器局へ達 八年五月八日

元武庫司附屬並器械保護手ノ儀自今其局所轉被仰付候事

海軍省届 八年五月八日

當省中造兵武庫兩司被廢候旨御達相成候ニ付テハ兼テ上申仕置候通り省中ニ兵器局ヲ置候條此段御届仕候也

武庫司ヨリ海軍省へ申出 八年四月七日

- 一 庶務課 四名
 - 一 司砲課 四名
 - 一 司銃課 四名
 - 一 彈藥課 四名
 - 一 製造課
 - 一 技術掛 四名
 - 一 監業掛 四名
 - 一 倉庫掛 四名
 - 一 算計課 四名
- 右ハ今般武庫司改唱並事務等ノ儀上申ノ旨趣御座候處即今正院御伺中ノ段被仰達候統テハ從前ノ分課ニテハ不都合ハ義御座候ニ付伺濟御許可ノ末ハ本紙ノ通分課被取建造兵所出勤庶務課算計課御取本

兵器局ヲ置キ元造兵武庫兩司ノ庶務ヲ管ス

十九年一月二十九日兵務局ヲ廢ス上ニ載ス

兵器局分課ヲ定ム

九年九月海軍省內第三號通ヲ以テ兵器局事務章程ヲ定ム上ニ載ス

兵器局職制並事務章程ヲ假定ス

九年九月海軍省內第三號通ヲ以テ兵器局事務章程ヲ定ム上ニ載ス

司へ合併相成候様差向諸申出ノ義モ本司ニテ取扱致度候間御許可相成度此段申出候也

指令 八年五月九日

申出之通

海軍省達 八年六月二日

兵器局職制並事務章程之儀別冊之通假リニ相定候條爲心得此旨相達候事

(別冊)

兵器局職制並事務章程

本局ハ砲銃彈藥諸兵器等ノ製造修理及貯蓄配賦ヲ掌ル所ナリ

職制

長

- 第一條 局中ノ諸官員ヲ統督シ一切ノ事務ヲ管理ス
- 第二條 局中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ本省ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有ス
- 第三條 掌管ノ事務ヲ調理スルニ於テハ本省ニ對シテ其當否ヲ論辯スルヲ得
- 第四條 事務章程ニ照シ判決ヲ乞フノ條ハ本省ニ具狀シ專任ヲ得ルノ件ハ便宜處分ス
- 第五條 局中諸官員ノ能否勤怠ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟スルト事務ノ煩簡ヲ量リテ之ヲ増減スル等トハ審案具狀シテ本省ニ呈シ其判決ヲ乞フヘシ

屬僚

長ノ指令ヲ受ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

但長闕席ノキハ上席ノ者假リニ之カ代理スヘシ

事務章程

- 第一條 局中ノ規則ヲ改定スル事
 - 第二條 兵器諸物品ヲ製造試験シ及之ヲ配賦スル事
 - 第三條 蓄品ノ額ヲ増減スル事
 - 第四條 概額外ノ經費ヲ以テ兵器諸物品ヲ購求及修理スル事
 - 第五條 兵器諸物品ヲ外國ヘ注文スル事
 - 第六條 倉庫及屋舎等ヲ新タニ建設シ或ハ成規外ノ經費ヲ以テ修繕スル事
 - 第七條 屬僚諸員ノ進退黜陟及委任官以上ノ分課ヲ定ムル事
 - 第八條 所管ノ諸員ヲ臨時各廳ヘ出張セシムル事
 - 第九條 事務章程ノ條件ヲ増減更正スル事
- 以上各件ハ長之ヲ判案シ其要旨ヲ概記シ或ハ處置ノ法案ヲ作り本省ノ判決ヲ乞フテ然ル後施行スヘシ
- 第十條 概額内ノ經費ヲ以テ兵器及諸物品補闕及修理スル事
 - 第十一條 艦船並本部各隊等ノ闕損兵器ヲ臨時交換スル事
 - 第十二條 既成ノ倉庫屋舎等ヲ成規内ノ經費ヲ以テ修繕スル事
 - 第十三條 屬僚諸員ノ分課ヲ定メ或ハ之ヲ更替スル事
 - 第十四條 等外以下ノ屬員ヲ進退スル事
 - 第十五條 職工人夫ヲ雇入及其給金ヲ定ムル事
 - 第十六條 一月毎ニ準備品配賦品損廢品ノ詳細ナル一覽表ヲ調製シ且一年毎ニ總計一覽表ヲ調製シテ其時々之ヲ本省ヘ進呈スヘキ事
 - 第十七條 局中ノ書類ハ式様ノ如ク編纂シテ後日ノ考據ニ備フル事
 - 第十八條 局中ノ諸費ハ式様ノ如ク總計表ヲ作り一月毎ニ之レヲ本省ヘ進呈スヘキ事

八年六月海軍省記三三三第
九十三號達ヲ以テ第十四
條ヲ廢ス

- 局中事務ヲ分課スルコト左ノ如シ
 - 製造課
 - 兵器諸物品ノ製圖製作鑄造修理ヲ掌ル
 - 倉庫課
 - 兵器諸物品ノ貯藏出納ヲ掌ル
 - 庶務課
 - 往復文案記録等ノ庶務ヲ掌ル
 - 算計課
 - 物品ノ購求金錢ノ出納等ヲ掌ル
- 海軍省達 八年六月十七日
記三三三第九十三號
- 本年二月記三三三第八十二號達兵器局職制章程箇條中第十四條取除キ候條此旨相違候事

兵器局兵器検査部ヲ設
キ假約束ヲ定ム
九年十二月十二日兵器局
各課事務取扱假約束
ヲ假定ス

- 兵器検査掛假約束 八年七月三日
 - 兵器ノ點檢刻印ヲ管掌ス
 - 一諸課議定ノ節ハ之ヲ與リ聽クヘシ
 - 一諸事件悉皆局長ニ告ケ許可ヲ得テ後施行スヘシト雖モ協議スルノ際局長不在ノトキニ於テ目下ニ決
議セシムルハアヲサル事件ハ是ヲ決シテ爾後局長ニ告ケ若シ不適當ノ處分アルトキハ其責ニ任スヘシ
 - 一在來或ハ新製器具等點檢ノ節ハ故ラニ之ヲ擔當スヘシ
 - 一諸課ト協議シ兵器常備及出納等精密ニ議評ヲ經且製造品ノ可否並代價ノ高下ヲ檢閱スヘシ
 - 一諸倉庫格納ノ次序並器具ノ掃除拭磨修繕及位置混亂ナル等ヲ監視シ整正スルヲ要ス
- 兵器局ヨリ海軍省ヘ伺 八年六月二十八日

七年三月二十九日許可ノ
件ハ鐵軍ノ部ニ據ス

兵部事務章程ヲ制定
ス
別冊ハ九年九月海軍省
第三號陸軍事務章程中
ニアリ上ニ據ス

兵器局官位ヲ續綴檢須
實地檢査(出張センム
ルハ局長ノ權内ニ據ス
各局事務章程ハ九年九月
海軍省第三號陸軍事務
章程中ニ據ス

兵器局各課事務章程並
取扱約束ヲ制定ス
十三年六月二十九日制定
ス

兵器検査掛
右者當局兵器ノ備共管課ニ於テ準備出納検査等總テ取扱致來候處各課自己取調致候テハ豫備常備及製
造物其他諸器具點檢等ノ際ニ當リ彼是不都合ノ際有之候將亦七年三月二十九日御許可相成居候兵器記
章相刻候事件即今創與致候ニ付テ尙不都合候間毎分課ニテ從前取扱候手順ハ共通致置今般更ニ兵器檢
査掛御設相成毎課偏頗ナク商議致萬端盡正非常平時共御用途ハ勿論冗費等ニ至ル迄精微ニ調査イタシ
不都合無之様致度尤右等ノ事務局長專任ノ儀ニ候得共倉庫製造所目黒白金火藥庫鹿兒島縣下製造所同
敷根火藥製所等ノ各所管轄且火藥製所及火矢製造器械等道々御建營ノ儀候得者彌増多端罷成存分
ニ不行留儀モ可有之哉ト奉存候間本文、兵器検査掛被相設別紙假約束ノ通リ施行致度奉存候ニ付御許
可相成候様致度此旨伺出候也
指令 八年七月三日

海軍省ヨリ兵器局ヘ達 九年八月三十一日

今般其局事務章程別冊ノ通假定候條九月一日ヨリ施行可致候尤實地差支ノ廉等有之候ハ、増減改定可
致候條十月三十一日迄事由詳細具狀可致候隨テ從前相定候類例等矛盾ノ分ハ總テ取消ト可相心得此旨
相達候事

兵器局ヨリ海軍省ヘ伺 九年十月十一日

各局事務章程上款第二十三條文武官員ニ出張在勤ヲ命スル事ト有之候處當局之儀ハ保護手並附屬職工
等撤浪横須賀之破泊艦船ハ火藥其他之品々廻送或ハ艦船御備附之砲臺金物等修覆之儀屢有之天氣之都
合沙之干瀟等ニ依リ至急不差出者不相成儀時々出來且ツ於艦船モ受取方之都合有之旁ニ付御指令濟之
上出張爲致候而ハ實際差支之儀モ間々有之候間以來官員等外ヲ除之除外等之者横浪横須賀浦賀之三港
ニ限リ出張之儀者當局長權内ニ御任セ相成候様致度此旨伺出候也
指令 九年十月十三日

伺之通

兵器局ヨリ海軍省ヘ届 九年十二月十二日

當局事務取扱順序並各課章程別冊之通假定仕候ニ付此段御届仕候也
(別冊)

兵器局各課事務章程並取扱約束

第一章 普通ノ則

- 第一條 海軍條例及ヒ兵器局事務章程ヲ遵守踐行スヘキ事
- 第二條 各課定ノ職掌アリト雖モ事務繁忙或ハ其管課ノ人員闕ルニ及テハ互ニ相ヒ協力シテ調理スヘキ事
- 第三條 倉庫鎖鑰ノ封紙ハ庫名番號月日ヲ記シ所轄ノ官員及ヒ各課長ノ印ヲ捺シ宿直ノ官員之ヲ管掌ス闕ルニ於テハ所轄ノ官員宿直ノ官員出會シ宿直ノ官員躬親ヲ之ヲ鎖封シ開クニ於テハ前日出會セシ兩員ニテ之ヲ開封シ而テ後チ封紙ノ員數ヲ改メ一綴ニシテ課長ニ返却スヘキ事
- 第四條 目黒火藥庫ハ定番捺印シ白銀小銃庫火藥庫ハ出張ノ蓄品掛ト共ニ捺印スヘキ事
- 第五條 車船工夫ノ使役ヲ要スルニ於テハ其管課ノ官員前日若クハ前時使役スル件々ヲ記シ課長ヨリ局長ニ具申シ檢印ヲ受ケ督買掛ニ達シ雇入ル手順ヲ爲サシムヘキ事
- 第六條 但シ用馬及ヒ製造課職工ヲ要スルトキハ課長檢印ノ後チ庶務課ヘ達スヘシ
- 第七條 車船工夫ハ其需用スル管課ニ於テ事業ヲ監査シ使用帳ニ調印スヘキ事
- 第八條 諸課供用ノ雜品臨時需用スルトキハ其管課ノ官員需用ノ物品ヲ詳記シ課長ノ檢印ヲ受ケ庶務課ニ達シ其他例規ニ因テ交換等ヲ要スルトキハ直ニ雜器掛ニ達スヘキ事
- 第九條 當直宿直ノ際臨時管外ノ事故到來スルニ於テハ事ノ大小ニ從ヒ局長ニ報告シテ其指揮ヲ受ケ或ハ其管課ノ官員ニ報告シ相ヒ互ニ事務ヲ調理スヘキ事
- 第十條 宿直ハ保護手等ヲ使テ午後十時午前一時兩度倉庫ヲ巡回シ異常ヲ檢シテ宿直ノ官員ニ報告セシムヘキ事
- 第十一條 宿直ノ明且休暇ヲ乞フ者ハ出應ノ例時ヨリ一時間ヲ經テ退出スヘシ然ト雖モ同課ノ官員闕ルニ方テハ休暇ヲ許サ、ル事

海軍條例ハ九年九月海軍省
第三號陸軍事務章程ハ九
年九月海軍省第三號陸
軍事務章程中ニアリ共
ニ上ニ據ス
十一年六月十九日第三條
但書ヲ改正ス

- 第十一條 新任ノ官員拜命ノ日ヨリ二週間ヲ經テ後チ當直宿直ニ宛ツヘキ事
- 第十二條 本局官員ノ籍屬及ヒ住所轉換スルトキハ届出ヘキ事
- 第十三條 浦賀横須賀横濱三港ヘ諸官員公務派出歸府ノ上ハ其事由ヲ記載シ局長ヘ届出ヘキ事
- 第十四條 前三港ヘ保護手以下公務出張歸府ノ上ハ經過ノ時日陸行乘組等明細詳記シ其事務管掌ノ官員調査檢印ノ後庶務課ヘ届出ヘキ事
- 第十五條 長崎出張所ヘ貯蓄スル所ノ兵器出納ハ該所在勤當局官員該所長ノ指示ヲ受ケ出納所分ノ後三箇月毎ニ物品出納及ヒ經過セル事務ノ概略ヲ記載シ本局ニ報告スヘキ事
- 第十六條 鹿兒島造船所其他ヘ格納スル所ノ兵器火藥ハ本局ノ指揮ヲ受ケ出納ヲ處分シ火藥試驗表ト共ニ出納及ヒ事務ノ概略ヲ三箇月毎ニ本局ニ報告スヘキ事
- 第十七條 公私ヲ論セス物品携帶省門通過ノ節ハ豫テ主船局ヨリ受領スル所ノ通門鑑ヲ以テ證トスヘキ事
- 第十八條 官品ハ主務ノ掛リ私物ハ其課先任ノ者ヘ申出通門鑑受授スヘキ事
- 第十九條 通門鑑ヲ授與スルニ方テハ其牌紙ヘ品目局名番號年月日ヲ明記シ局名ノ下ヘ捺印シ控帳ヘ騰寫割印スヘキ事
- 第二章 倉庫ノ則
- 第二十條 倉庫ノ近傍焚火スルヲ禁シ亦烟艸ヲ喫スル等ヲ許サ、ル事
- 第二十一條 倉庫ノ内外極テ清潔ナルヲ要スヘキ事
- 第二十二條 各課ノ管掌スル庫中ヘ他人ノ出入スルヲ禁スヘキ事
- 第二十三條 一ノ倉庫ヘ各課ノ物品ヲ收藏スルニ於テハ每課ニ界隔ヲ設ケ聊カ混淆ナラサルヲ要シ相ヒ互ニ出會シテ出納及ヒ開闔等ヲ爲スヘキ事
- 第二十四條 戸扉ヲ開キ其用畢テ後チ亦施スヘキ事業アリト雖モ開放シ措ヘカラス假リニ鎖鑰ヲ下シ闔シ措クヘキ事

- 第二十五條 庫中ノ展覽ヲ請フ者アリテ局長許可スルニ於テハ其管課ノ官員是ヲ導クヘキ事
- 第二十六條 局長各庫ヲ巡視スルノ際主任ノ官員從行シ諮問ノ條件アラハ速ニ其主趣ヲ答辯スヘキ事
- 第三章 火藥庫ノ則
- 第二十七條 管掌ノ人員ヲ除クノ外一切出入スルヲ禁スヘキ事
- 第二十八條 庫中ニ入ル者劍ヲ脱カス履ヲ換ヘス及ヒ鐵器烟管等ヲ携ヘルヲ禁スヘキ事
- 第二十九條 火藥操作ニ要スル人夫及ヒ職工ハ禁止ノ物品ヲ携帶セサルヤ否ヤヲ柵外ニ於テ嚴ニ檢查シ而後チ庫内ニ入ヲ許スヘキ事
- 第三十條 目黒白銀火藥庫及ヒ其他ノ庫内ニ貯蓄スル火藥ハ年々風乾檢查スルヲ概則トスヘキ事
但シ土地ノ乾濕ニ因テ參酌アルヘシ
- 第三十一條 風乾檢查ヲ經タル火藥ハ其事由ヲ桶面ニ記載シ且試驗器械ヲ以テ藥力ヲ經驗シタル者ハ其彈力ノ強弱ヲ火藥元帳ニ記載シ併セテ年號月日及ヒ本日ノ寒暖大氣ノ輕重風向等ヲ附録スヘキ事
- 第三十二條 此作業ハ中秋以後天氣乾燥連晴ノ日ヲ撰ミ而シテ此工ヲ起スニ先タチ本省ニ具申シ該地區域内一切他人ノ入ヲ禁スヘキ事
- 第三十三條 新製或ハ再製ノ火藥ハ必ス試驗ヲ行ヒ火藥試驗表ヲ製シ局長ニ出スヘキ事
- 第三十四條 貯蓄ノ火具モ亦風乾檢查シ其可ナル者ハ再ヒ收藏シ其不可ナル者ハ再製改造ニ著手スヘキ事
- 第三十五條 風乾檢查畢ルノ後具ニ其狀ヲ記シ局長ニ報告スヘキ事
- 第四章 分課ノ則
- 第三十六條 各課長ハ該課一切ノ事務ニ擔任シ之ヲ調理スルニ臨ミ事務章程ト成規ニ照シ其當否ヲ辯明シ局長ニ告テ決ヲ仰キ檢印ヲ得テ之ヲ整理スヘキ事
- 第三十七條 該課ニ限リ決スルノ事件ハ各課長之ヲ調理スルノ後細大ヲ酌量シ局長ニ報告スヘキ事
- 第三十八條 各課長ハ課印檢印ヲ管掌スヘキ事

第三十九條 課長副課長關クルニ方テハ該課先任ノ官員之カ代理タルヘキ事

第四十條 課條ハ該課長ニ依テ判決ヲ得諸事務ヲ調理スヘキ事

但シ局長ヨリ直ニ令アルノ事業ハ此限ニ非ス

甲 庶務課

第四十一條 上申布達往復文案記録等及ヒ兵器保護手以下ノ人員竝ニ庫宅倉庫屬地等ノ事ヲ分掌シ其課務ヲ分テ三トス

理事掛 往復掛 記録掛

理事掛

第四十二條 庫宅倉庫ノ改造修理及ヒ屬地土工等ノ事ヲ管掌シ其庫宅倉庫等深ク保存ノ事ニ注意シ修理改造ヲ要スルトキハ之ヲ關係ノ各課ト協議シ或ハ各課諸掛ヨリ改造修理ヲ要求スルニ方テハ該課掛ト立會實際審査ノ上申出ヘキ事

第四十三條 庫宅倉庫修理改造及ヒ屬地土工等ノ際時々其事業ヲ巡視シ極テ粗漏ナカラシメ落成ヲ告ルトキハ精細検査スヘキ事

第四十四條 各課及ヒ諸所轄ヨリ雜品臨時需用スルトキハ之ヲ簿冊ニ記載シ局長ノ檢印ヲ得テ雜器掛ニ達スヘキ事

第四十五條 各應諸艦船及ヒ其他諸向ヨリ來談面謁ヲ要スル時ハ之ニ接對シ其事由ノ輕重ニ從ヒ局長ヘ陳述シ或ハ之ヲ主務ノ掛ニ通暢スヘキ事

第四十六條 兵器保護手附屬砲丁門番用使給仕等ヲ監督シ勤務上派出ノ順序及ヒ旅費日給加俸等ノ事ヲ受理スヘキ事

第四十七條 諸官員及ヒ保護手以下浦賀橫須賀橫濱三港ヘ公務派出スルトキハ歸府屆ヲ證トシテ旅費取調課印ヲ要シ局長ノ檢印ヲ受ケ計算課ヘ送致スヘキ事

第四十八條 本局宿直ノ順序ヲ管掌スヘキ事

往復掛

第四十九條 本省諸廳諸艦船等ニ係ル往復書類竝ニ本局各課諸所轄ヨリ進達スル事件等總テ大小ヲ論ヒス一切之ヲ授受シ領承ノ證ヲ印シ其事由ヲ調査シテ主務ノ各課ニ分賦シ其意見ヲ問ヒ併セテ之ヲ課長ニ出スヘキ事

第五十條 其各課諸所轄ヨリ進達ノ書類授受スルニ臨ミ上申ヲ要スルノ件ハ勿論局長專決ニ係ル條件ト雖モ實際行レ難キ事件或ハ成規ニ觸ル、者及ヒ文意不明瞭ナル者ハ之ヲ返附シテ訂正ヲ要スヘシ若シ可否決シ難キ事件ハ意見ヲ陳シ課長ノ判決ヲ受クヘキ事

第五十一條 本省諸廳諸艦船及ヒ本局各課諸所轄ニ係ル進達往復等百般ノ件々既ニ調理ノ上課長ヨリ受領シ各部ヘ進達配賦スヘキ事

第五十二條 布告諸達回章等ヲ授受シ之ヲ謄寫シテ各課及ヒ諸所轄等ヘ通達スヘキ事
但シ艦船碇泊ノ位地回港等ノ回章ヲ授受スレハ直ニ艦船碇泊揭示牌ヲ轉換スヘシ

第五十三條 局長ノ命或ハ課長ノ指示ニ依テ上申諸達屆其他各局諸廳諸艦船等ノ往復文案ヲ草シ之ヲ課長ニ出スヘキ事

記録掛

第五十四條 上申諸達屆其他諸往復文書ヲ謄寫シ記號番號ヲ附シテ課長ニ出シ其原稿ハ各部ニ集綴スヘキ事

第五十五條 布告布達日誌及ヒ上申諸往復文書ノ部類ヲ分チ日月番號ノ順序ヲ正シ遺漏ナク集綴シ其他諸記録ヲ整頓スヘキ事

第五十六條 毎月初前月上申照會ノ書集ヲ點檢シ指令回答未濟ノ分ハ各部毎ニ番號日月及ヒ其大意ヲ摘採シ局長課長認了ノ印ヲ得テ其書集月末ノ部ニ綴入シ爾後指令回答ノ分ハ消除スヘキ事

第五十七條 書籍圖表等ヲ管掌シ書目ヲ整備シ出納ヲ檢スヘキ事

第五十八條 局員ノ奉職履歷職員錄宿所附及勤怠簿ヲ管シ調理改正スヘキ事

第五十九條 條例章程及ヒ兵器局事務章程等ヲ整備シ新任諸員へ遺漏ナク展觀セシムヘキ事
乙 倉庫課

第六十條 兵器彈藥諸物品ノ検査貯藏配賦出納等ヲ分掌シ其課務ヲ分テントス
検査掛 蓄品掛

検査掛

第六十一條 兵器ノ點檢及ヒ刻印ヲ管掌スヘキ事

第六十二條 兵器點檢ノ際ニ於テハ故ニ之ヲ擔當シ製作ノ善惡尺度重量ノ正否及ヒ價ノ過不及等ヲ監
查スヘキ事

第六十三條 製造完成ノ兵器製造課ヨリ送輸スルニ於テハ可否及ヒ員數等ヲ検査シ接受ノ後海軍ノ微
章及ヒ番號ヲ刻スヘキ事

第六十四條 艦船竝ニ諸隊ノ多寡ニ應ジ常備豫備ノ計度ヲ設ケ蓄品掛ト協議シテ損廢闕乏ナキヲ要ス
ヘキ事

第六十五條 兵器現在竝ニ授與及ヒ貸與等ノ簿冊へ各品ノ員數及ヒ代價竝ニ數價ノ合計ヲ細記スヘキ
事

第六十六條 武庫ニ現存スル兵器竝ニ艦船諸隊常備豫備ノ兵器一覽表ヲ設ケ代價及ヒ出納ヲ分明ナラ
シムル爲ニ毎月末表面ヲ改竄明記シ課長ヲ經テ局長ニ出スヘキ事

第六十七條 諸向ヨリ兵器ノ請求及ヒ本省指令ノ書類庶務課ヨリ達スルニ於テハ申出留ニ物品年月番
號等逐一ニ騰寫シ其記載シタル者ノ印ヲ捺シ而テ後原書ハ該課へ返却スヘキ事

第六十八條 諸向ノ請求ニ因テ目途ヲ諮問アルニ於テ施爲スル所ノ見込ヲ記シテ課長ノ檢印ヲ受ケ庶
務課ニ出スヘキ事

第六十九條 諸向へ兵器ヲ授與スルニ至テハ牌符ヲ製シ其檢印番號ト授與スヘキ品目及ヒ員數ヲ細記
シ課長ノ檢印ヲ受ケ局長ニ出シ申出留ト割印ヲ得テ蓄品掛へ達シ該掛ヨリ本品ヲ輸送スルノ期ニ臨

十一年十二月十二日第六
十三條ヲ改正ス

ミ尙精密ニ可否及ヒ員數ヲ檢關スヘキ事

第七十條 諸向請求ノ兵器闕乏スルニ於テハ蓄品掛ト商議シ製造或ハ購求スル目的ヲ爲シ局長ノ檢印
ヲ受ケ製造課或ハ督買掛ニ達シ補闕ノ手順ヲ施スヘキ事

蓄品掛

第七十一條 兵器竝ニ屬具彈藥ノ出納及ヒ保護ヲ管掌スヘキ事

第七十二條 兵器掃除及ヒ其他ノ操作ヲ要スルトキハ管課ノ一員是ヲ監督スヘキ事

第七十三條 該掛ノ一名一週間ツ、白銀火藥庫ニ出張シ小銃ノ掃除等ヲ管理スヘキ事

第七十四條 兵器格納ノ末或ハ鏽ヲ生シ或ハ壞敗ニ至ル等ノ事勿キヲ要スヘキ事

第七十五條 兵器掃除及ヒ操作ノ事業ヲ保護手砲丁等へ指示スヘキ事

第七十六條 検査掛ヨリ達スル兵器ヲ出納スルニ於テハ局長檢印ノ牌符ヲ證トシテ輸送スル爲ニ要ス
ル車船人夫監守者等ヲ牌符ニ裏書シ局長ニ出シ車船人夫申出帳ニ割印ヲ受ケ關係ノ各課ニ送致シ認
了ノ證ヲ得ヘキ事

第七十七條 兵器授與帳ハ諸向ヲ合卷セス各別ニ設ケ運搬ニ方テ其物品ヲ明細ニ記シ其事務ニ管セル
官員調印シ監守者ヲ附屬シテ輸送シ接受セシ人員ノ證印ヲ該帳ニ捺スルヲ要ス而テ後授與シ畢タル
ヲ検査掛ニ達スヘキ事

第七十八條 検査掛ヨリ達スル諸向へ授與スヘキ兵器貯蓄ノ闕乏アルトキハ該掛へ商議スヘキ事

第七十九條 新製ノ物品検査掛調査畢テ庫入スルヲ達セラル、ニ於テハ更ニ可否及ヒ損壞竝ニ員數等
ヲ尙検査シ不真ノ物品等アルニ於テハ該掛ニ返附シテ良善ナル品ノミ格納スヘキ事

第八十條 各庫貯蓄ノ兵器各出納帳ヲ設ケ現品ノ多寡及ヒ出納ノ分明ナルヲ要スヘキ事

第八十一條 春季一回局長竝ニ検査掛ト現品本帳ニ照準シ検査スヘキ事

第八十二條 諸向ヨリ返納ノ兵器廢物ニ屬スル物品ハ検査掛ニ商議シ品目ノ數竝ニ原價ヲ記シ課長ニ
出スヘキ事

十一年六月十九日第八十
一條ヲ改正ス